

2022年度
大学・短期大学
保健体育教育実態調査報告書

2022年度 大学・短期大学 保健体育科目教育実態調査報告書

目 次

まえがき (全国大学体育連合 調査部長)	2
1. 調査概要.....	3
2. 回答大学・短期大学の比率.....	3
3. 大学・短期大学における学部数について.....	4
4. 教養保健体育の授業担当教員数について.....	6
5. 教養保健体育の専任教員の所属について.....	12
6. 実技科目の開講状況(必修科目として)	14
7. 講義科目の開講状況(必修科目として)	16
8. 演習(実技+講義)科目の開講状況(必修科目として)	18
9. 実技科目の開講状況(選択科目として)	20
10. 講義科目の開講状況(選択科目として)	22
11. 演習(実技+講義)科目の開講状況(選択科目として)	24
12. 体力テストの実施.....	26
13. 体力テストの実施種目	28
14. 体力テストを実施する上での課題・問題点について.....	30
15. 体力テストの活用について	32
16. 身体的障害を持った学生への対応について.....	34
17. 精神的障害を持った学生への対応について.....	36
18. TA制度や助手制度について.....	38
19. 授業評価について.....	40
20. ユニークなスポーツ・体育・健康関連の授業の実践例について.....	42
21. 保健体育教員が組織として実施・参加しているFDプログラムについて	43
22. スポーツ推薦・強化指定クラブの制度について	45
23. 2020年度(前期)のコロナ禍の授業形態について.....	47
24. 2020年度(後期)のコロナ禍の授業形態について.....	49
25. 2021年度(前期)のコロナ禍の授業形態について.....	51

26. 2021年度（後期）のコロナ禍の授業形態について.....	53
27. 2022年度（前期・後期）のコロナ禍の授業形態について.....	55
資料 調査質問用紙.....	58

まえがき

公益社団法人全国大学体育連合（以下、本連合）では、1995（平成7）年から定期的に保健体育教育実態調査を実施している。この調査の目的は、大学・短期大学のカリキュラム改革が保健体育科目にどのような影響を及ぼしているかを把握し、その情報を本連合会員校に提供することである。

今回の2023（令和元）年度については、実態調査を対象とした2022年は、コロナ禍以降であり、教育を取り巻く環境は大きく変化した。今後は、これらの変化を踏まえ、新しい時代に求められる教育の形を模索していく必要があると考える。オンライン授業の利点を活かし、効果的な教育方法の開発が進められている。オンライン授業と対面授業を組み合わせたハイブリッド型授業や、個別学習に適したオンライン教材の開発などが進められている。さらに、思考力や問題解決のための能力が求められている。今後はさらに、ICT技術の活用も進んでいくこととなり、オンライン授業やAI教材など新しい学習ツールを活用することで、より効果的な授業が可能となる。保健体育教育実態調査が大学における体育・スポーツ教育のあり方についての今後の参考となり、大学における体育・スポーツに関するオンライン教材の開発や教員のICTスキルアップのための一助になれば幸いである

今回の調査の特徴は、以下の通りである。

- ① 各大学におけるカリキュラムの状況を把握するための教育実態調査と体力テストに関する調査は、質問項目を簡素化し、これらを統合した形式で実施した。
- ② アンケート調査の回答は、全てWebを利用して回収した。
- ③ アンケート調査結果は、公益社団法人 全国大学体育連合 HPで公開する。

今回の調査では、92校の大学・短期大学からの回答が得られた。最後に、ご多忙の中、貴重な時間を頂き調査にご協力頂いた皆様に深く感謝申し上げます。

2024年6月10日

公益社団法人 全国大学体育連合 調査部
部長 白川 哉子

1. 調査概要

本調査は、2023（令和5）年7月13日～8月21日、本連合会員校269校（調査時）を対象として、メールおよびHPからの広報にて調査の協力を依頼し、webを利用したオンライン調査により回答を回収した。国公立大学22校、私立大学66校、国公立短期大学0校、私立短期大学4校、大学校0校の合わせて92校から回答が得られた。

調査は、大学の規模および担当教員に関する項目、非常勤教員の契約に関する項目、保健体育科目に関する項目、体力測定に関する項目、授業評価に関する項目、FDプログラムに関する項目、スポーツ推薦・強化クラブに関する項目、コロナ禍の授業実施方法に関する項目について、設問等を設定し実施した。

過去の調査における同じ質問項目の結果については、2005年度・2010年度・2013年度・2016年度・2019・2022年度の比較を掲載した。

2. 回答大学・短期大学の比率

2022年度調査回答の得られた大学・短期大学は、国公立大学 22 校（25.0%）、私立大学 66 校（68.8%）、私立短期大学 4 校（6.3%）の合計 92 校であった（図 1）。

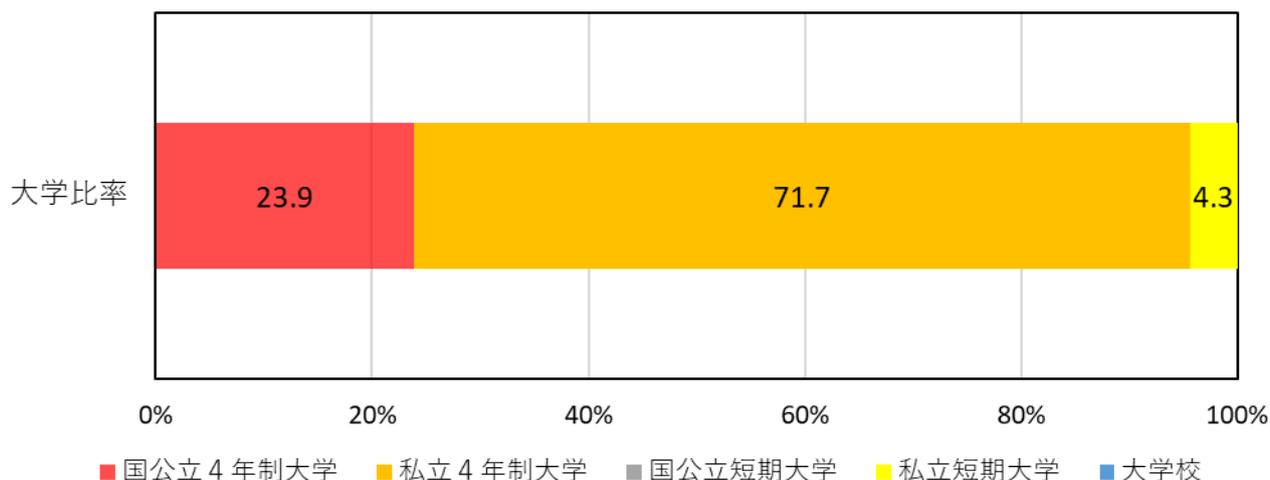


図 1 回答大学・短期大学の比率

3. 大学・短期大学における学部数について

大学・短期大学における学部数と割合について、全体、国公立大学、私立大学、私立短期大学ごとに図2に示した。

国公立大学では、3～4学部、5～9学部、10～15学部が同率で多く5校（22.7%）であった。私立大学では、5～9学部が22校（33.3%）で最も多く、学部数が最も多い範囲は21学部以上で1校（1.5%）であった。短期大学では、3～4学部が3校（75.0%）で、1学部が1校（25.0%）であった。

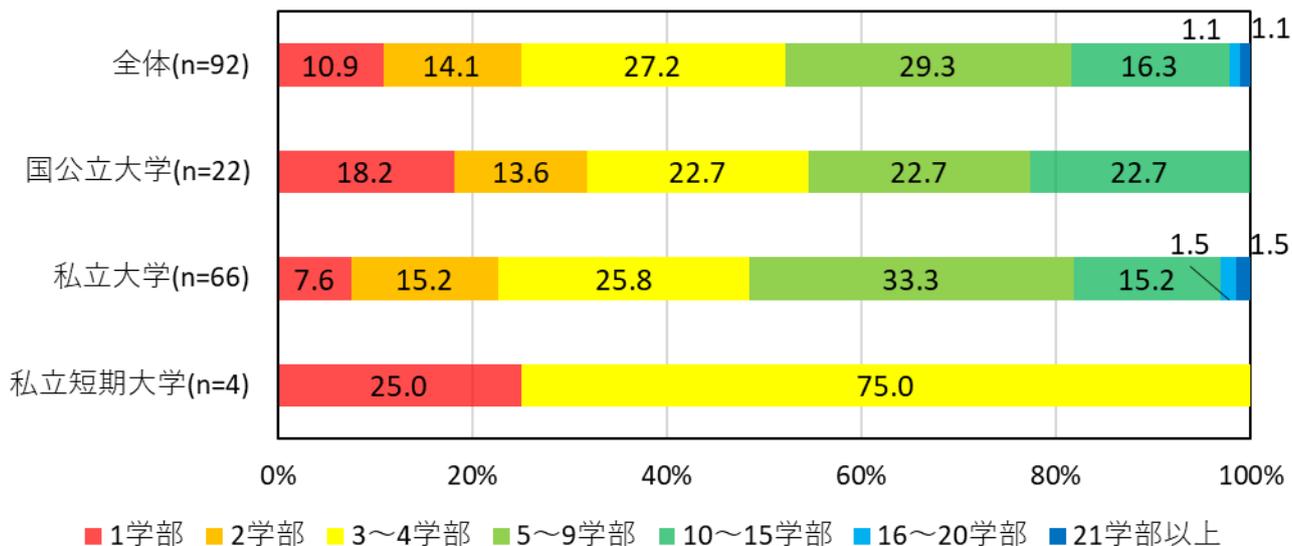


図2 大学・短期大学における学部数

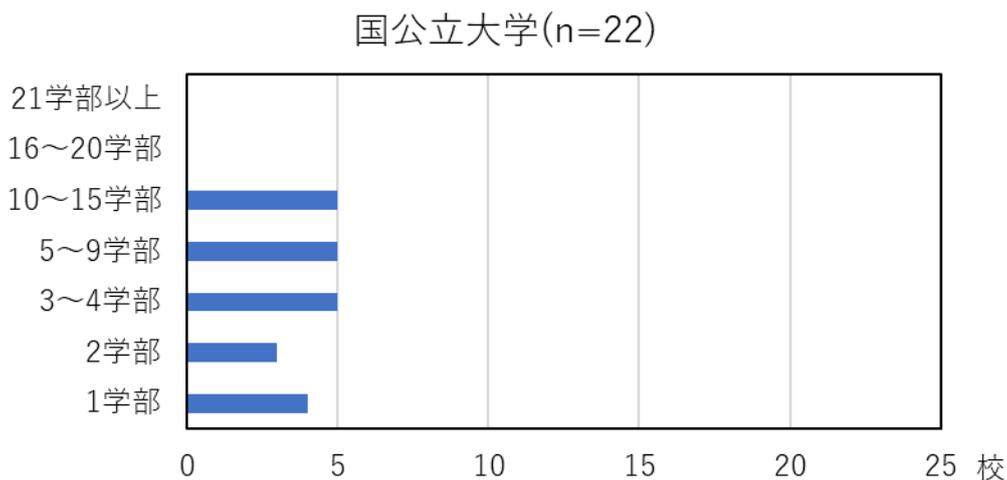


図2-1 大学・短期大学における学部数

私立大学(n=66)

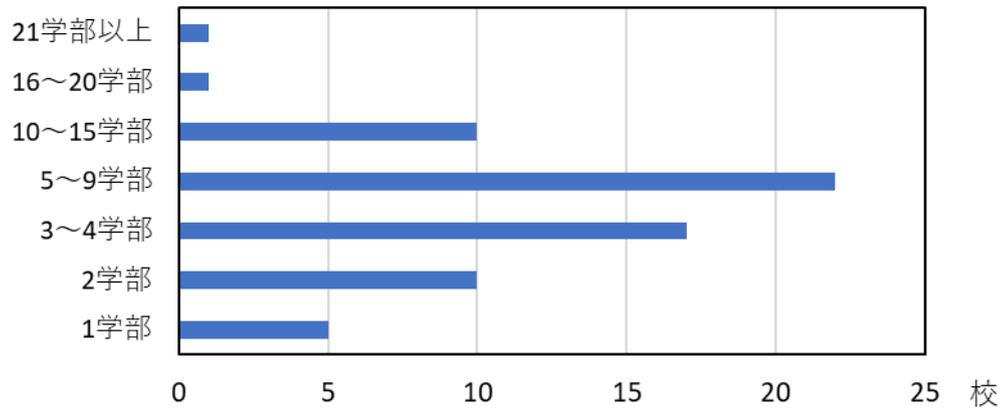


図 2-2 大学・短期大学における学部数

私立短期大学(n=4)

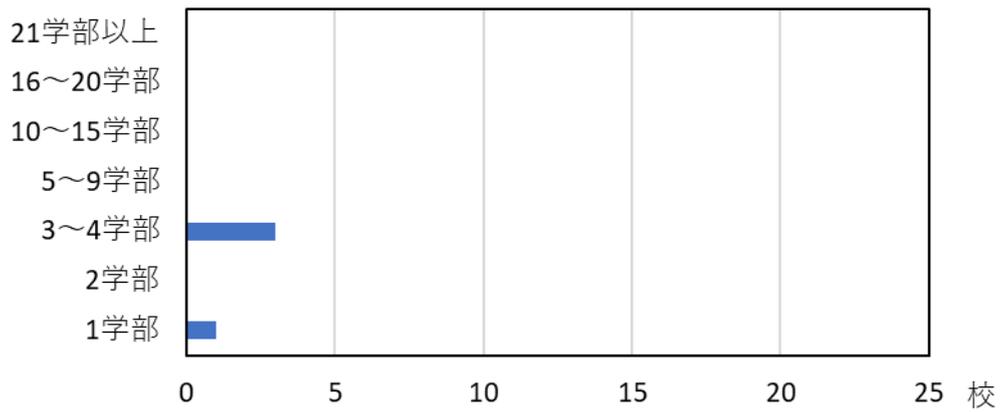


図 2-3 大学・短期大学における学部数

4. 教養保健体育の授業担当教員数について

(専任教員数)

大学・短期大学における教養保健体育の授業を担当している専任教員数について、全体、国公立大学、私立大学、私立短期大学ごとに図3に示した。

国公立大学では、5～9人の範囲が最も多く10校(45.5%)であった。私立大学でも5～9人の範囲が最も多く23校(34.8%)であった。短期大学では、2人の範囲が最も多く3校(75.0%)であった。

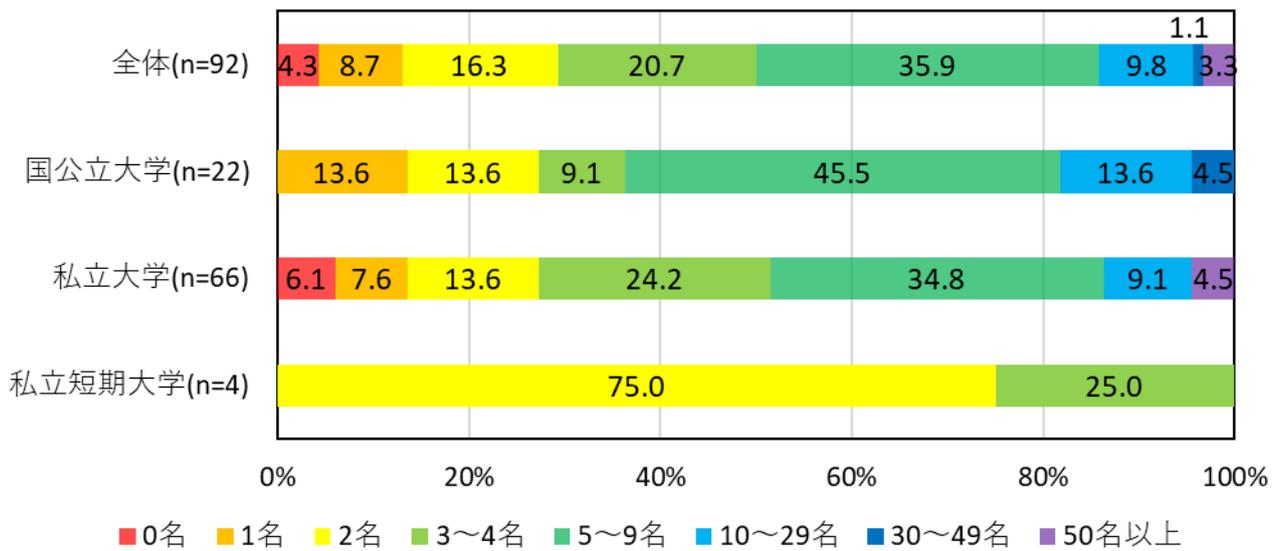


図3 専任教員数

国公立大学(n=22)

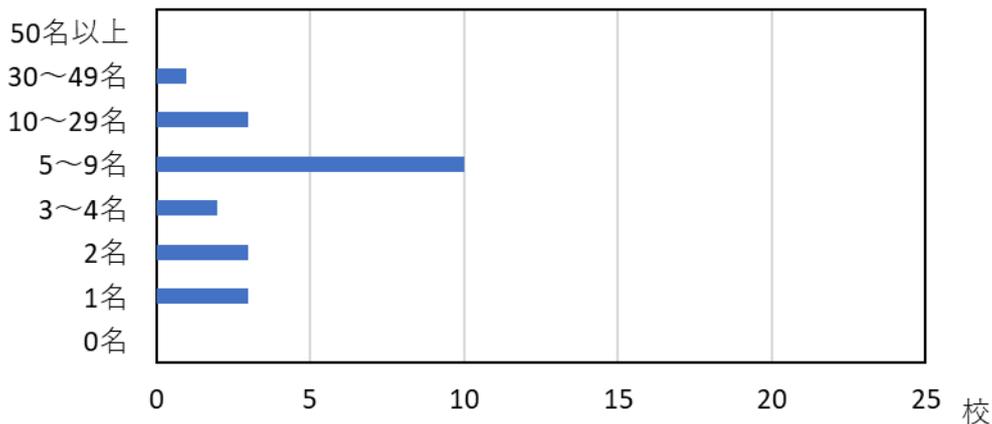


図3-1 専任教員数

私立大学(n=66)

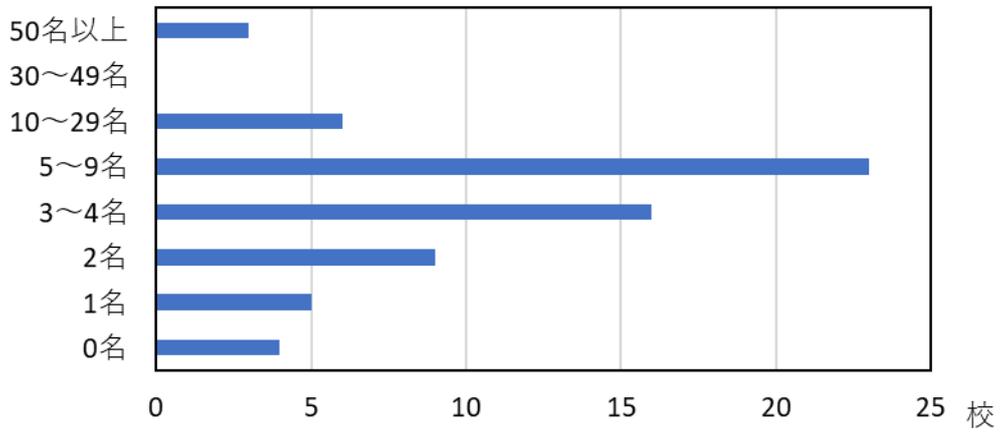


図 3-2 専任教員数

私立短期大学(n=4)

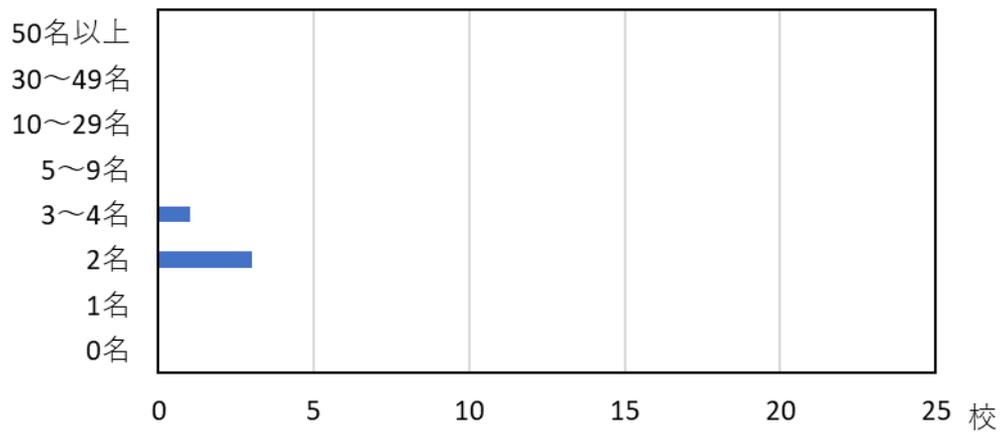


図 3-3 専任教員数

(非常勤講師数)

大学・短期大学における教養保健体育の授業を担当している非常勤講師数について、全体、国公立大学、私立大学、私立短期大学ごとに図4に示した。

国公立大学では、5～9名の範囲が最も多く8校(36.4%)であった。私立大学(66校)では、10～29人の範囲が最も多く18校(27.3%)であった。短期大学(4校)では、2名の範囲が最も多く3校(75%)であった。

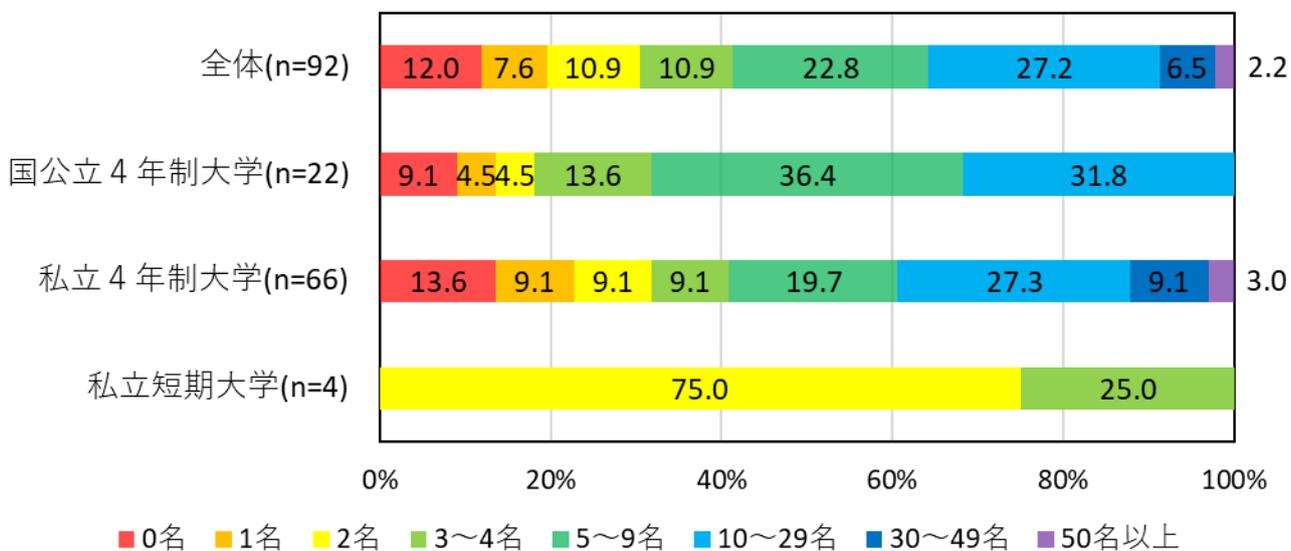


図4 非常勤講師数

国公立大学(n=22)

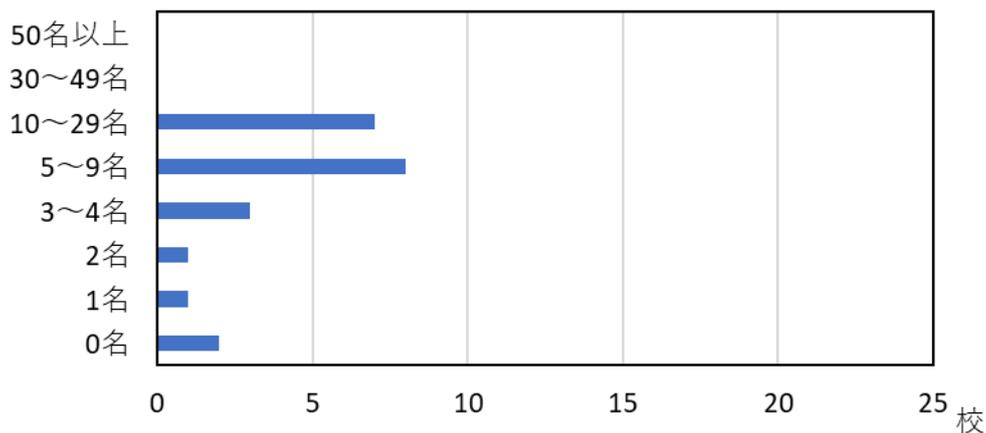


図4-1 非常勤講師数

私立大学(n=66)

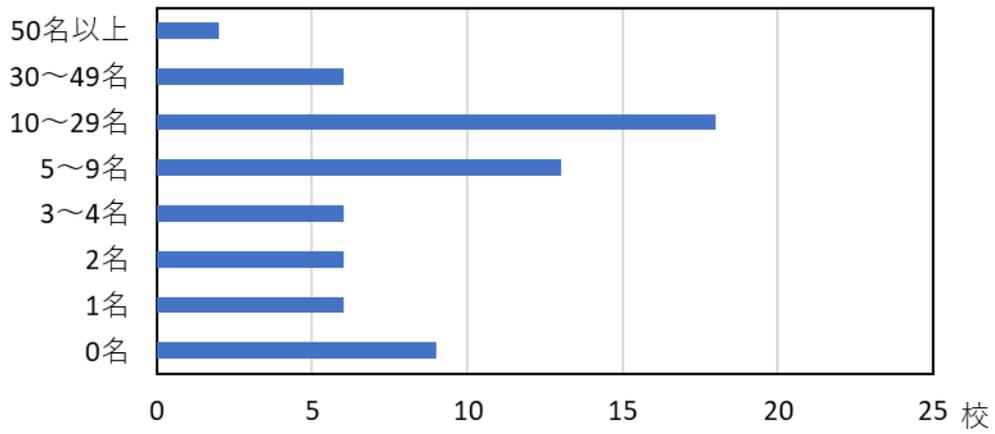


図 4-2 非常勤講師数

私立短期大学(n=4)

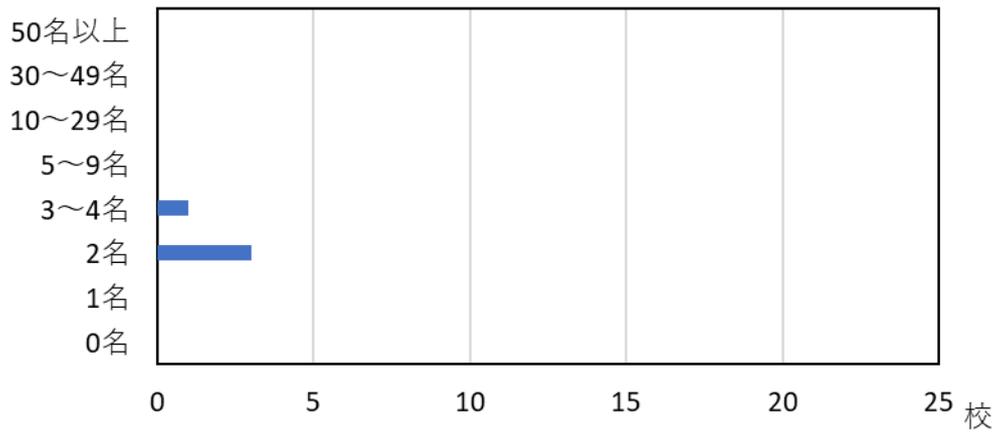


図 4-3 非常勤講師数

(特任・嘱託教員数)

大学・短期大学における教養保健体育の授業を担当している特任・嘱託教員数について、全体、国公立大学、私立大学、私立短期大学ごとに図5に示した。

国公立大学(22校)、私立大学(66校)、短期大学(4校)における特任・嘱託教員は、92校のうち80%以上の大学で0人であった。

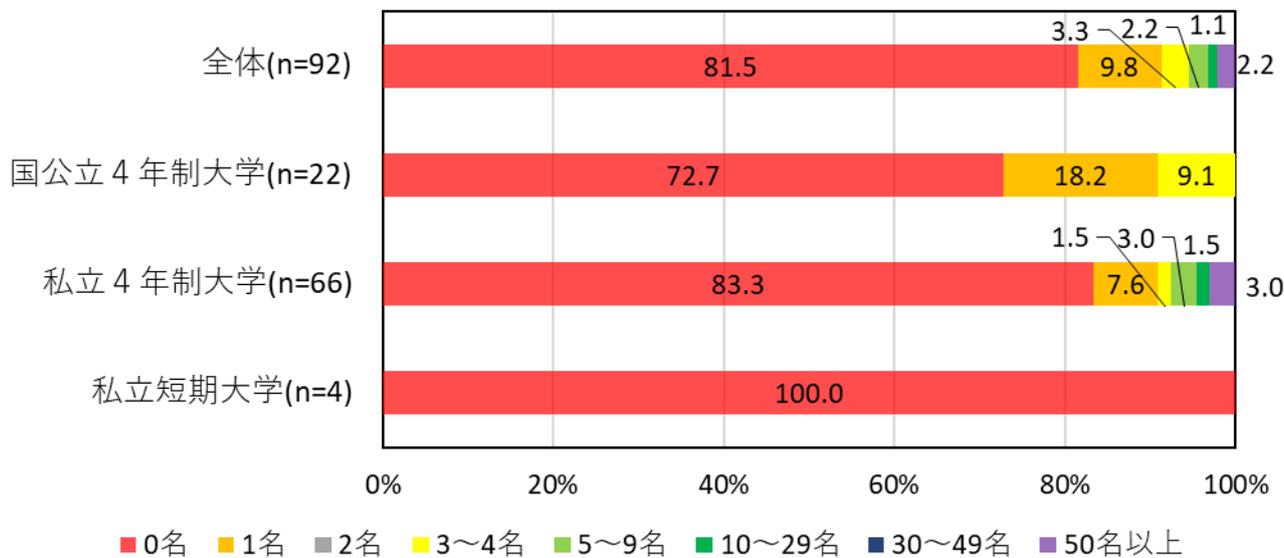


図5 特任・嘱託教員数

国公立大学(n=22)

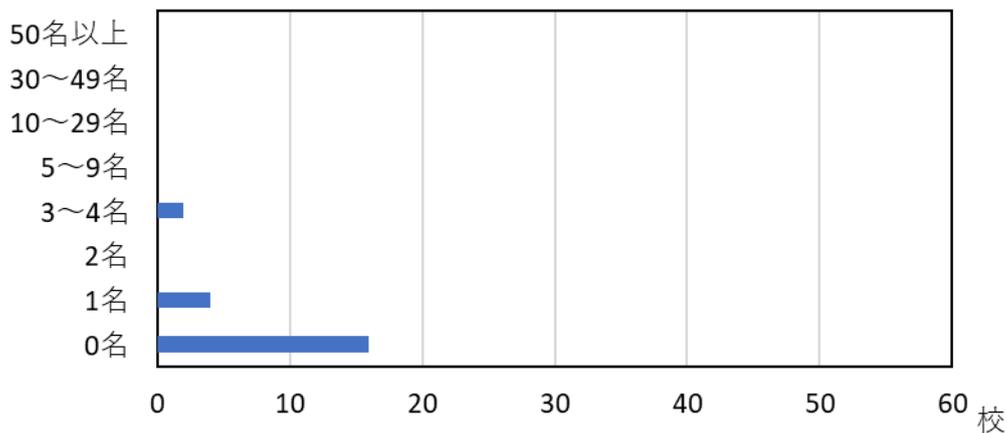


図5-1 特任・嘱託教員数

私立大学(n=66)

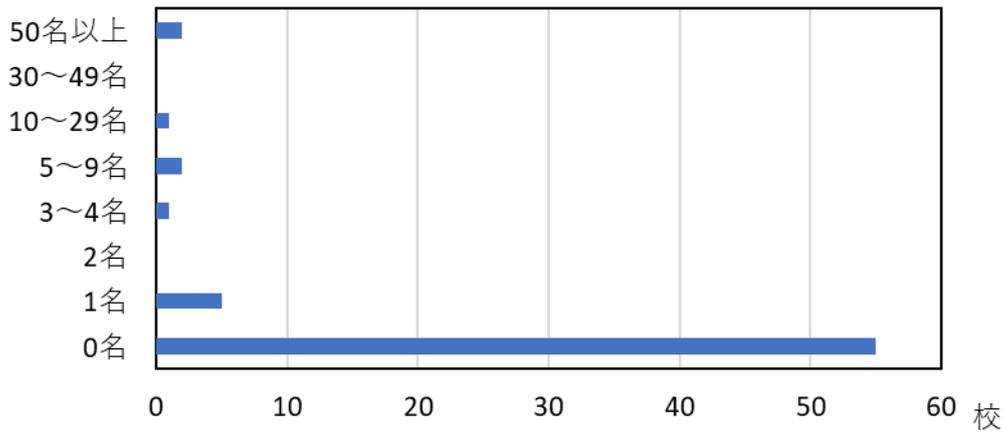


図 5-2 特任・嘱託教員数

私立短期大学(n=4)

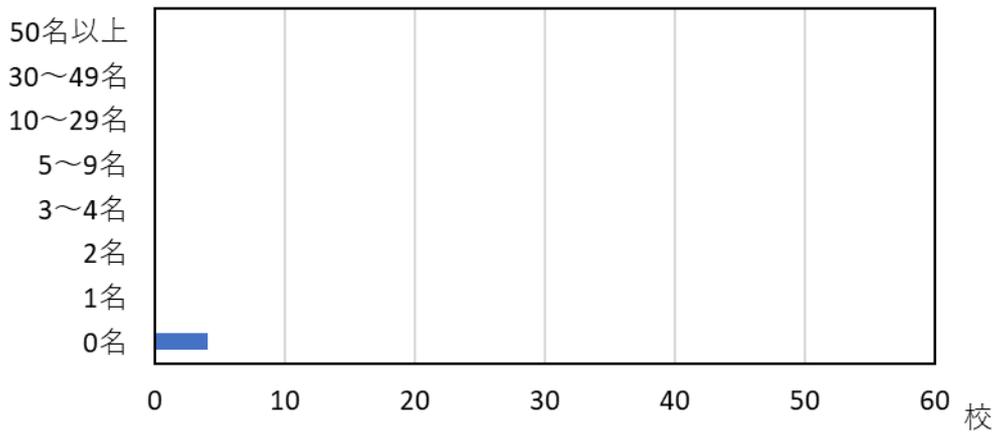


図 5-3 特任・嘱託教員数

5. 教養保健体育の専任教員の所属について

大学・短期大学における教養保健体育の専任教員数について、全体、国公立大学、私立大学、私立短期大学ごとに図6に示した。

全体では、「学部・学科・研究室、センターなど1つの組織に教員が所属している」が43校(46.7%)、「各教員が、学部等に分散して所属している」が39校(42.4%)、「その他」が10校(10.9%)であった。

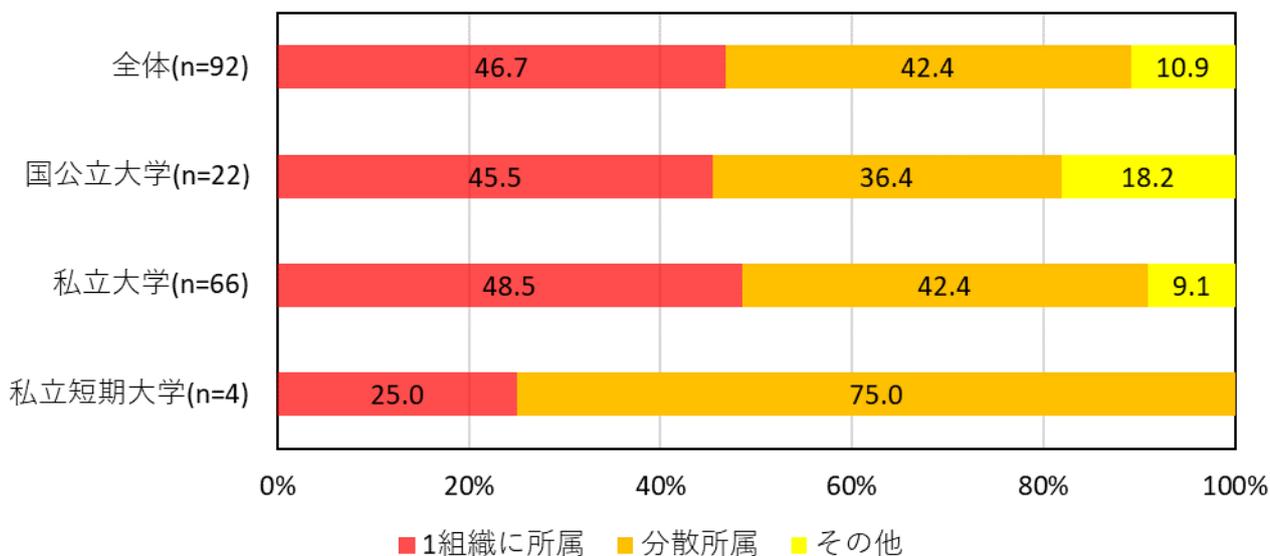


図6 専任教員の所属

国公立大学(n=22)

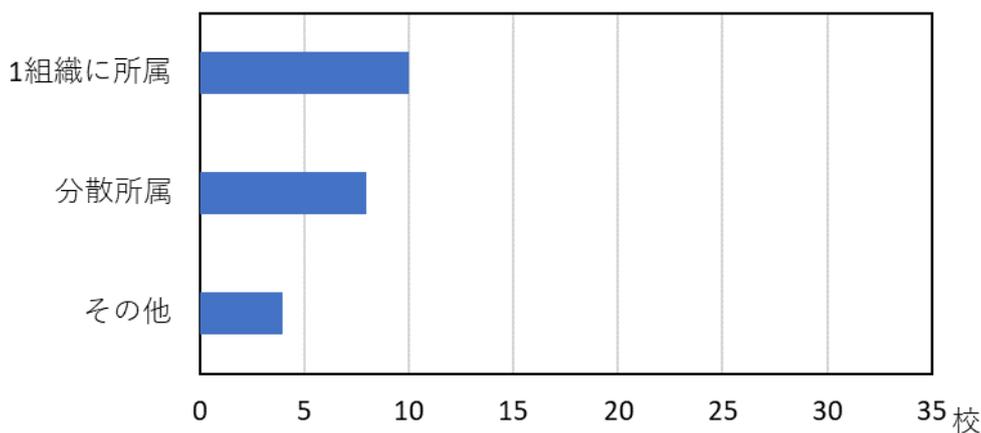


図6-1 専任教員の所属

私立大学(n=66)

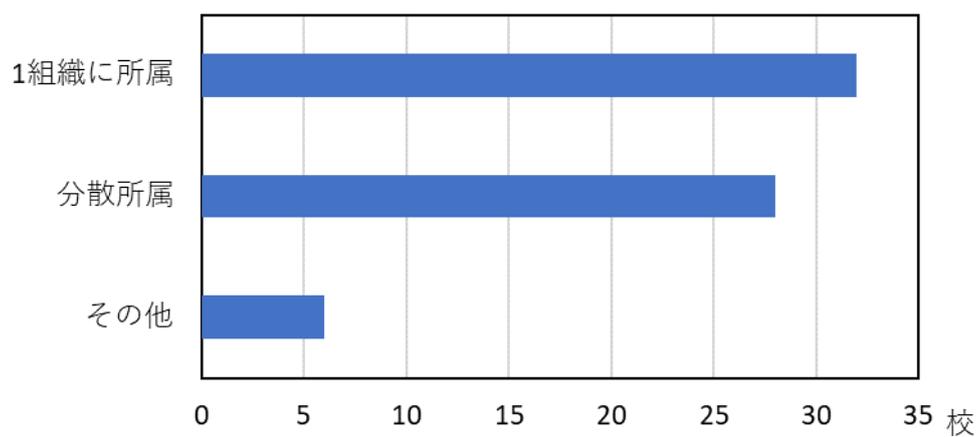


図 6-2 専任教員の所属

私立短期大学(n=4)

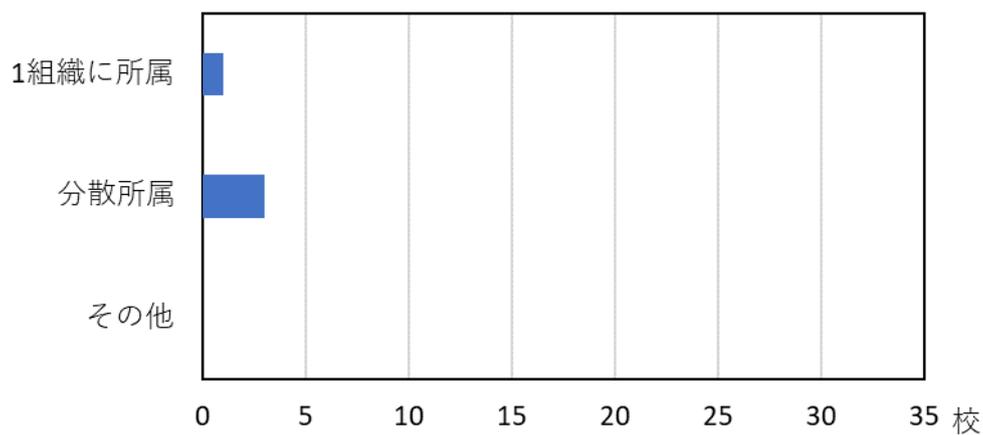


図 6-3 専任教員の所属

6. 実技科目の開講状況（必修科目として）

スポーツ・体育・健康関連の「実技科目が必修科目として開講されているか」について、全体、国公立大学、私立大学、私立短期大学ごとに図7に示した。

全体では、「全学で必修」として開講しているのは25校（27.2%）、「一部で必修」として開講しているのは30校（32.6%）、「必修ではない」は37校（40.2%）であった。国公立大学では「全学で必修」として開講しているが一番多く8校（36.4%）であった。私立大学では「必修ではない」が一番多く29校（43.9%）であった。短期大学では、「一部で必修」が一番多く、2校（50.0%）であった。

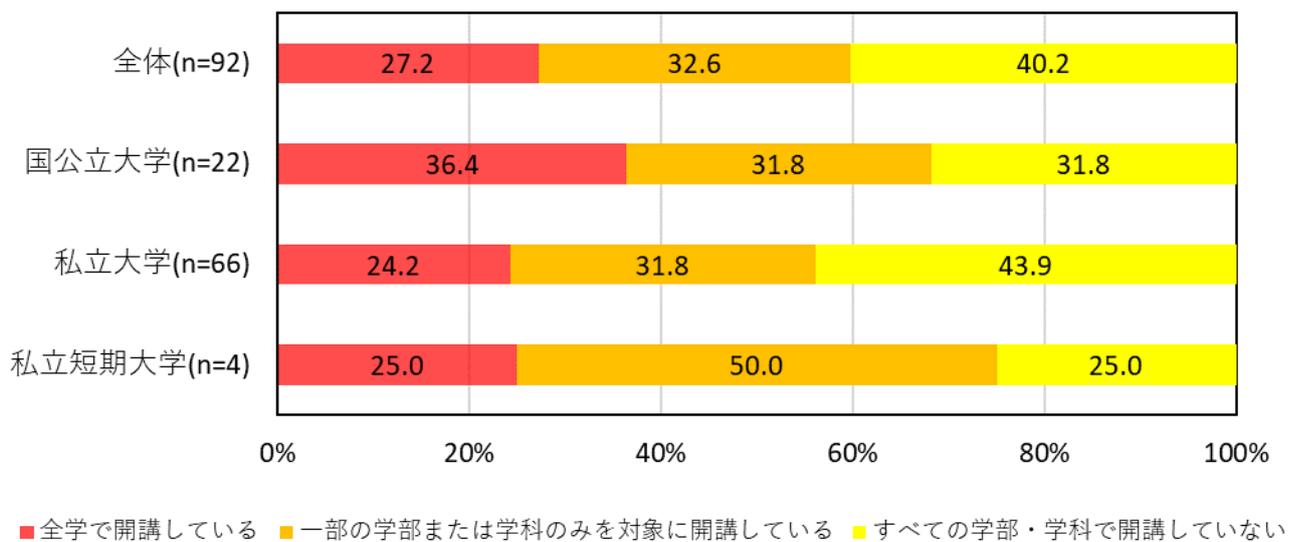


図7 実技の開講状況（必修科目として）

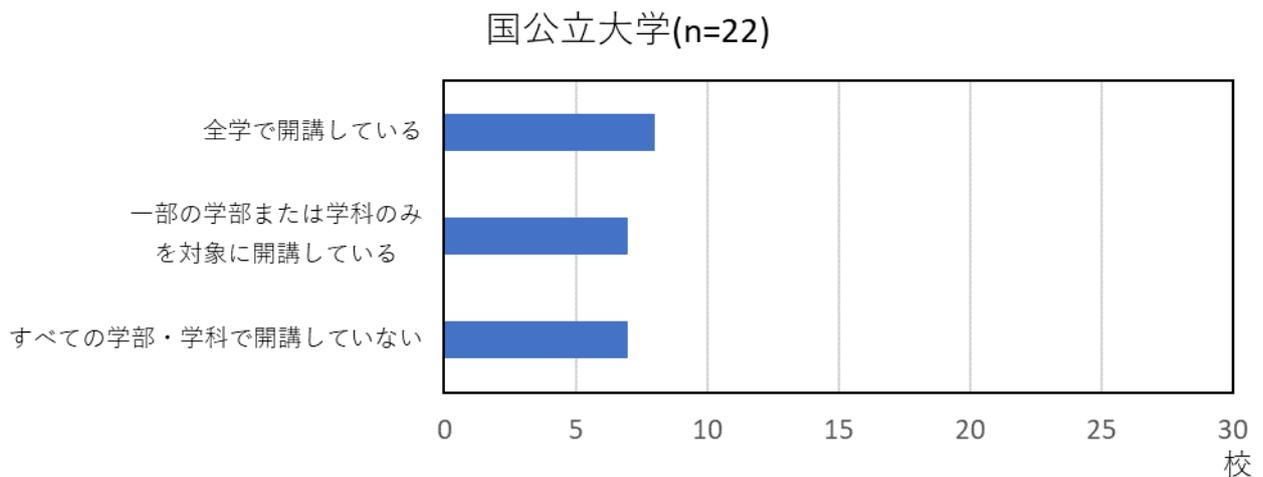


図7-1 実技の開講状況

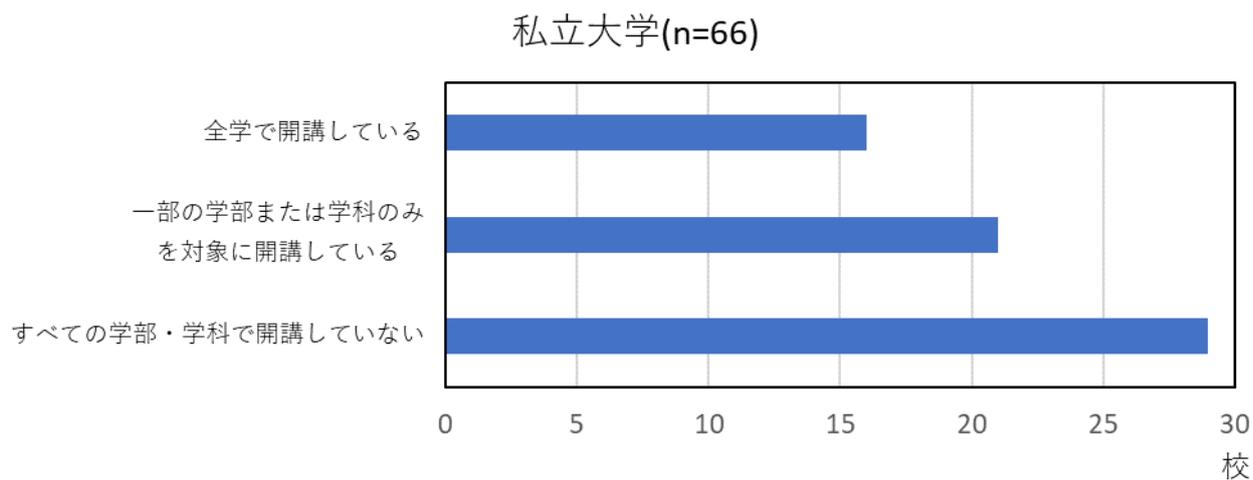


図 7-2 実技の開講状況

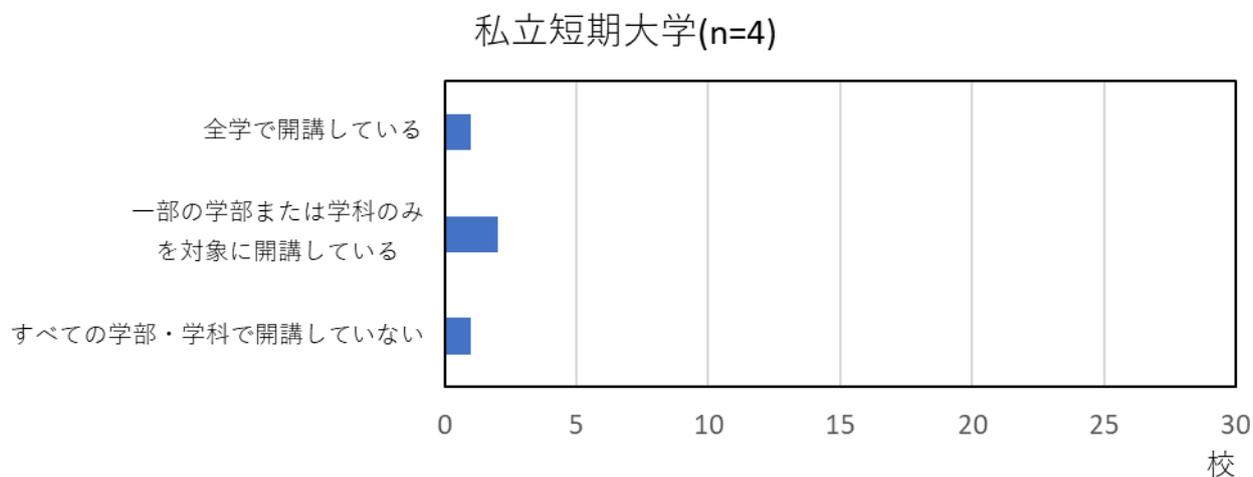


図 7-3 実技の開講状況

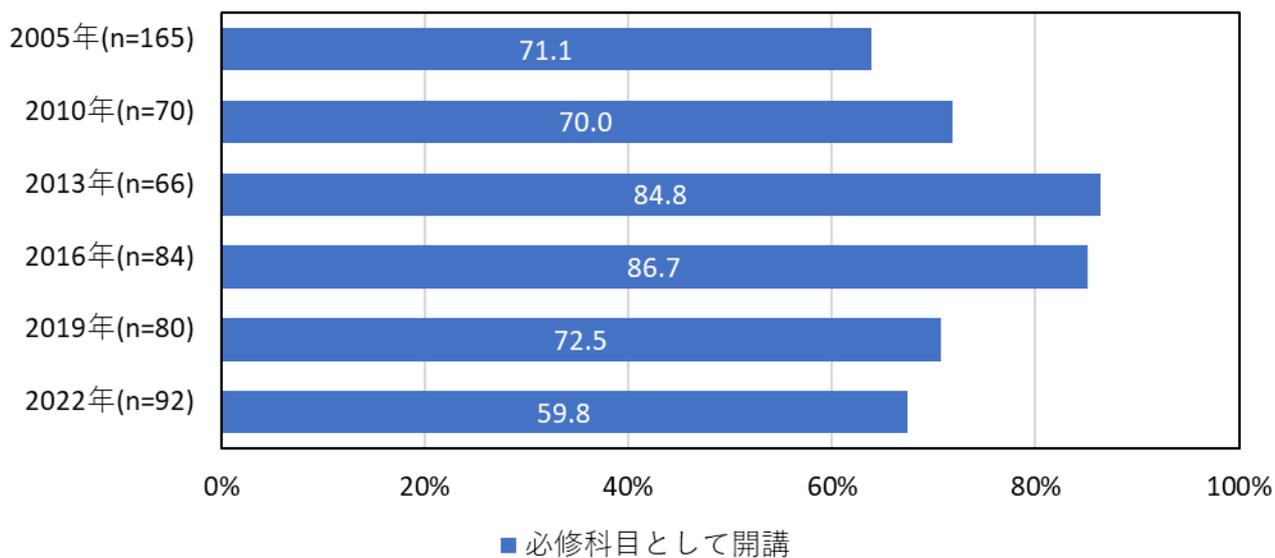


図 7-4 実技の開講状況(経年比較)

7. 講義科目の開講状況（必修科目として）

スポーツ・体育・健康関連の「講義科目が必修科目として開講されているか」について、全体、国公立大学、私立大学、短期大学ごとに図8に示した。

全体では、「全学で必修」として開講しているのは12校（13.0%）、「一部で必修」として開講しているのは33校（35.9%）、「必修ではない」は47校（51.1%）であった。国公立大学では「必修ではない」が一番多く11校（50.0%）であった。私立大学でも「必修ではない」が一番多く35校（53.0%）であった。短期大学では、「一部で必修」が一番多く2校（50.0%）であった。

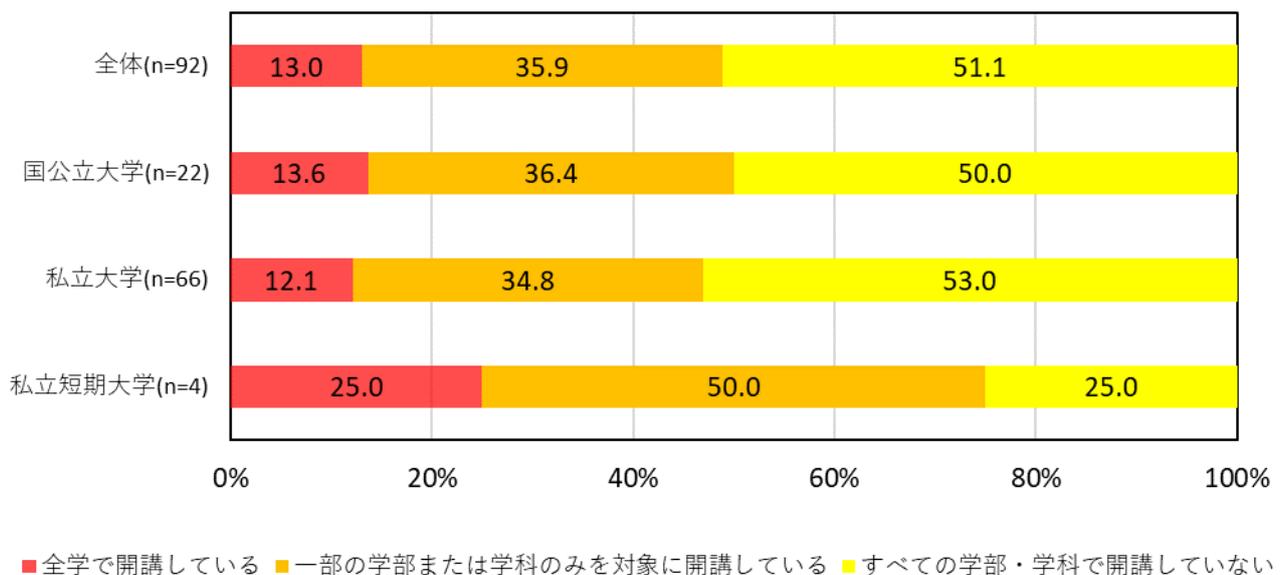


図8 講義科目の開講状況（必修科目として開講）

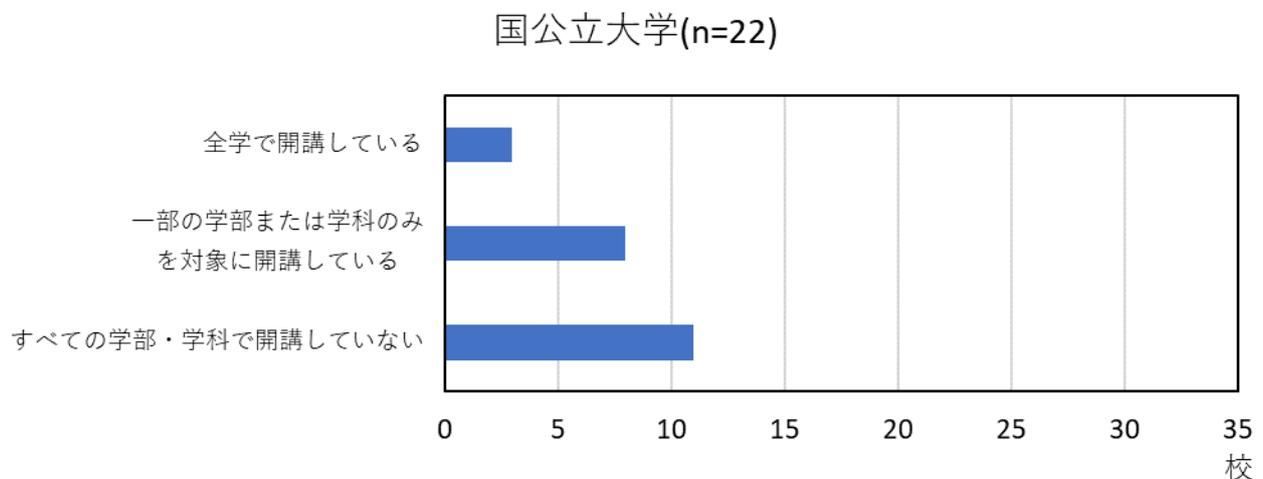


図8-1 講義科目の開講状況

私立大学(n=66)

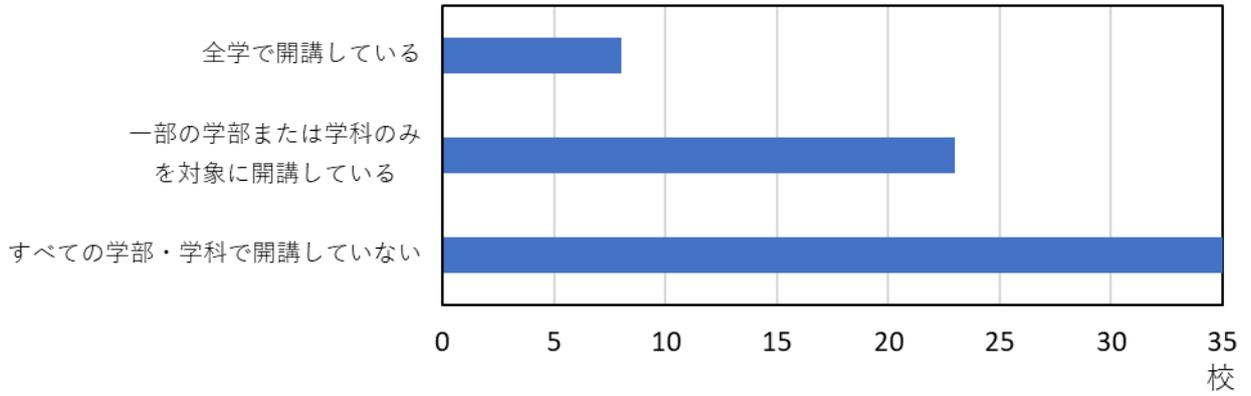


図 8-2 講義科目の開講状況

私立短期大学(n=4)

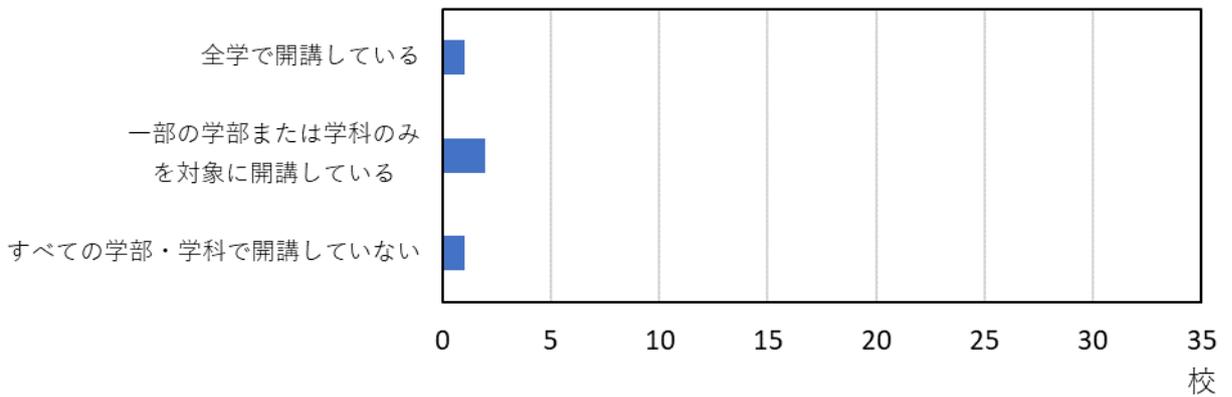


図 8-3 講義科目の開講状況

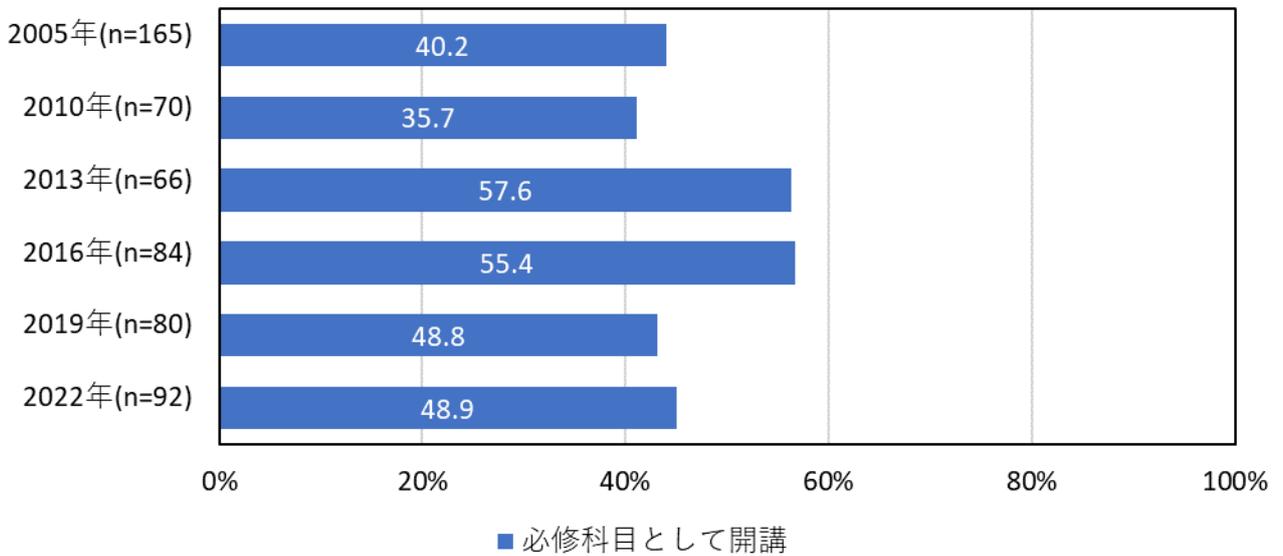


図 8-4 講義科目の開講状況（経年比較）

8. 演習（講義＋実技）科目の開講状況（必修科目として）

スポーツ・体育・健康関連の「演習科目が必修科目として開講されているか」について、全体、国公立大学、私立大学、短期大学ごとに図9に示した。

全体では、「全学で必修」として開講しているのは13校（14.1%）、「一部で必修」として開講しているのは24校（26.1%）、「必修ではない」は55校（59.8%）であった。国公立大学、では「必修ではない」が一番多く15校（68.2%）であった。私立大学でも「必修ではない」が一番多く38校（57.6%）であった。短期大学でも「必修ではない」が一番多く2校（50.0%）であった。

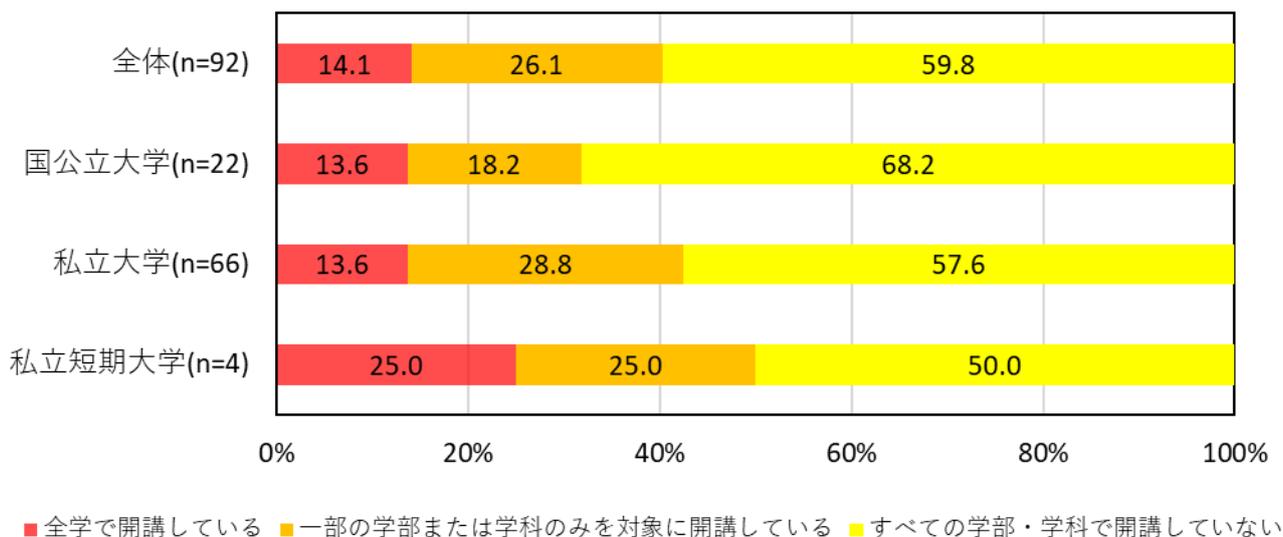


図9 演習科目の開講状況（必修科目として開講）

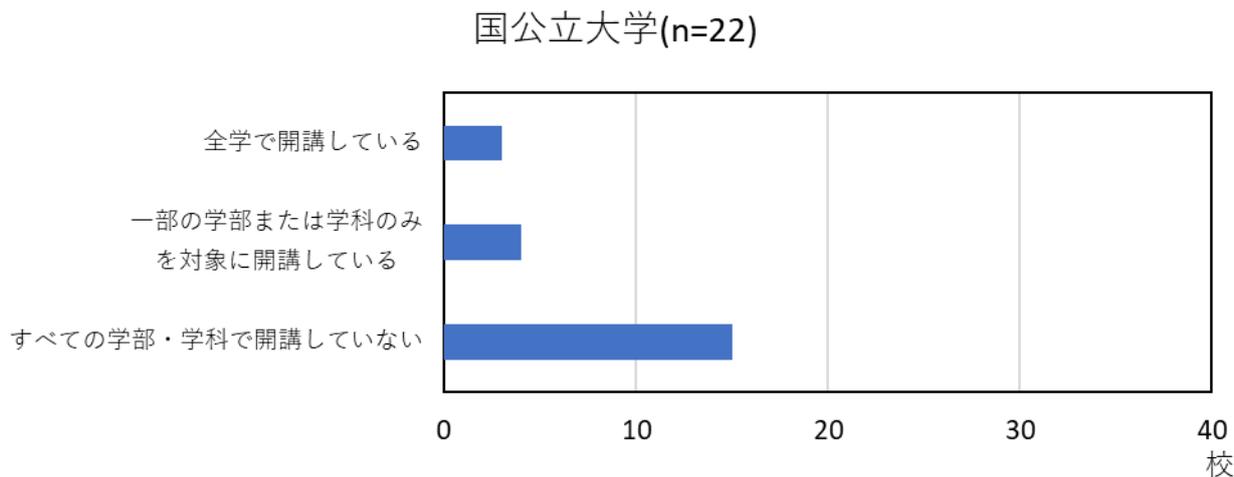


図9-1 演習科目の開講状況

私立大学(n=66)

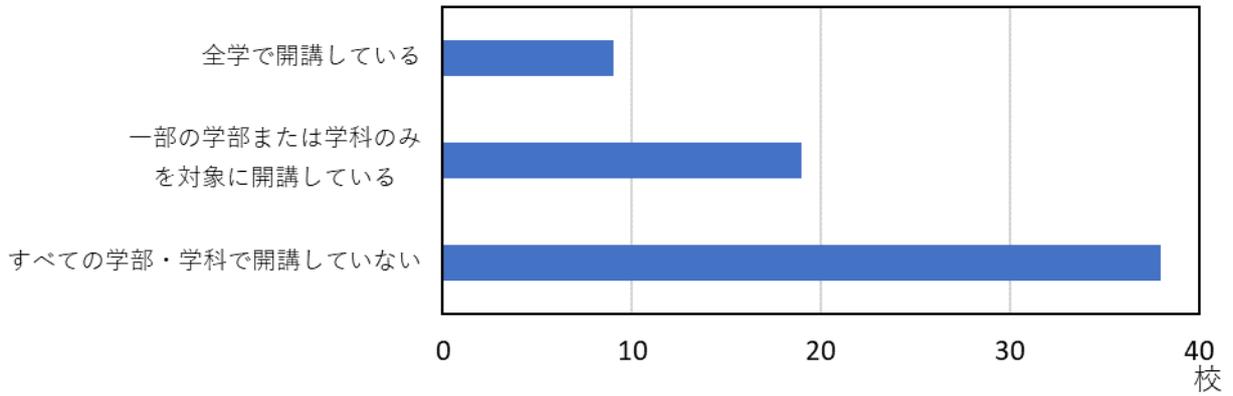


図 9-2 演習科目の開講状況

私立短期大学(n=4)

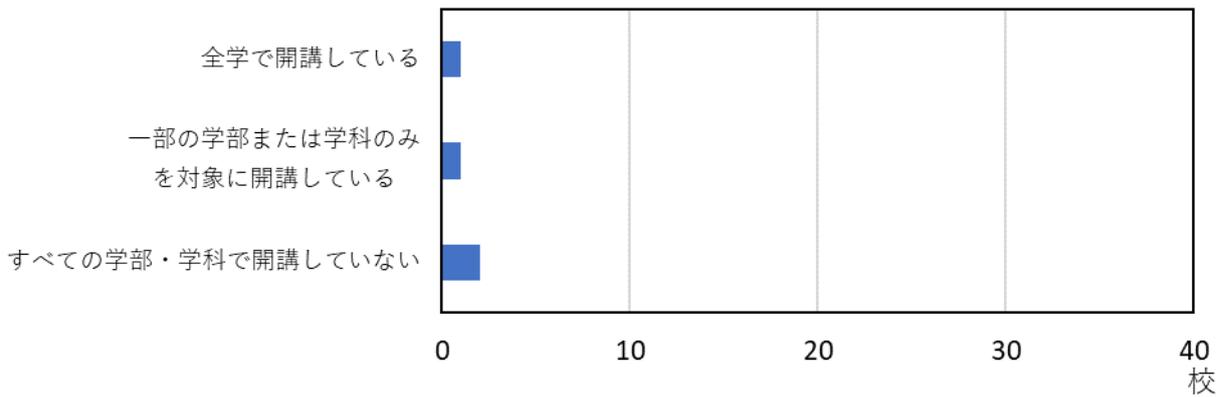


図 9-3 演習科目の開講状況

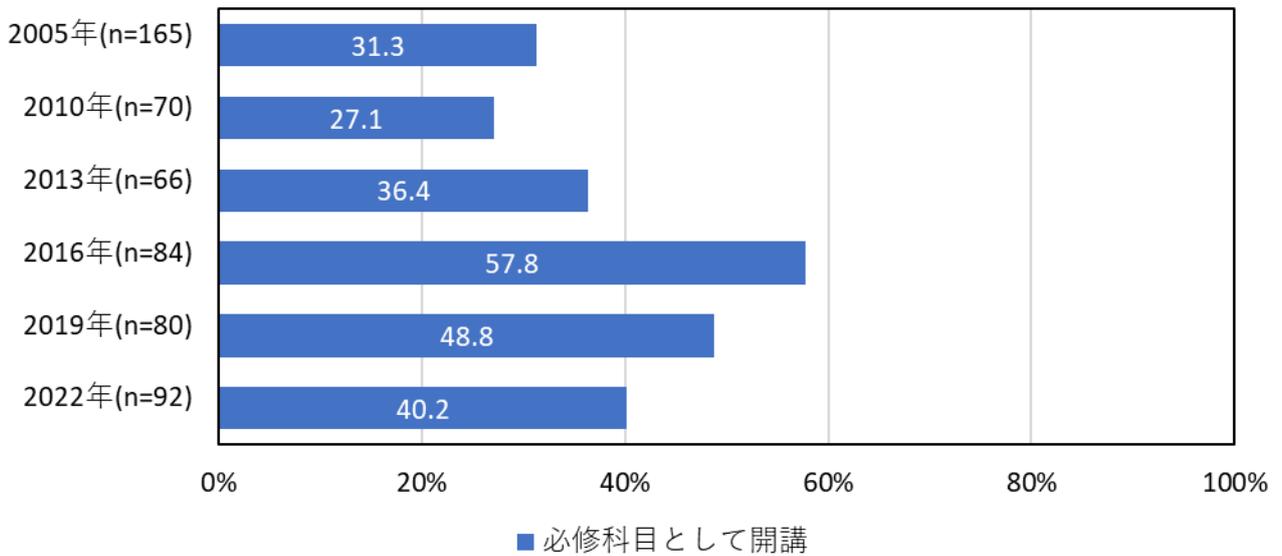


図 9-4 演習科目の開講状況(経年比較)

9. 実技科目の開講状況（選択科目として）

スポーツ・体育・健康関連の「実技科目が選択科目として開講されているか」について、全体、国公立大学、私立大学、短期大学ごとに図 10 に示した。

全体では、「全学で選択科目として開講」が 56 校（60.9%）、「一部で選択科目として開講」が 26 校（28.3%）、「開講していない」が 10 校（12.5%）であった。国公立大学では「全学で選択科目として開講」が一番多く 12 校（54.5%）であった。私立大学では「全学で選択科目として開講」が一番多く 43 校（65.2%）であった。短期大学では、「一部で選択科目として開講」が一番多く 2 校（50.0%）であった。

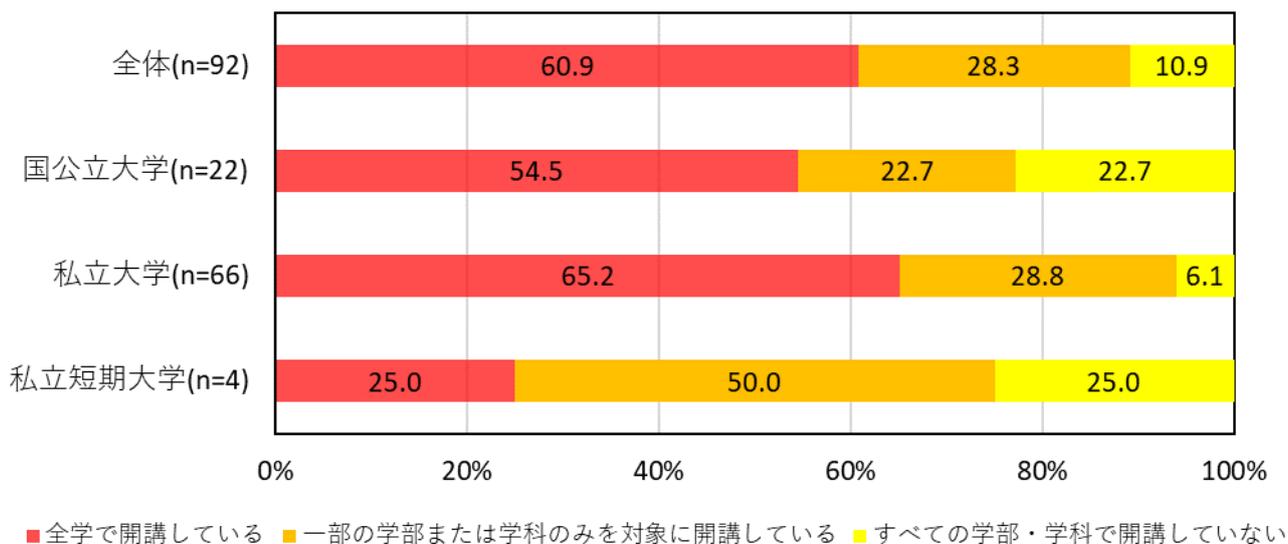


図 10 実技科目の開講状況（選択科目として開講）

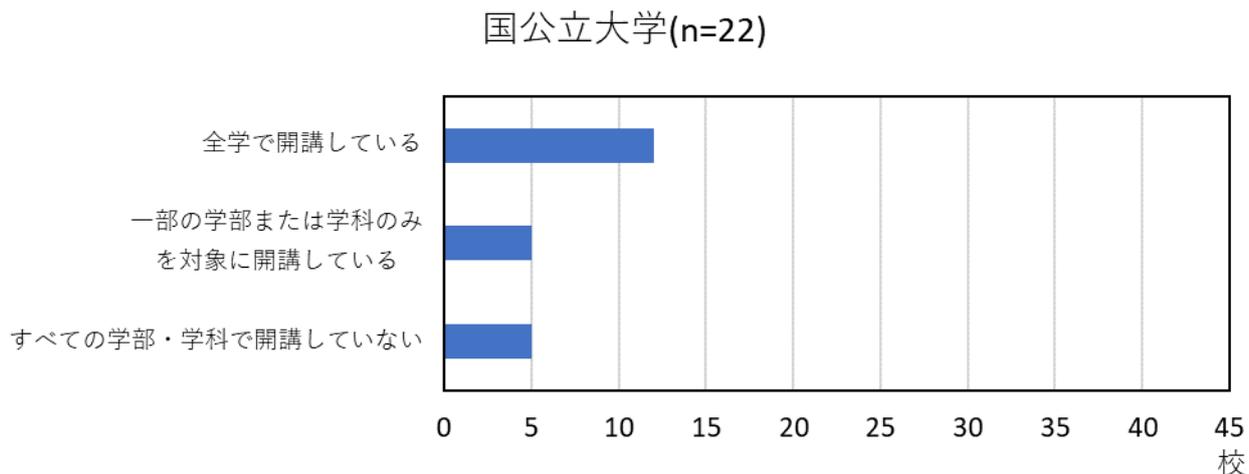


図 10-1 実技科目の開講状況

私立大学(n=66)

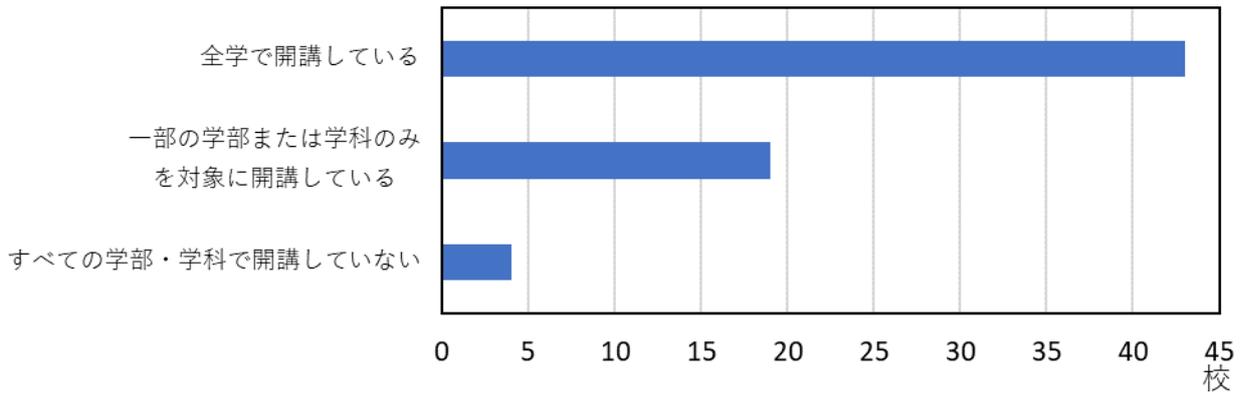


図 10-2 実技科目の開講状況

私立短期大学(n=4)

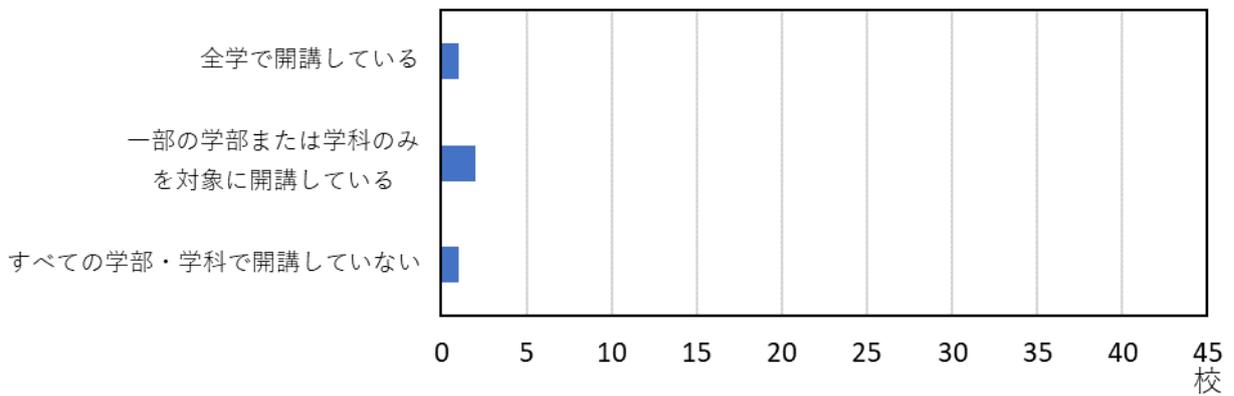


図 10-3 実技科目の開講状況

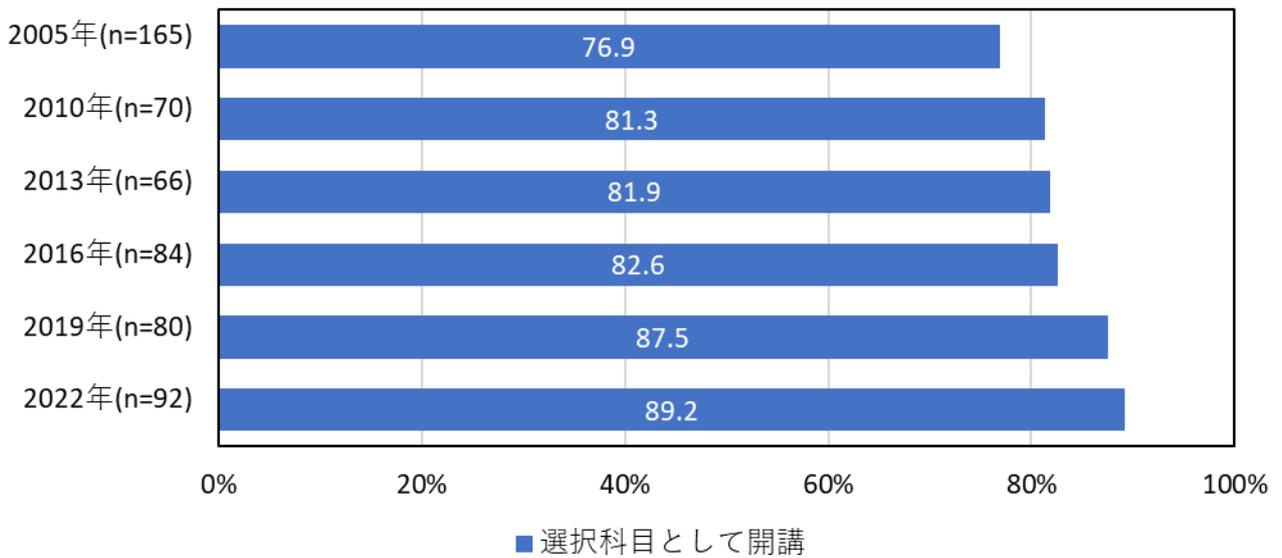


図 10-4 実技科目の開講状況(経年比較)

10. 講義科目の開講状況（選択科目として）

スポーツ・体育・健康関連の「講義科目が選択科目として開講されているか」について、全体、国公立大学、私立大学、短期大学ごとに図 11 に示した。

全体では、「全学で選択科目として開講」が 57 校（62.0%）、「一部で選択科目として開講」が 26 校（28.3%）、「開講していない」が 9 校（9.8%）であった。国公立大学では「全学で選択科目として開講」が一番多く 13 校（59.1%）であった。私立大学では「全学で選択科目として開講」が一番多く 43 校（65.2%）であった。短期大学では、「一部で選択科目として開講」が一番多く 2 校（50.0%）であった。

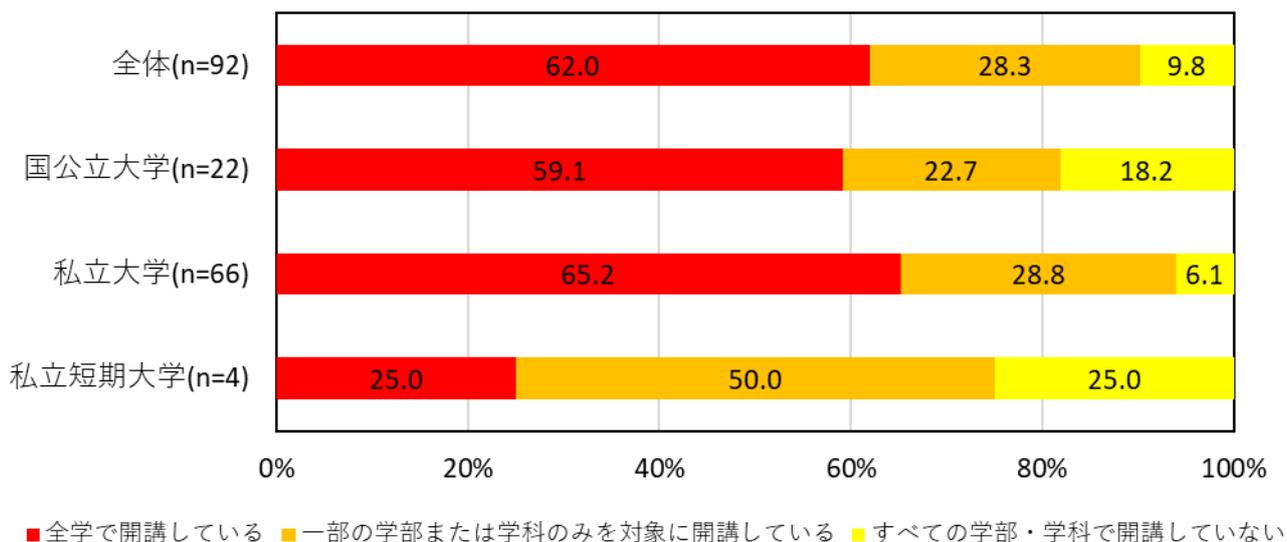


図 11 講義科目の開講状況の比較（選択科目として開講）

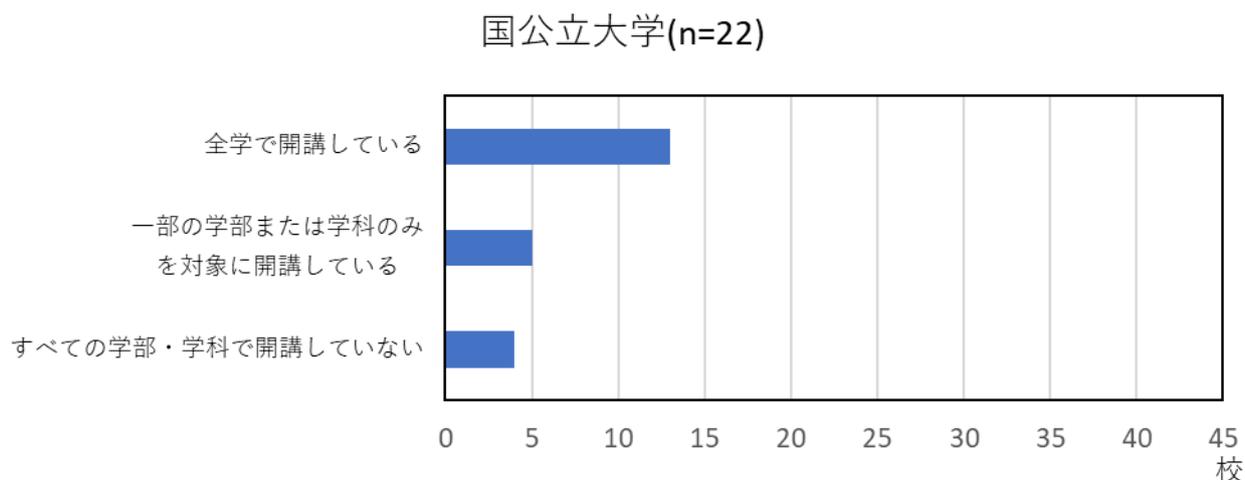


図 11-1 講義科目の開講状況の比較

私立大学(n=66)

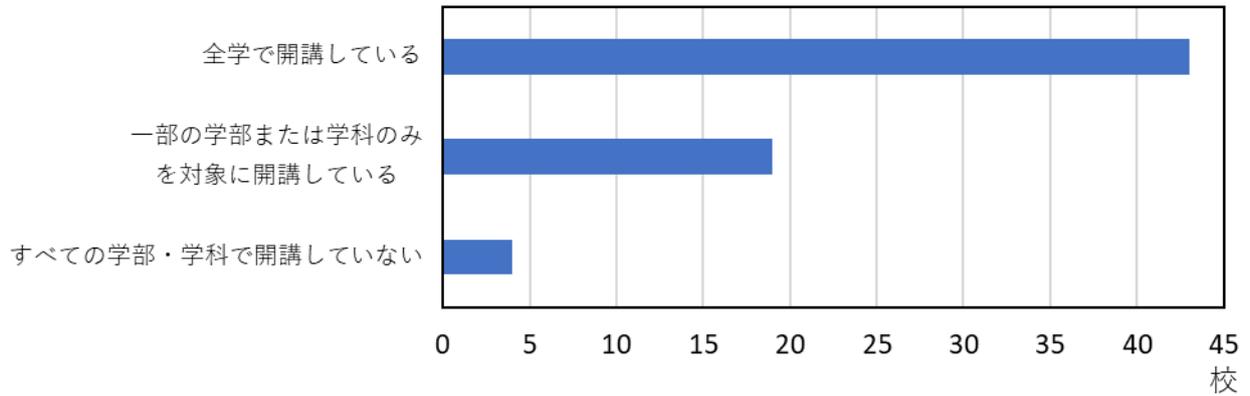


図 11-2 講義科目の開講状況の比較

私立短期大学(n=4)

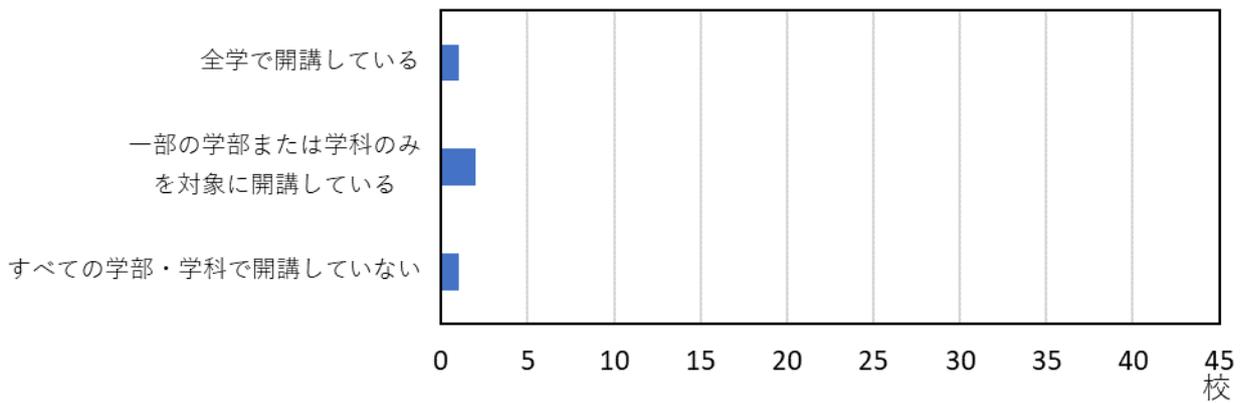


図 11-3 講義科目の開講状況の比較

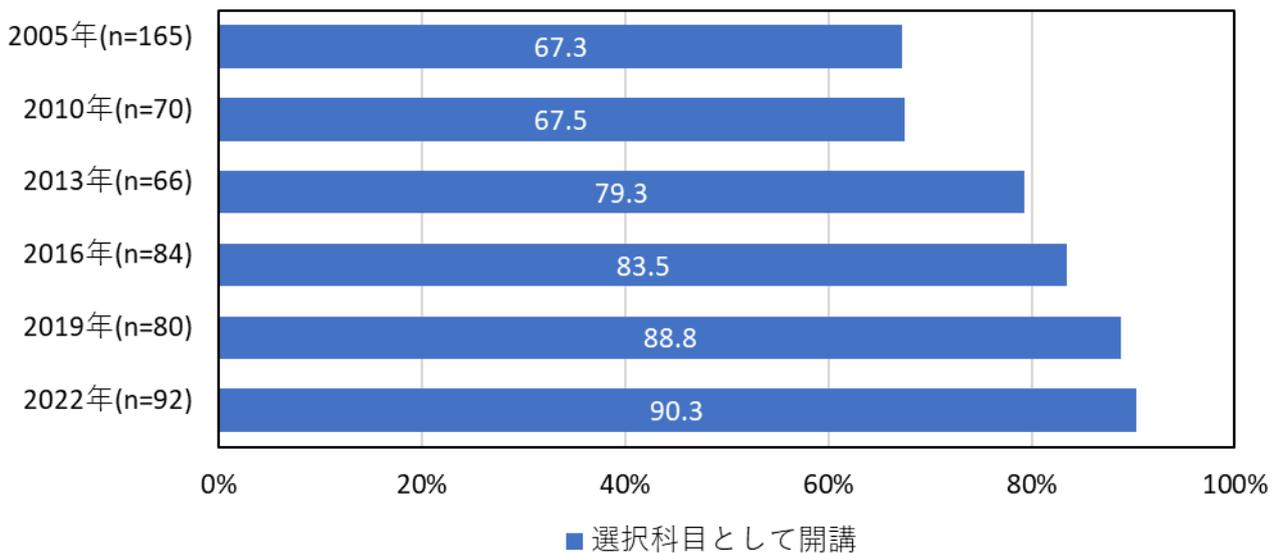


図 11-4 講義科目の開講状況の比較 (経年比較)

11. 演習科目の開講状況（選択科目として）

スポーツ・体育・健康関連の「演習科目が選択科目として開講されているか」について、全体、国公立大学、私立大学、短期大学ごとに図12に示した。ここで演習とは、講義だけ、実技だけ以外の形式の授業のことを指します（講義+実技など）。

全体では、「全学で選択科目として開講」が30校（32.6%）、「一部で選択科目として開講」が25校（27.2%）、「開講していない」が37校（40.2%）であった。国公立大学では「開講していない」が一番多く14校（63.6%）であった。私立大学では「全学で選択科目として開講」が一番多く27校（40.9%）であった。短期大学では、「開講していない」が一番多く3校（75.0%）であった。

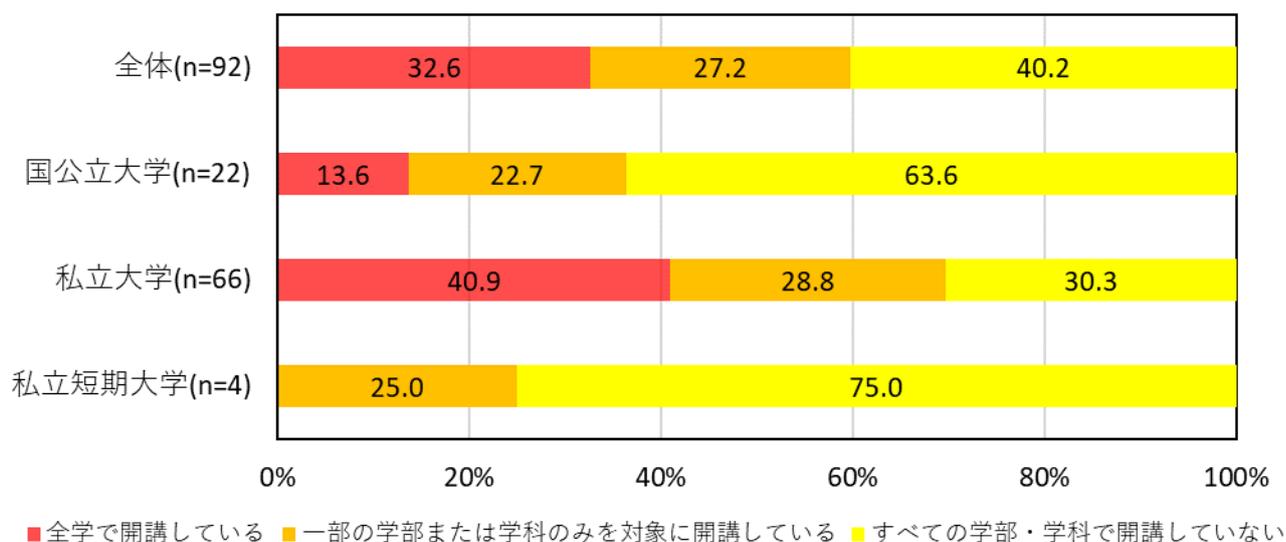


図12 演習科目の開講状況（選択科目として）

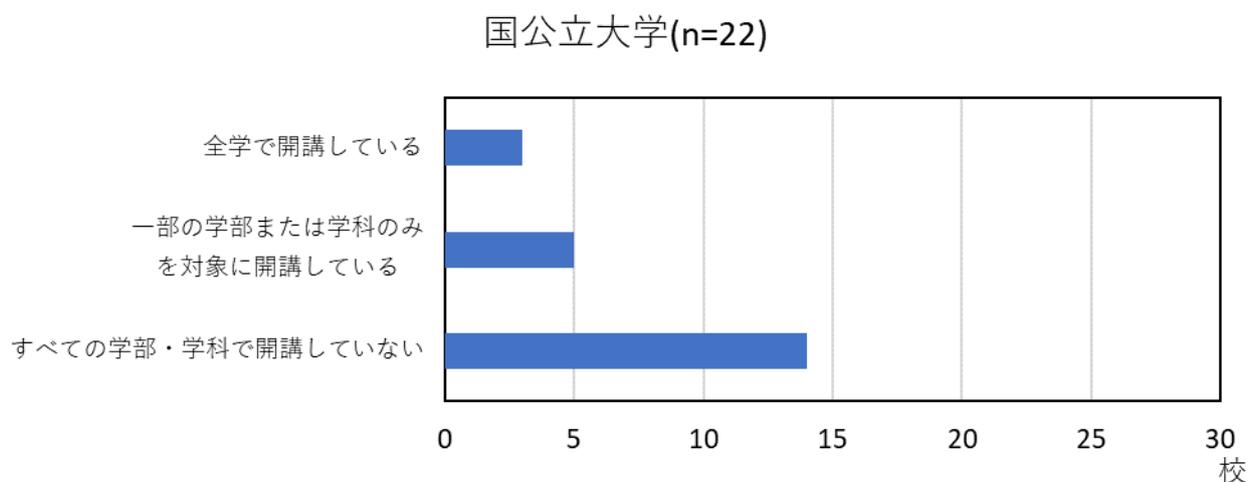


図12-1 演習科目の開講状況

私立大学(n=66)

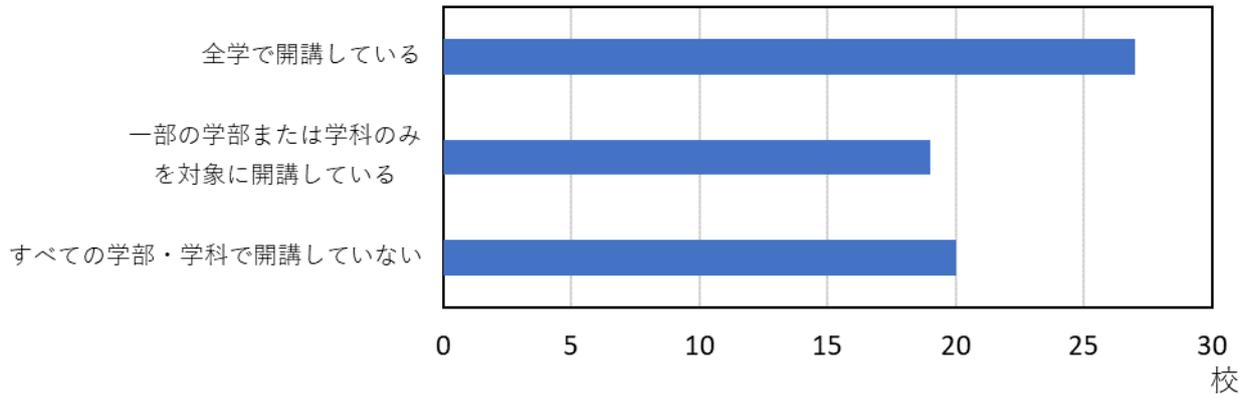


図 12-2 演習科目の開講状況

私立短期大学(n=4)

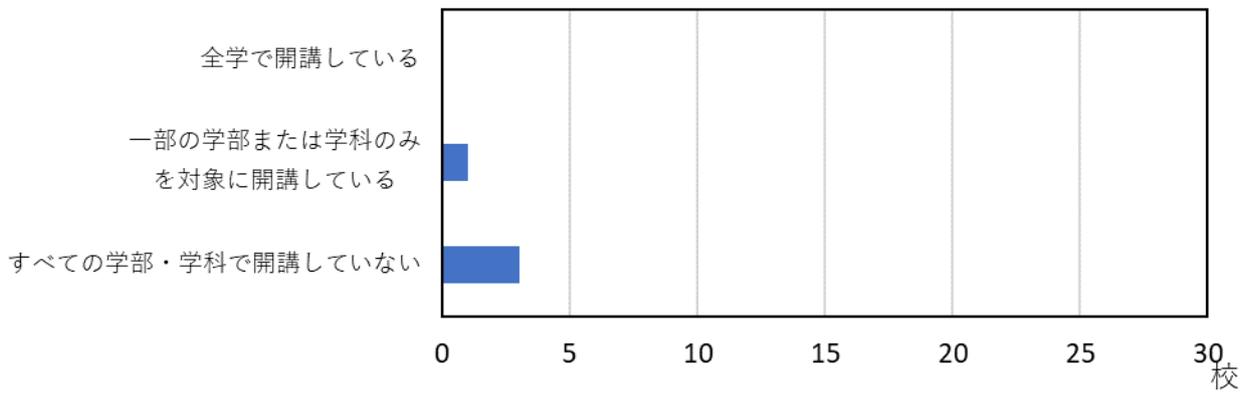


図 12-3 演習科目の開講状況

12. 体力テストの実施

体力テストの実施について、全体、国公立大学、私立大学、短期大学ごとに図13に示した。

全体では、「全学で実施」が18校（19.6%）、「一部で実施」が34校（37.0%）、「実施しなかった」が40校（43.5%）であった。国公立大学では「一部で実施」が一番多く9校（40.9%）であった。私立大学では「実施しなかった」が一番多く32校（48.5%）であった。短期大学では、「実施しなかった」が一番多く2校（50.0%）であった。

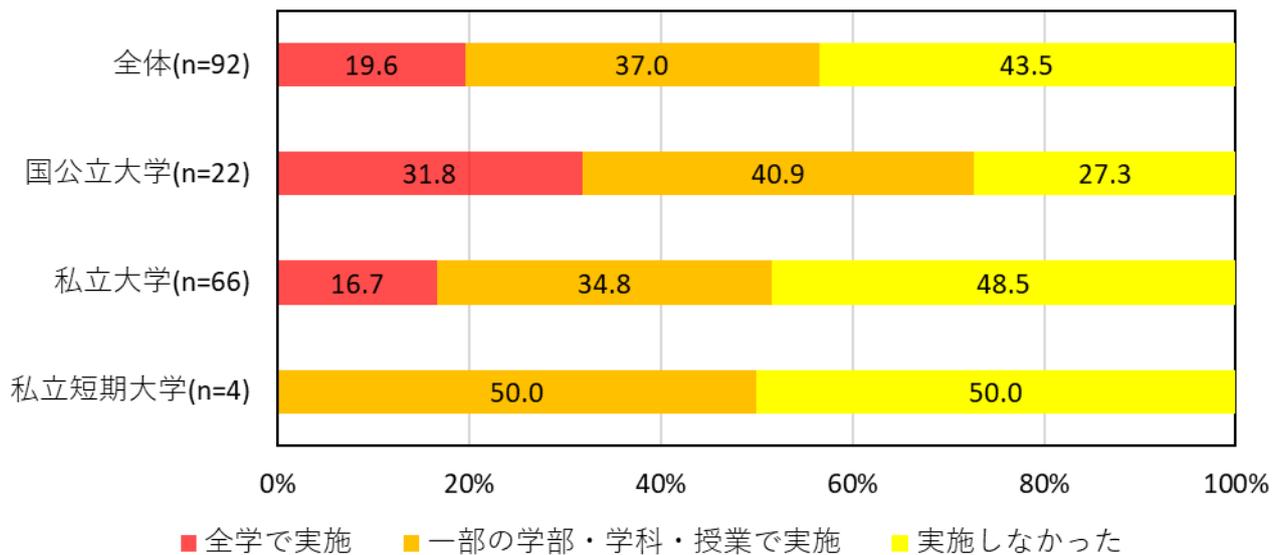


図13 体力テストの実施

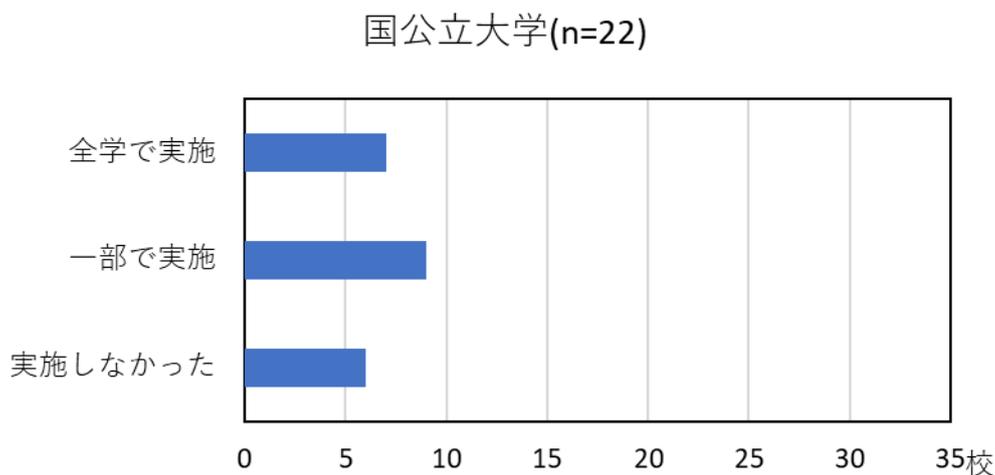


図13-1 体力テストの実施

私立大学(n=66)

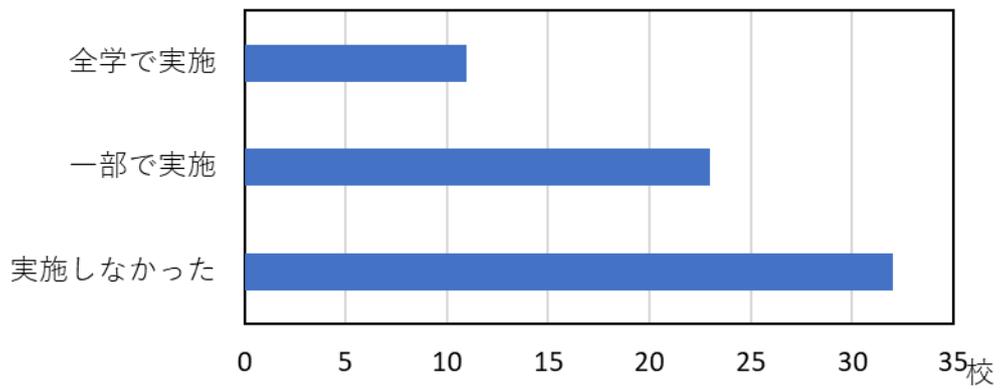


図 13-2 体カテストの実施

私立短期大学(n=4)

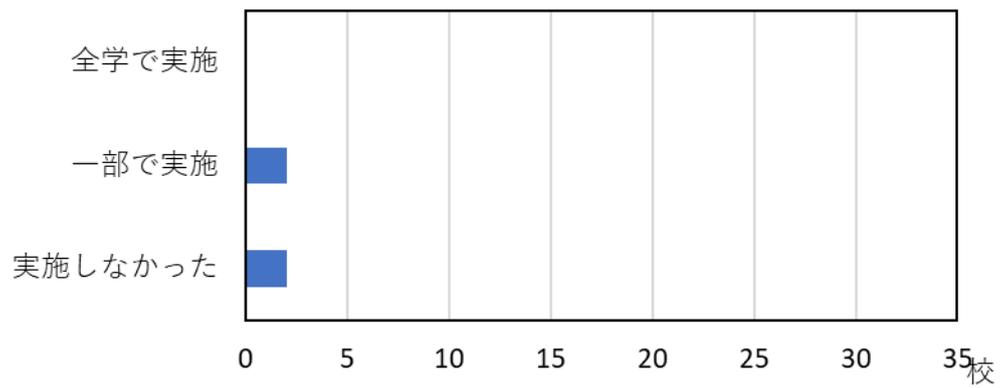


図 13-3 体カテストの実施

13. 体力テストの実施種目

体力テストの実施種目について、全体、国公立大学、私立大学、短期大学ごとに図14に示した。

体力テストを実施した大学（n=52）のうち、「新体力テストの全種目を実施」が12校（23.1%）、「新体力テストの一部の種目を実施」が16校（30.8%）、「新体力テスト全種目に加えて独自種目を実施」が4校（7.7%）、「新体力テスト一部の種目に加えて独自種目を実施」が12校（23.1%）、「独自種目のみを実施」が6校（11.5%）、「その他」が2校（3.8%）であった。

体力テストの実施に関する主な問題点として、実施場所の制限や実施スタッフの確保などがあった。

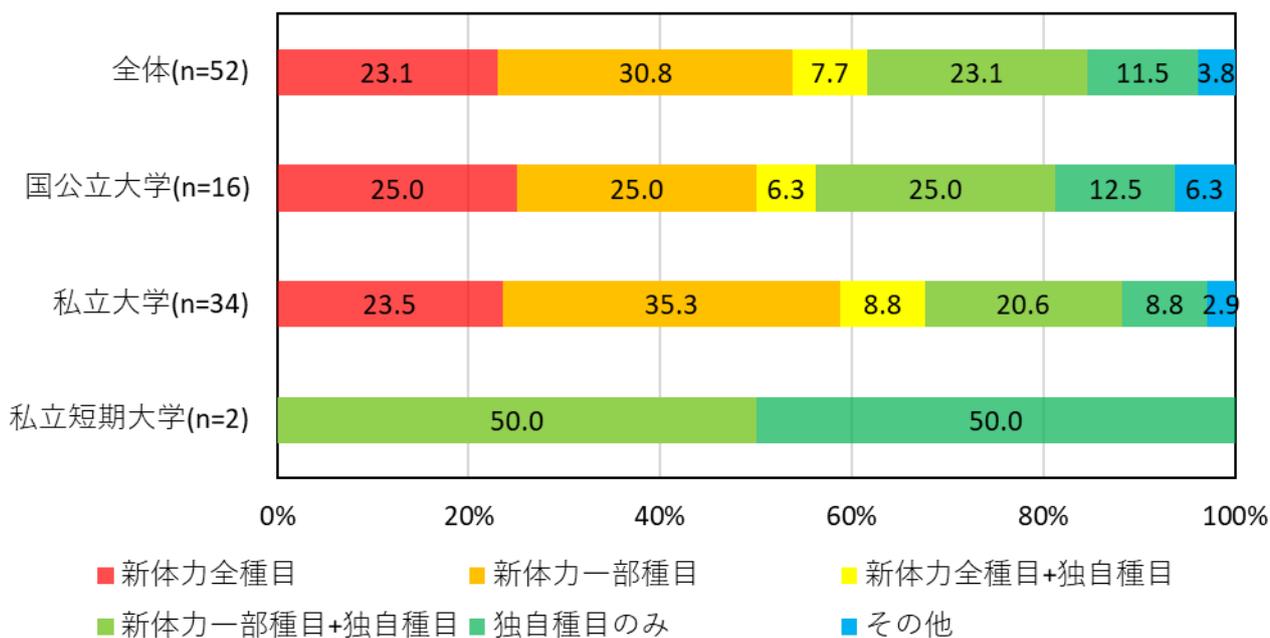


図14 体力テストの実施種目

国公立大学(n=16)

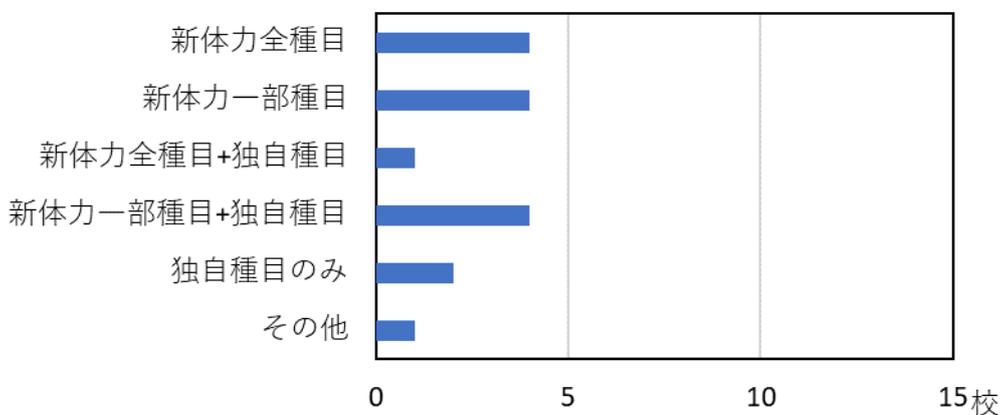


図14-1 体力テストの実施種目

私立大学(n=34)

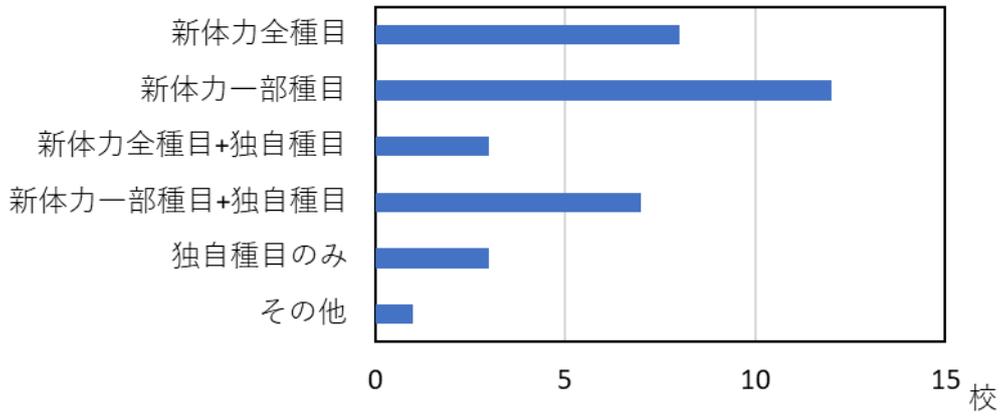


図 14-2 体力テストの実施種目

私立短期大学(n=2)

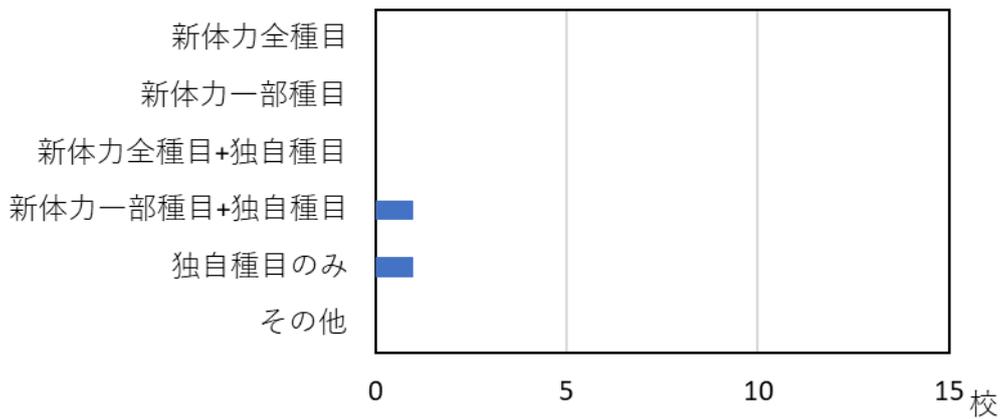


図 14-3 体力テストの実施種目

1 4. 体力テストを実施する上での課題・問題点について（自由記述）

- ・スポーツ実技は各種目ごとに時間割が組まれており、特に名古屋キャンパスにおいては、狭い教場を分け合って使用している状況のため、全授業で体力測定を実施できる環境が整っていない。特に立ち幅跳びについては、マットの用意がない（器械体操を含む授業がないため）ことから、学生の脚にかかる負担を考慮して別の種目による測定を実施するほかない。体力測定を全種目実施できるほどの教場が用意できていない。
- ・場所が広く取れないので、実施できる種目が限られること
- ・学生が測定するため結果の信憑性がない。
- ・全1年生を対象に、4月の入学時、10月と年2回実施しているが、入学時は20mシャトルランは安全面を考慮して行っていない。
- ・成績に直結しないので学生が欠席がちである。
- ・シャトルランの見学者が多い授業があった。コロナ後、2023年春は「自信がない」という見学理由があった。
- ・単に体力を測定するだけでなく、新たな学びにつながるような体力測定を含まないと飽きられる。
- ・教員に加え、助力を得られるのは教務補助（嘱託職員）1名のみなので人手が足りない。
- ・少人数でしか実施できない。
- ・半期・必修の体育実技の授業内で体力測定を実施するため、15回という限られた授業回数の中で体力測定の結果をフィードバックすることが難しい（十分な時間がとれない）。本来は、全学で統一して体力測定を実施することが望ましいが、実技体育を担当する教員が各学部学科に散らばっているため、全学で統一した形で体力測定をおこなうことが難しい。
- ・学部が多く必修科目でないことから実施が出来ない。
- ・器具・機材が無い
- ・環境設備、天候による予定変更
- ・体力測定を用いて授業の効果を授業開始時と終了時で測りたいが、4～7月期の授業については、体育施設の関係で熱中症対策が出来ず、測定が実施できない。
- ・体力測定時の怪我や体調不良者の増加、特任助教の人員減少にともなう体力測定運営の負担増加、予算削減によるアルバイト学生雇用件数費工面が困難化
- ・体力測定データの研究上活用と学生からの承認。怪我の多発。科目内でのフィードバックが困難。正しい知識を備えた測定員の確保、養成が困難。測定結果の分析等、時間確保が困難。
- ・全学の行事として体力測定を実施しており（1・2年生は実施、3・4年生は測定）、参加率は課題である。また、3・4年生が測定しており、測定方法を徹底することが難しい。
- ・「体力を測定すること」が目的ではなく、体力測定を通して自身の健康について科学的に考える態度を身に付けることを目的としているため、「体力測定を行っている意図」が受講学生にしっかり伝わるように工夫している。
- ・時間がかかる、データ入力、整理が大変、（学部がたくさんあるので本学部に限り回答しています）実施する上で実施方法の徹底が難しく、学生が正確に体力測定の実施方法を理解していないことが多い。
- ・予算の関係で測定機器の購入や入れ替えが不十分である程度の数を準備できない。
- ・体力測定があることをシラバスで見て、体育実技履修そのものをやめたり、体力測定の回を欠席する学生がいる。そもそも、なぜ「体力測定をするのか」という事が理解できていないように思われる。
- ・期日・時間・場所の設定や確保が困難な状況がある。
- ・グラウンドのないキャンパスで50m走が出来ない。選択科目の場合、シャトルランがあるだけで履修を敬遠する学生がいる

15. 体力テストの活用について（複数回答）

体力テストの活用について、全体、国公立大学、私立大学、短期大学ごとに図12に示した。

各大学及び短期大学においては、「履修者の運動への動機付け」「学生のレポートや演習のデータ」「研究資料（紀要など）」「授業担当者の資料（学生の実態把握）」「学生個人への運動処方」の順に多く、「能力別クラス分け」に用いる大学は少なかった。

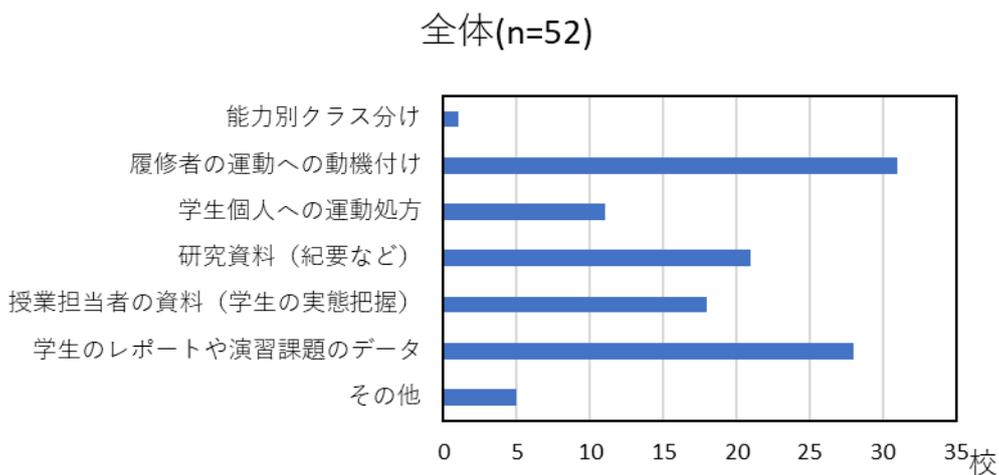


図15 体力テストの活用について（複数回答）

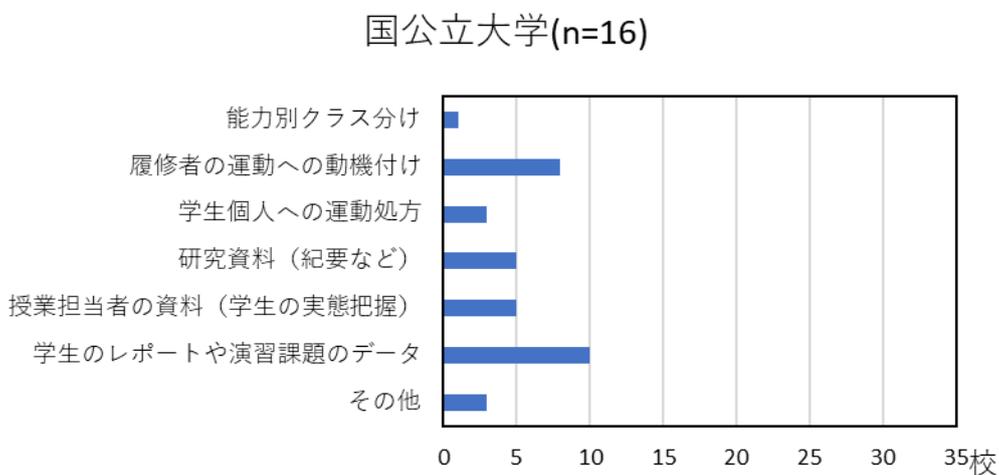


図15-1 体力テストの活用について（複数回答）

私立大学(n=34)

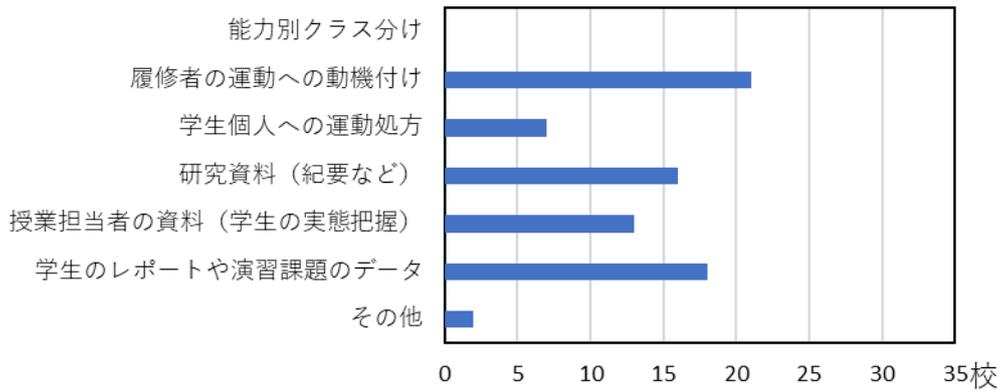


図 15-2 体力テストの活用について（複数回答）

私立短期大学(n=2)

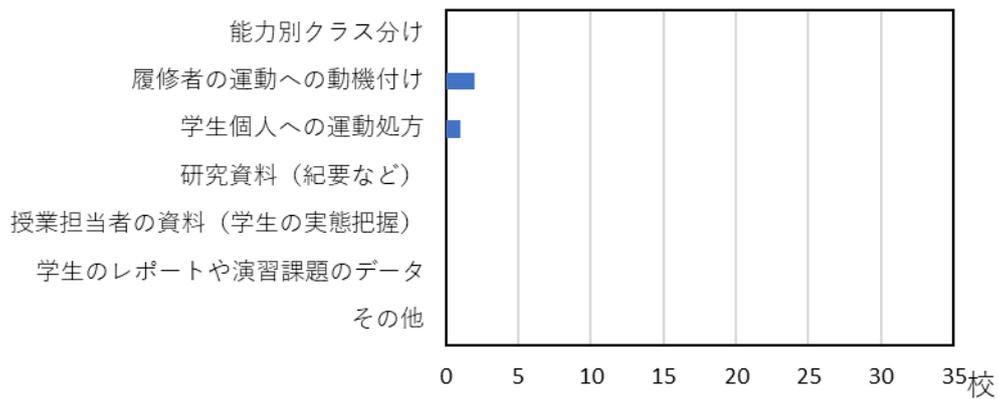


図 15-3 体力テストの活用について（複数回答）

16. 身体的障害（視・聴覚障害、怪我によるものを含む）を持った学生への対応について

身体的障害（視・聴覚障害、怪我によるものを含む）を持った学生への対応について、全体、国公立大学、私立大学、短期大学ごとに図16に示した。

全体では、「健常者と同じクラスで行う」が46校(50.0%)、「障害者用のクラスがある」が11校(12.0%)、「特になし」が17校(18.5%)、「その他」が18校(19.6%)であった。「障害者用のクラスがある」では、国公立大学で27.3%、私立大学で18.2%、短期大学で0%であった。「身体的障害者のクラス」を設置する割合が、短期大学ではなしという結果であり、対応が十分に進んでいない現状が見られる。

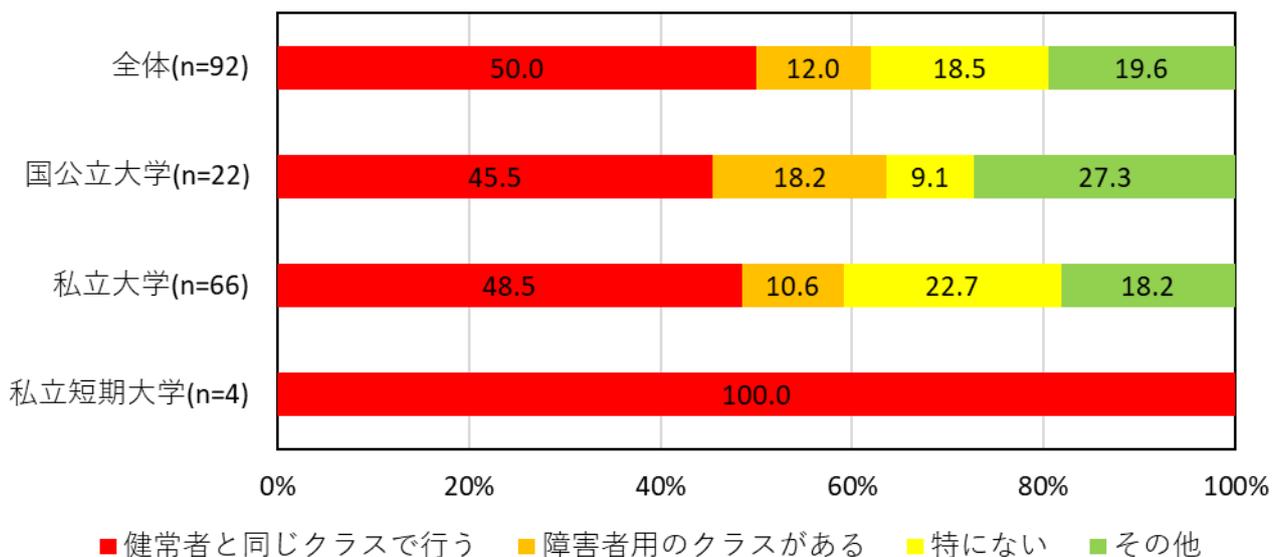


図16 身体的障害（視・聴覚障害、怪我によるものを含む）を持った学生への対応について

国公立大学(n=22)

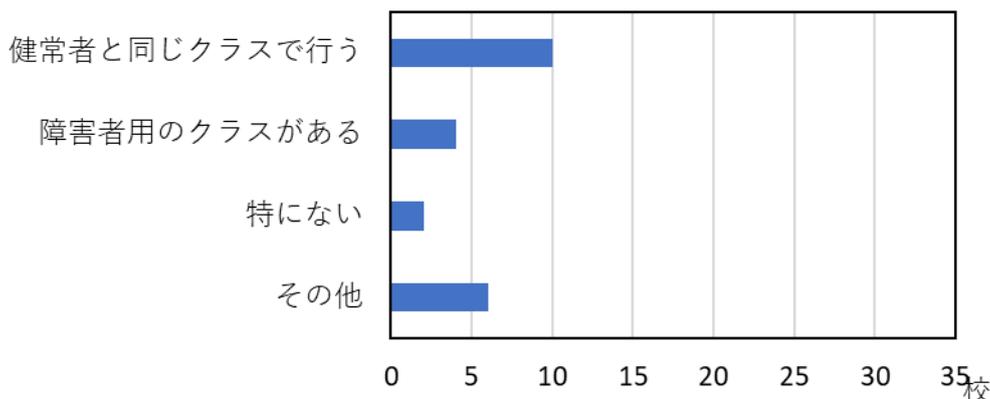


図16-1 身体的障害（視・聴覚障害、怪我によるものを含む）を持った学生への対応について

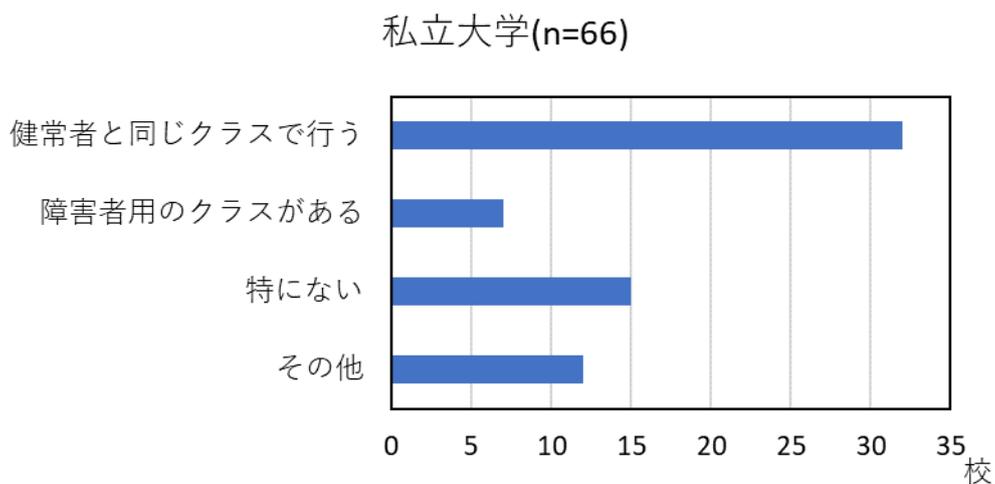


図 16-2 身体的障害（視・聴覚障害、怪我によるものを含む）を持った学生への対応について

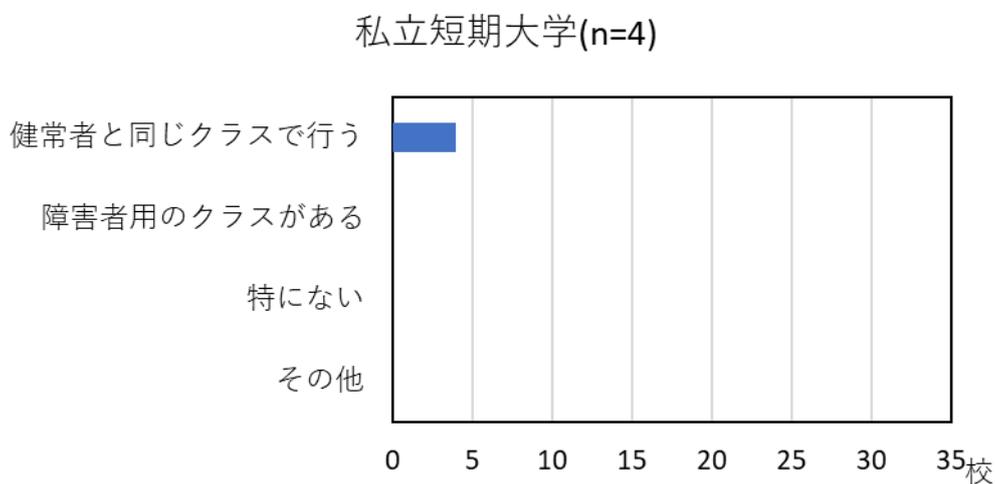


図 16-3 身体的障害（視・聴覚障害、怪我によるものを含む）を持った学生への対応について

17. 精神的障害（性同一性障害、学習障害を含む）を持った学生への対応について

精神的障害（性同一性障害、学習障害を含む）を持った学生への対応について、全体、国公立大学、私立大学、短期大学ごとに図 17 に示した。

全体では、「健常者と同じクラスで行う」が 45 校（48.9%）、「障害者用のクラスがある」が 7 校（7.6%）、「特になし」が 23 校（25.0%）、「その他」が 17 校（18.5%）であった。「障害者用のクラスがある」では、国公立大学で 9.1%、私立大学で 7.6%、短期大学で 0%であった。精神的障害を持つ学生については、在籍者数が少ない点や非常に繊細な部分を含んでいるため、各大学において、独自に様々な対応を実施しているようである。

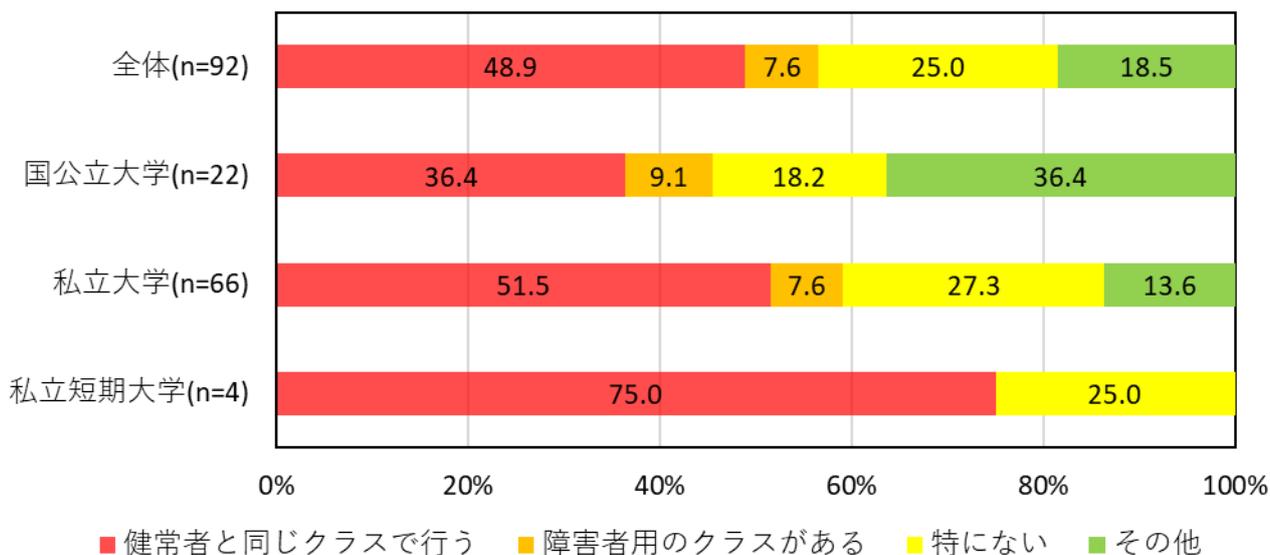


図 17 精神的障害（性同一性障害、学習障害を含む）を持った学生への対応について

国公立大学(n=22)

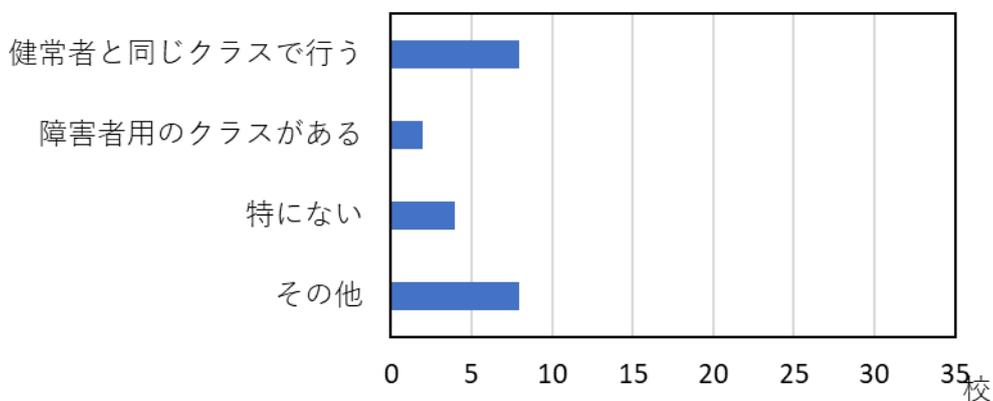


図 17-1 精神的障害（性同一性障害、学習障害を含む）を持った学生への対応について

私立大学(n=66)

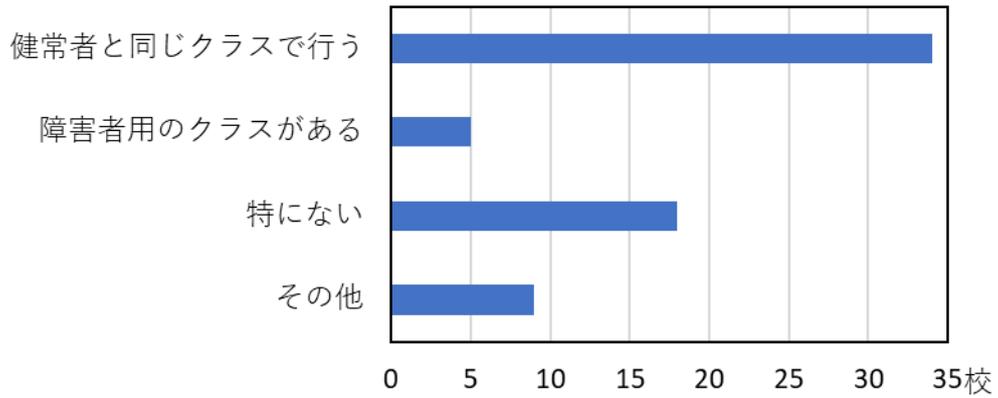


図 17-2 精神的障害（性同一性障害、学習障害を含む）を持った学生への対応について

私立短期大学(n=4)

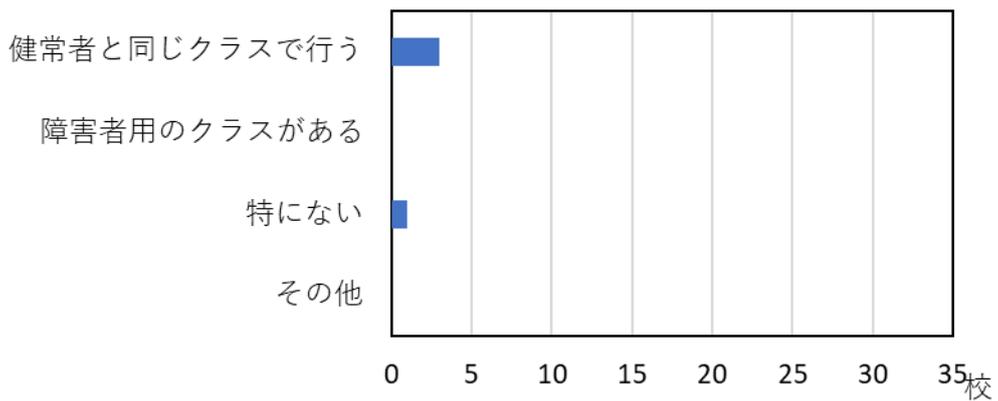


図 17-3 精神的障害（性同一性障害、学習障害を含む）を持った学生への対応について

18. TA制度や助手制度について

TA制度や助手制度など、授業をサポートする人員を雇用する制度について、全体、国公立大学、私立大学、短期大学ごとに図18に示した。

「授業をサポートする人員を雇用する制度がある」は、全体で48.9%、国公立大学で45.5%、私立大学で53.0%、短期大学で0.0%であった。

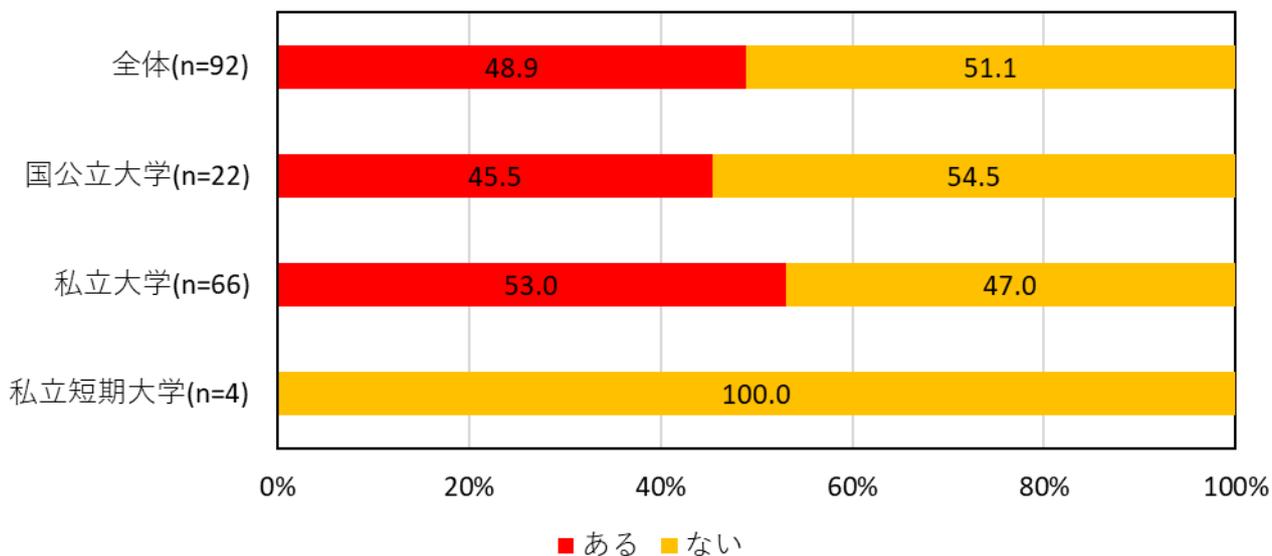


図18 TA制度や助手制度について

国公立大学(n=22)

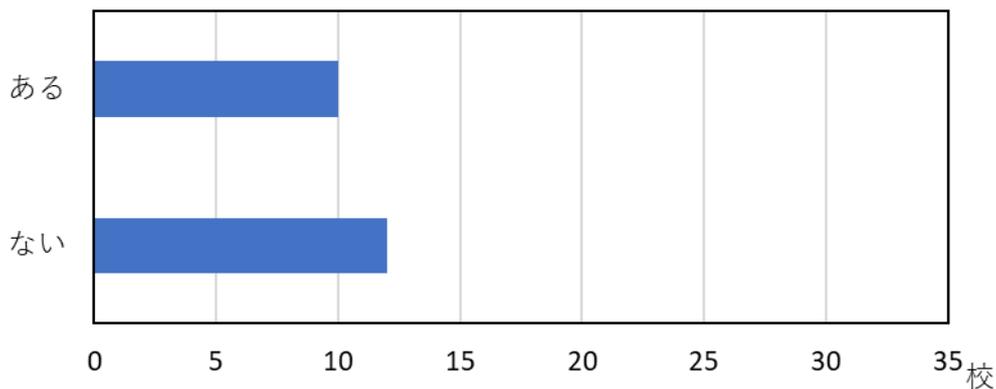


図18-1 TA制度や助手制度について

私立大学(n=66)

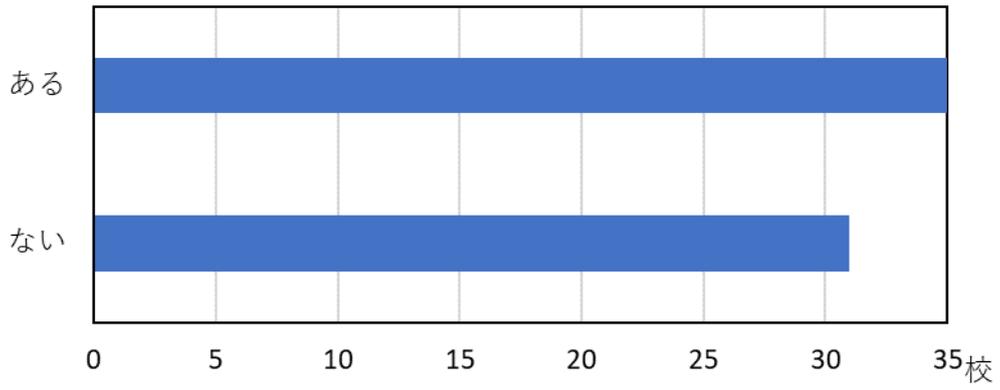


図 18-2 TA制度や助手制度について

私立短期大学(n=4)

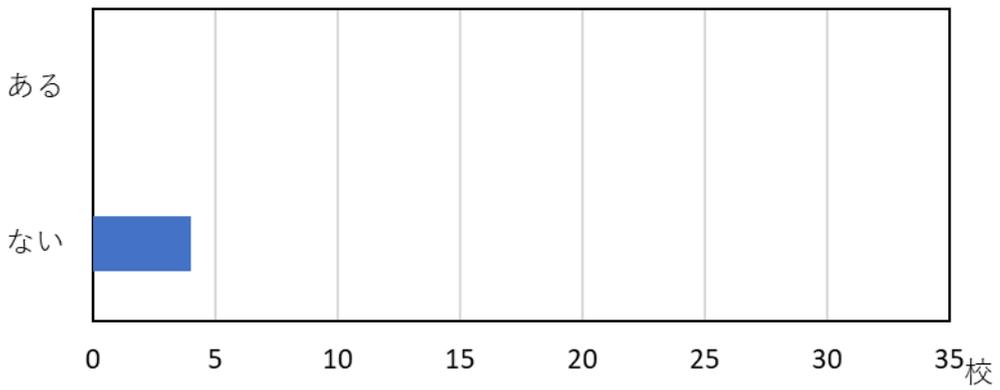


図 18-3 TA制度や助手制度について

19. 授業評価について

「学生による授業評価はどのように行われているか」について、全体、国公立大学、私立大学、短期大学ごとに図 16 に示した。

学生による授業評価は、9 割以上の大学で「全学規模」で行われ、「学部単位で実施」「学科単位で実施」など、何らかの形ですべての国公立大学、私立大学、短期大学において実施されていた。

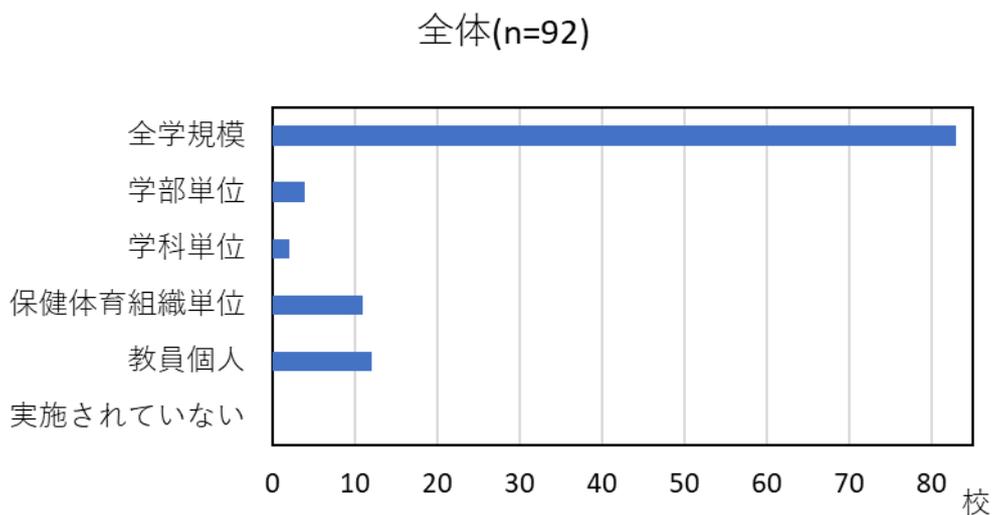


図 19 授業評価について（複数回答）

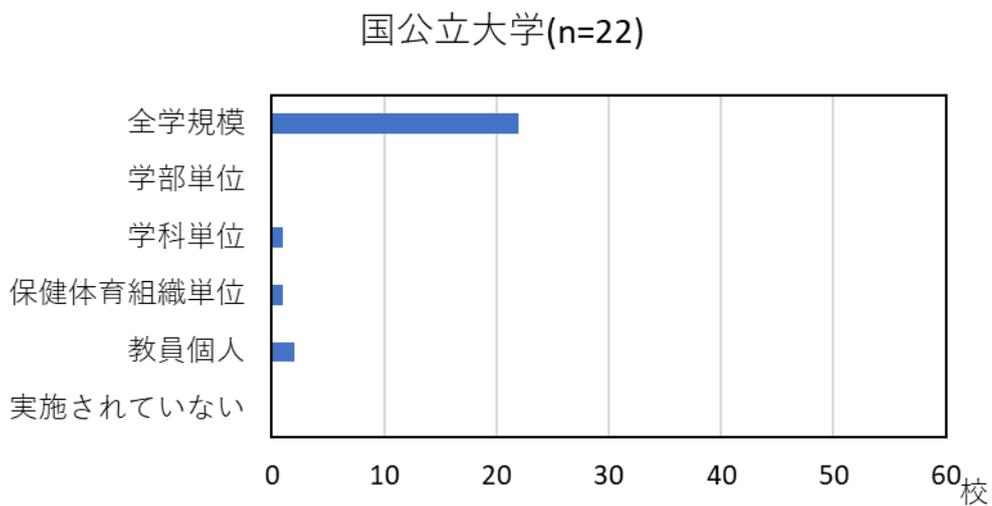


図 19-1 授業評価について（複数回答）

私立大学(n=66)

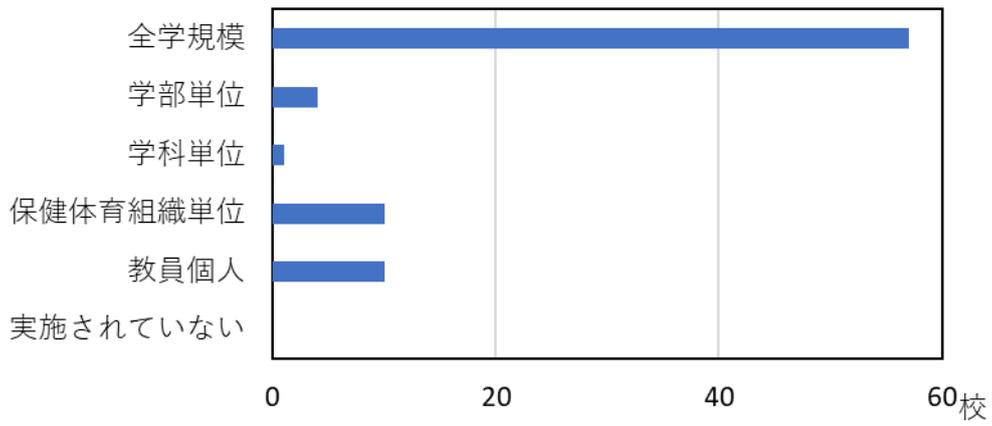


図 19-2 授業評価について（複数回答）

私立短期大学(n=4)

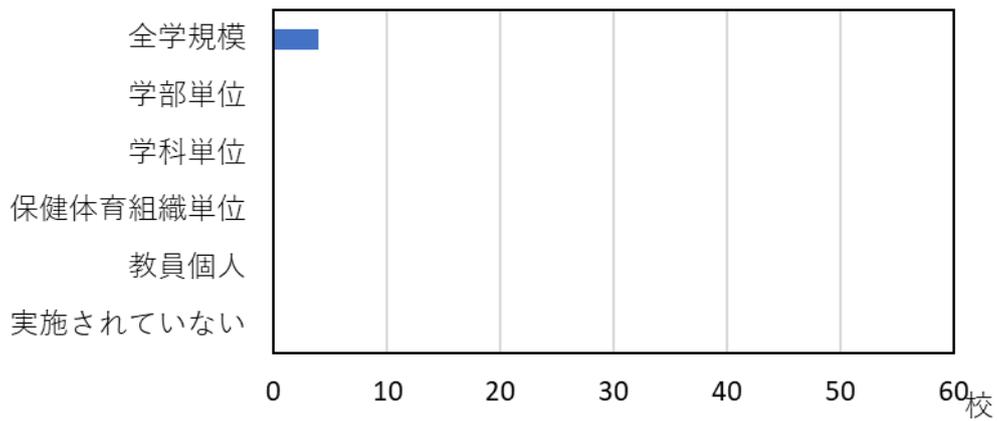


図 19-3 授業評価について（複数回答）

20. ユニークなスポーツ・体育・健康関連の授業の実践例について（具体的内容と課題）

（例：留学生向けの外国語による授業など）

- ・スポーツ実技とeラーニングを併用した授業
- ・スケートリンクを有しており、「シーズンスポーツ・スケート」の授業を実施
- ・大学近辺を散策する「山野歩走」という種目
- ・パラスポーツの選択授業
- ・実際のコースで行うゴルフの授業。問題は予算が足りない。
- ・アドベンチャーコースを用いた実践的な学びを深める授業。学内に設置してあるアドベンチャーコースを用いて、学びのプロセスやチャレンジに対する心構えとグループ（組織）の関わり方を身に付ける。また、本学の建学の理念である「言葉は世界をつなぐ平和の礎」を体系化するために、アドベンチャープログラムを通して、身体活動を主とする対人行動からコミュニケーションスキル、異なる価値観や文化的背景、社会の多様性の理解と尊重する姿勢を身に付けている。
- ・9つの時間帯で、個人種目14と集団種目14種の28種目の体育実技授業。その他、夏季冬季の集中授業。
- ・2年次以上のスポーツ実技Ⅲ・Ⅳでは、ニュースポーツ系の種目を多数採用
- ・ノルディックウォークを変則型集中授業として実施。1回のウォーキングで3コマ分の授業数として3回(9コマ)実施。他はヨガ、レクスポを学内で実施し、最後(15回目)は小グループでレポート発表会を行っている。
- ・スクーバダイビング
- ・健康的な身体づくりに運動と食事の両方が必要であることを理解させるワークショップ形式の授業
- ・グループ課題としてスポーツ・レクリエーションの企画・運営を課し、他のクラスメイトを動かす経験を通じて、他のプロジェクトや活動にも役立つ実践力を養う内容
- ・大学院生向けの体育実技
- ・和太鼓、ブラインドサッカー、アーティスティックスイミングの授業
- ・新しいスポーツを履修生が考案し実践する授業
- ・英語で授業を実施
- ・留学生向けの外国語による授業
- ・特別なニーズ・事情を持つ学生へ対応するためのクラスあり（障害者、留学生も含む）
- ・複数の学部で1クラスを構成（社会福祉学部、教育・心理学部合同など）
- ・男女共修
- ・通年で1種目を履修（「20歳の学力」という共通目標を立て、1年間をかけて1科目を履修する）

2 1. 保健体育教員が組織として実施・参加している FD プログラムについて

「保健体育教員が組織として実施・参加している FD プログラム」について、全体、国公立大学、私立大学、短期大学ごとに図 20 に示した。

全体では、「自己点検・評価の実施」20 校、「授業の相互参観」17 校、「外部研修会への派遣」16 校、「共通テキストの作成」14 校の順に多く「授業研究会の実施」13 校がそれに続いている。一方、39 校の大学・短期大学では、FD プログラムについて「行っていない」との回答であった。

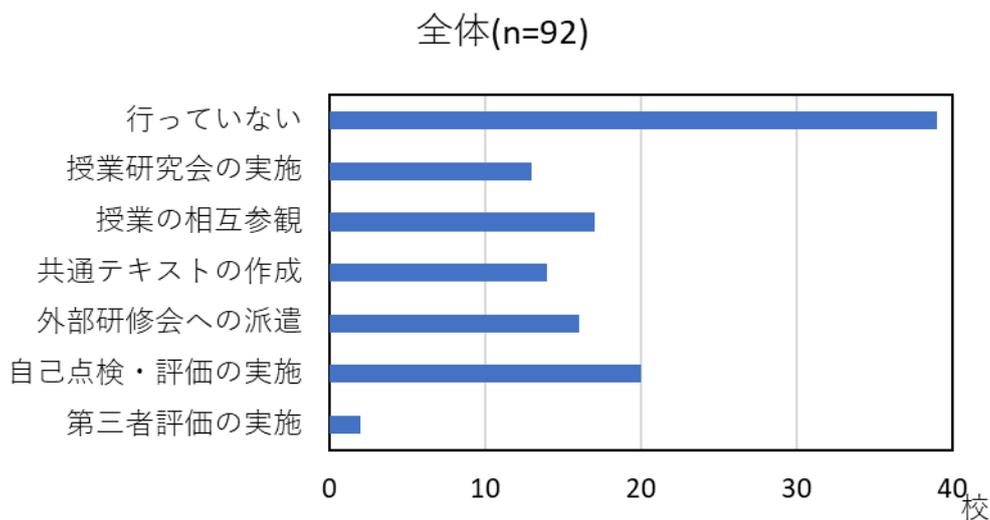


図 20 保健体育教員が組織として実施・参加している FD プログラムについて（複数回答）

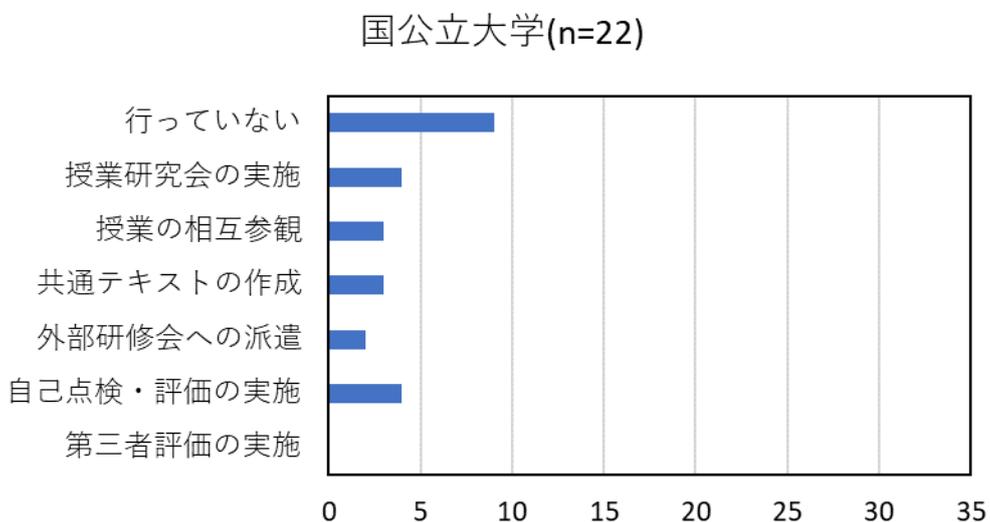


図 20-1 保健体育教員が組織として実施・参加している FD プログラムについて（複数回答）

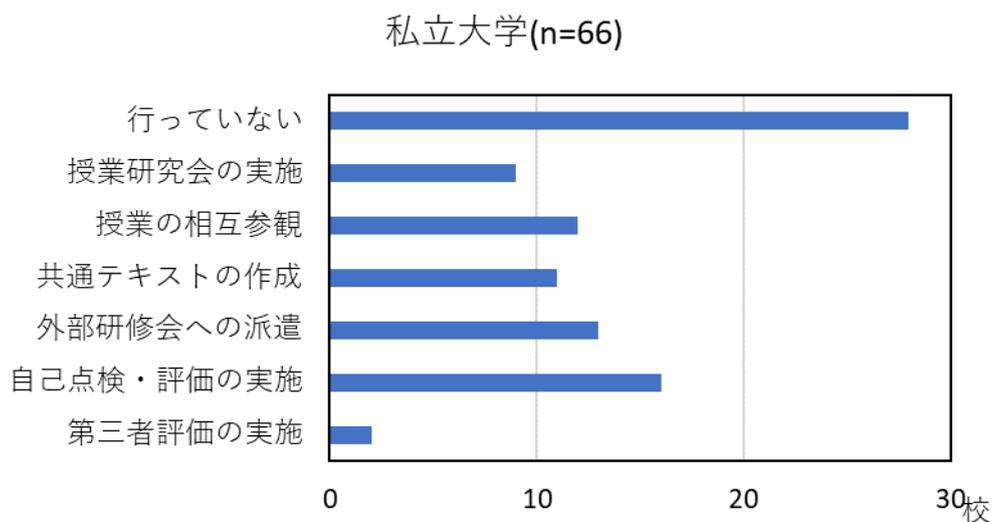


図 20-2 保健体育教員が組織として実施・参加している FD プログラムについて (複数回答)

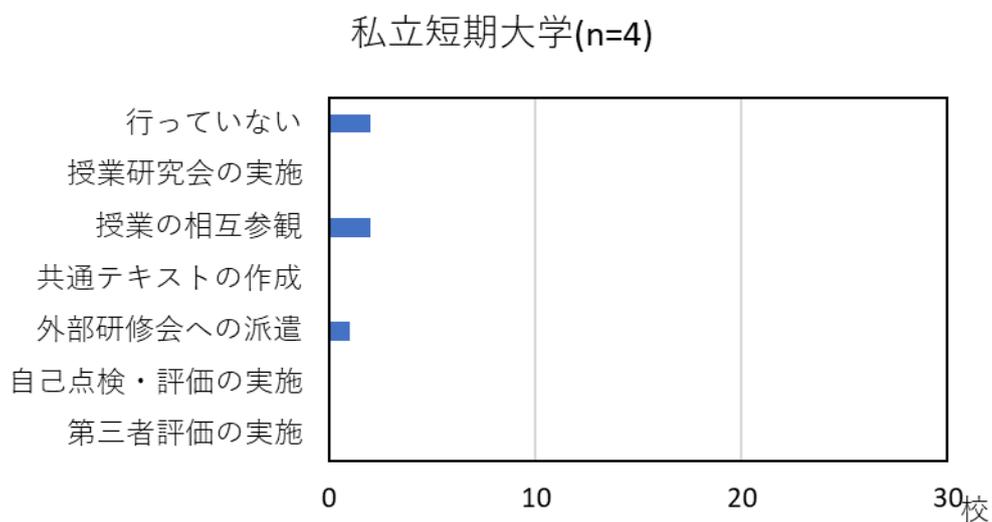


図 20-3 保健体育教員が組織として実施・参加している FD プログラムについて (複数回答)

2.2. スポーツ推薦・強化指定クラブの制度について

「スポーツ推薦・強化指定クラブの制度」について、全体、国公立大学、私立大学、短期大学ごとに図21に示した。

全体では、「スポーツ推薦入試の制度がある」が46校（50.0%）、「強化指定クラブの制度がある」が40校（43.5%）、「どちらの制度もない」が39校（42.4%）であった。国公立大学では、「どちらの制度もない」が一番多く17校（77.3%）であった。私立大学では、「スポーツ推薦入試の制度がある」が39校（59.1%）、「強化指定クラブの制度がある」38校（57.6%）であった。短期大学では、「スポーツ推薦入試の制度がある」が一番多く2校（50.0%）であった。

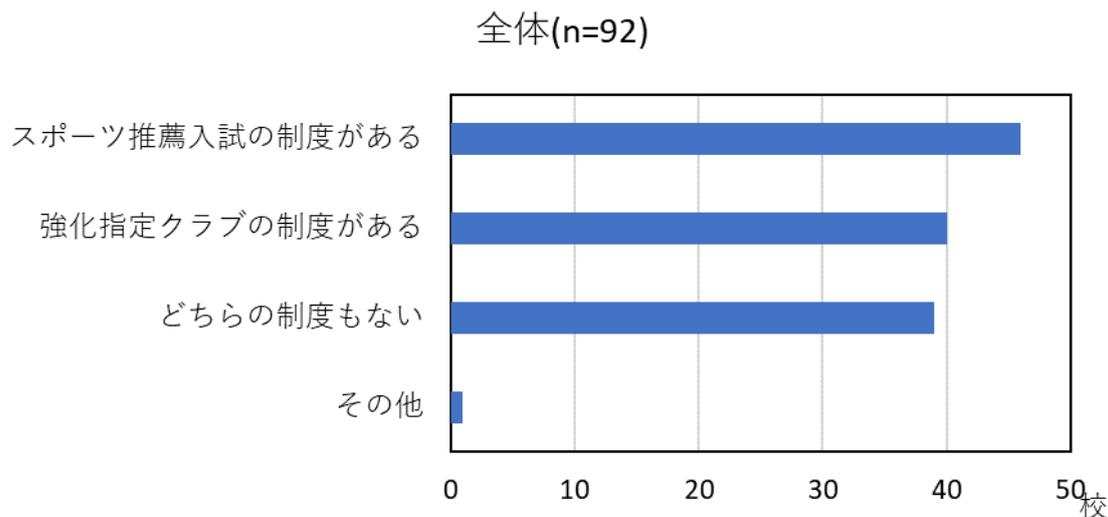


図 21 スポーツ推薦・強化指定クラブの制度について（複数回答）

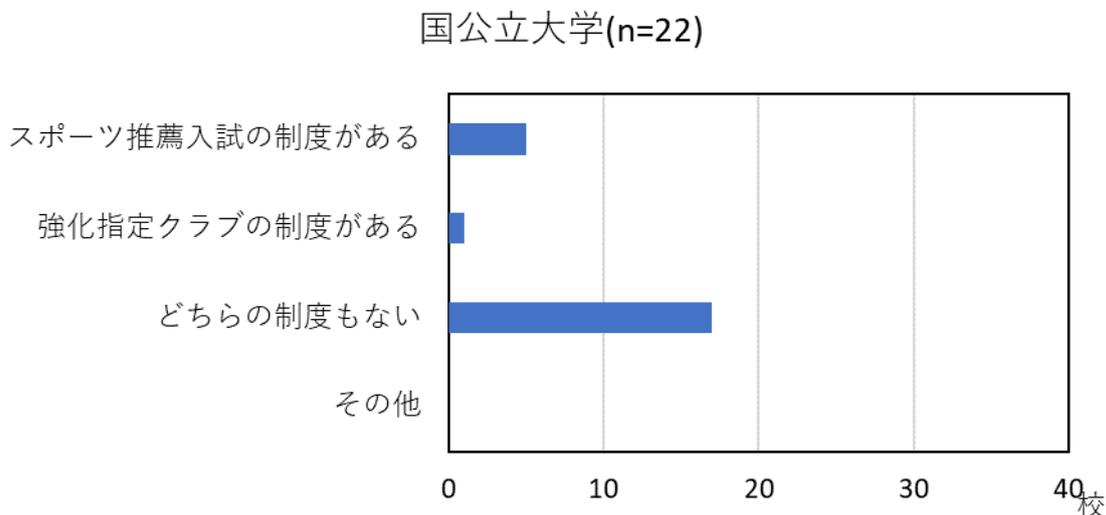


図 21-1 スポーツ推薦・強化指定クラブの制度について（複数回答）

私立大学(n=66)

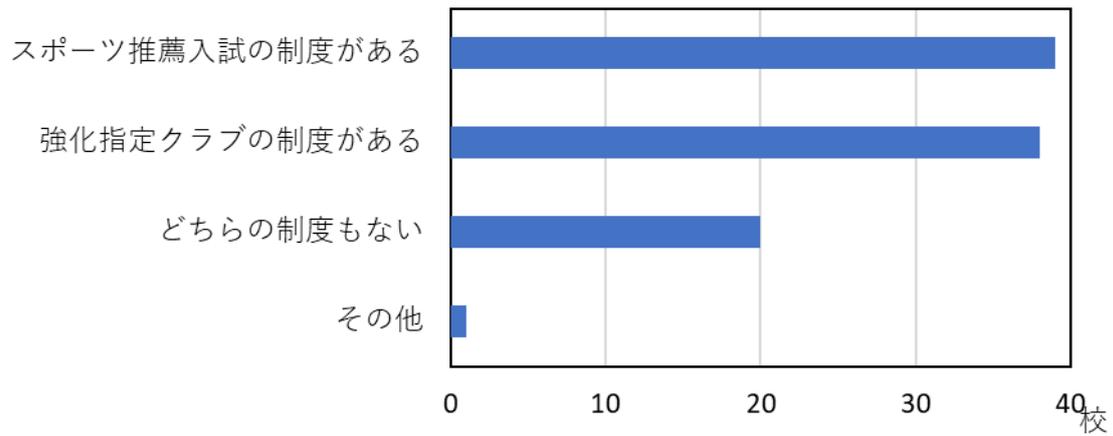


図 21-2 スポーツ推薦・強化指定クラブの制度について（複数回答）

私立短期大学(n=4)

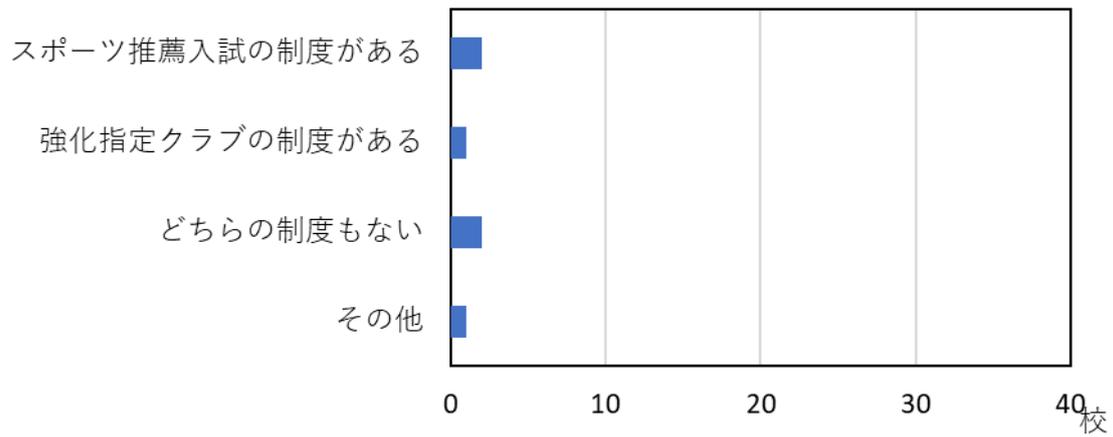


図 21-3 スポーツ推薦・強化指定クラブの制度について（複数回答）

23. 2020年度（前期）のコロナ禍の授業形態について

「2020年度（前期）のコロナ禍の授業形態」について、全体、国公立大学、私立大学、短期大学ごとに図22に示した。

全体では、「オンデマンド」40校（43.5%）、「オンライン（双方向）+オンデマンド」31校（33.7%）、「オンライン（双方向）」23校（25.0%）の順に多く、「対面」は13校（14.1%）であった。国公立大学では、「オンデマンド」9校（40.9%）、「オンライン（双方向）+オンデマンド」8校（36.4%）、「オンライン（双方向）」3校（13.6%）の順に多く、「対面」は2校（9.1%）であった。私立大学では、「オンデマンド」30校（45.5%）、「オンライン（双方向）+オンデマンド」23校（34.8%）、「オンライン（双方向）」20校（30.3%）の順に多く、「対面」は9校（13.6%）であった。短期大学では、「対面」「対面+オンデマンド」「休講」2校（50.0%）であり、「オンライン（双方向）」「オンライン（双方向）+オンデマンド」0.0%であった。

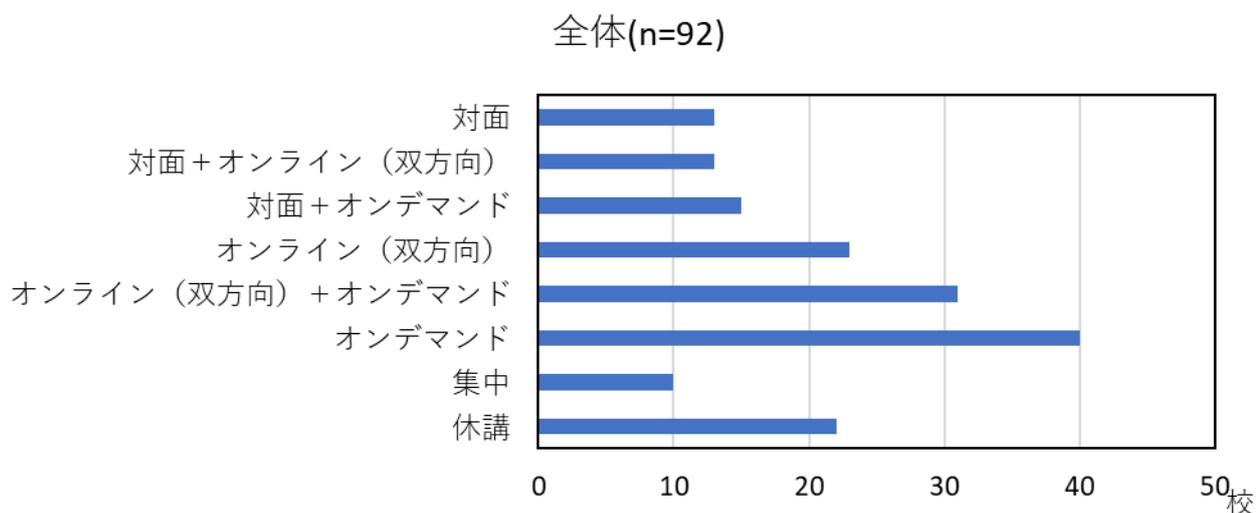


図22 2020年度（前期）のコロナ禍の授業形態について（複数回答）

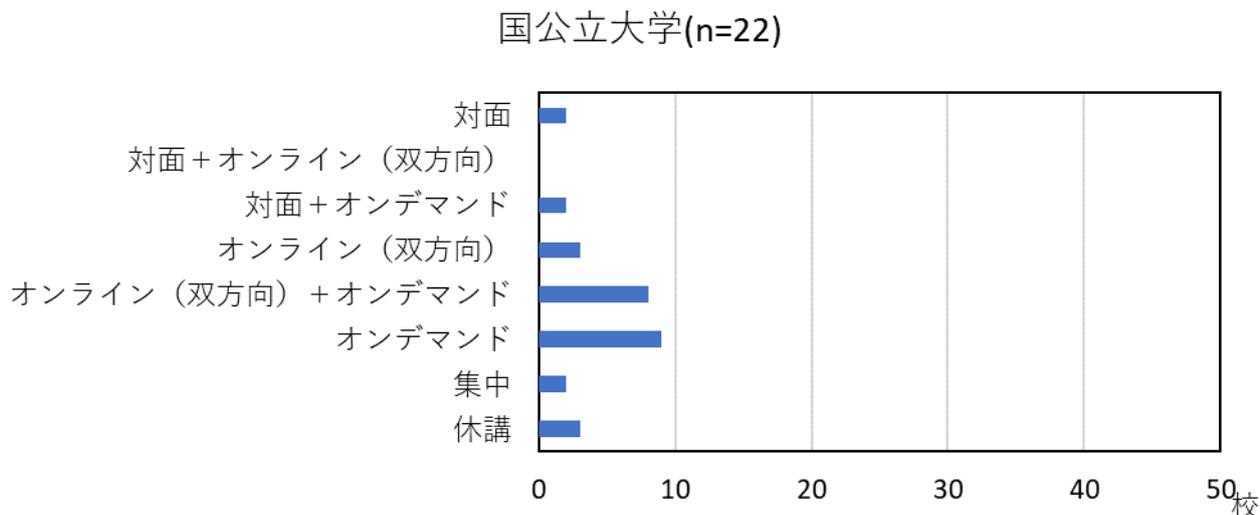


図22-1 2020年度（前期）のコロナ禍の授業形態について（複数回答）

私立大学(n=66)

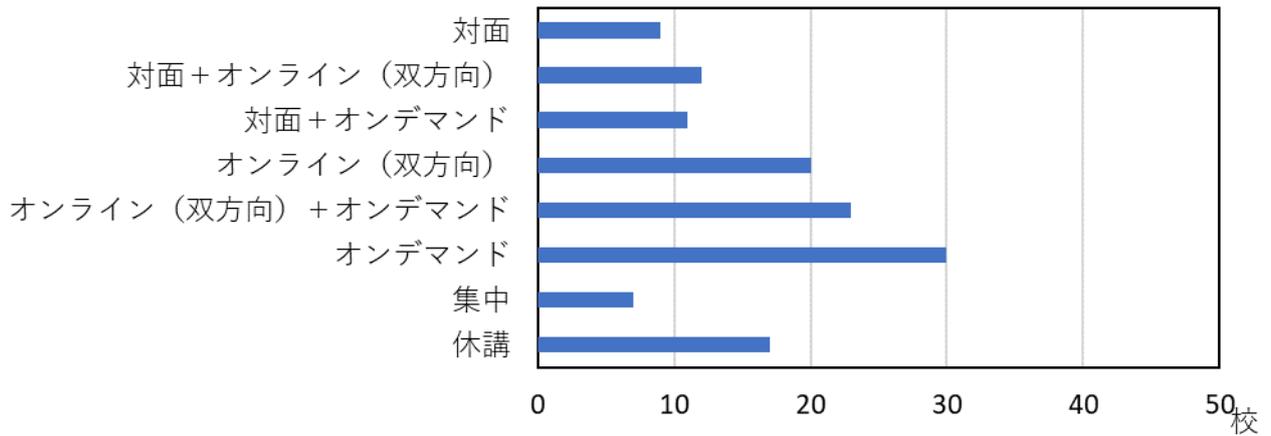


図 22-2 2020 年度 (前期) のコロナ禍の授業形態について (複数回答)

私立短期大学(n=4)

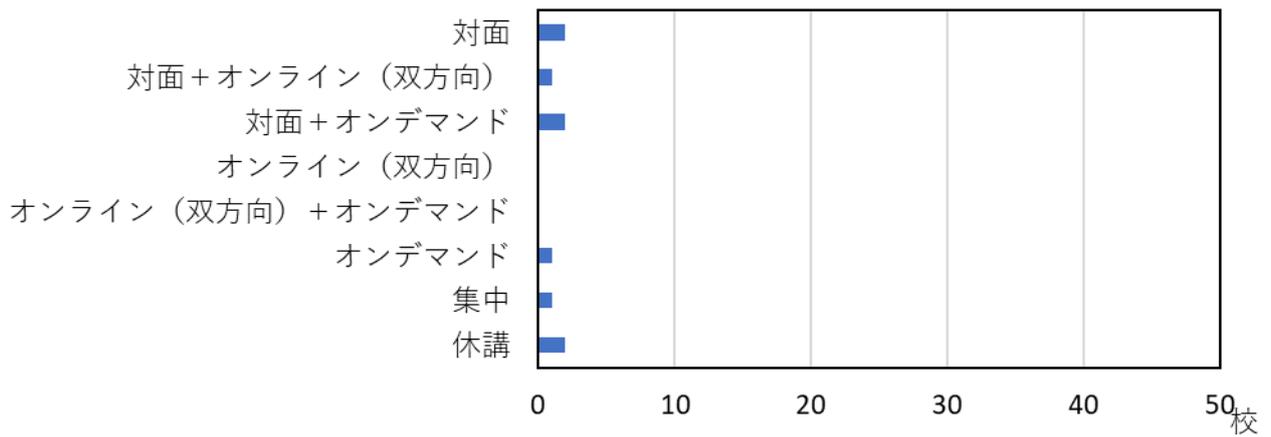


図 22-3 2020 年度 (前期) のコロナ禍の授業形態について (複数回答)

2 4. 2020 年度（後期）のコロナ禍の授業形態について

「2020 年度（後期）のコロナ禍の授業形態」について、全体、国公立大学、私立大学、短期大学ごとに図 23 に示した。

全体では、「対面+オンデマンド」39 校（42.4%）、「オンデマンド」28 校（30.4%）、「オンライン（双方向）+オンデマンド」「対面」26 校（28.3%）の順に多かった。国公立大学では、「対面+オンデマンド」12 校（54.5%）、「オンデマンド」8 校（36.4%）、「オンライン（双方向）+オンデマンド」「対面」6 校（27.3%）の順に多かった。私立大学では、「対面+オンデマンド」27 校（40.9%）、「オンライン（双方向）+オンデマンド」「オンデマンド」20 校（30.3%）、「対面+オンライン（双方向）」19 校（28.8%）の順に多く、「対面」は 16 校（24.2%）であった。短期大学では、「対面」4 校（100.0%）であり、「対面+オンライン（双方向）」「集中」「休講」1 校（25.0%）であった。

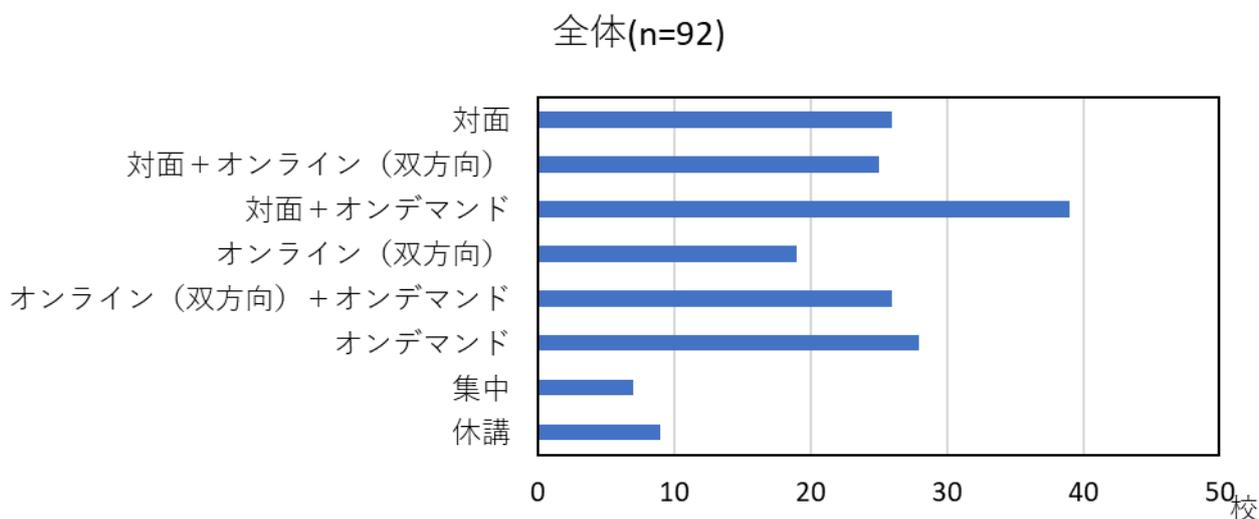


図 23 2020 年度（後期）のコロナ禍の授業形態について（複数回答）

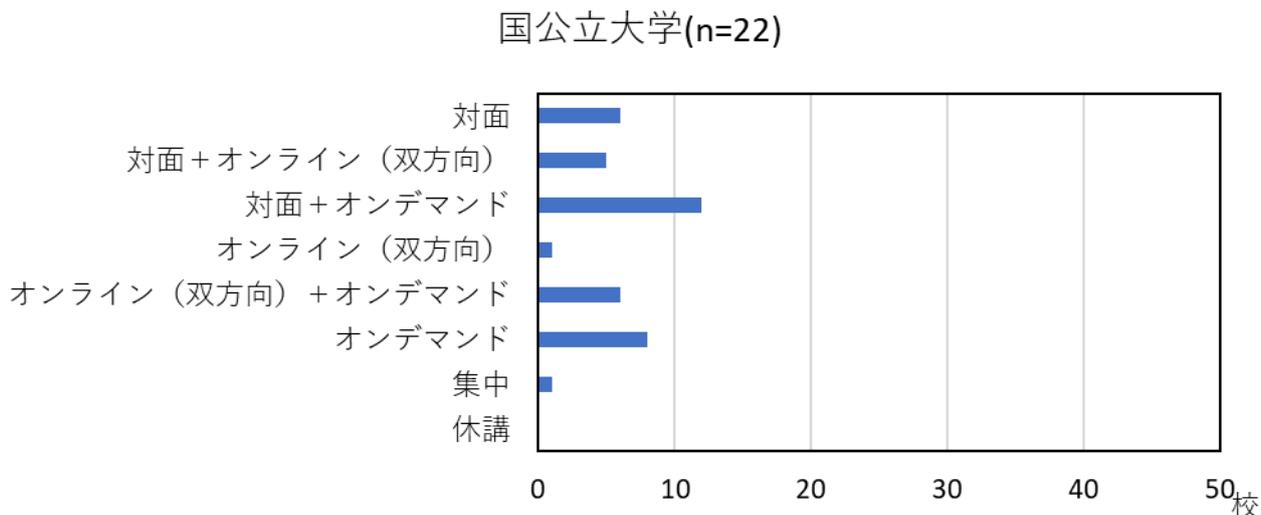


図 23-1 2020 年度（後期）のコロナ禍の授業形態について（複数回答）

私立大学(n=66)

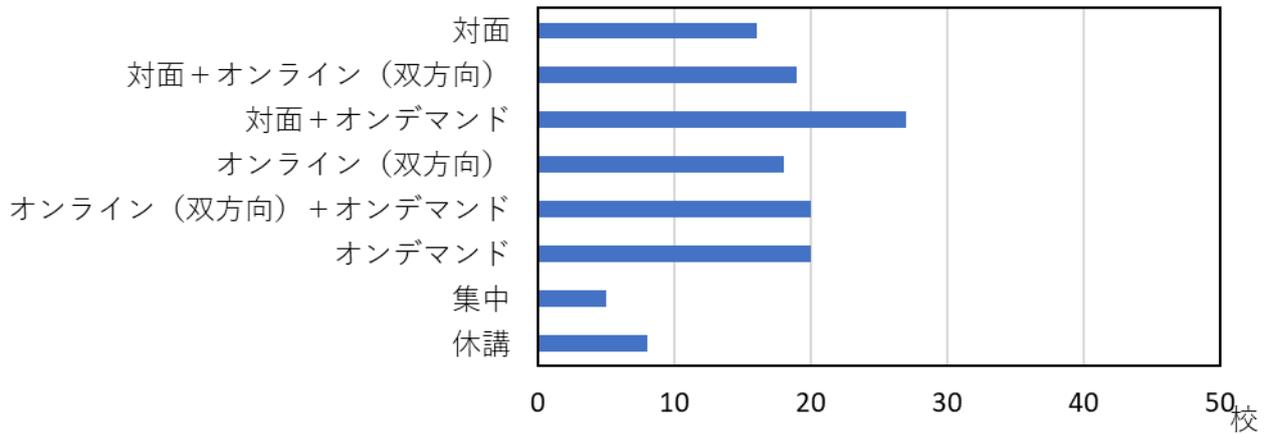


図 23-2 2020 年度（後期）のコロナ禍の授業形態について（複数回答）

私立短期大学(n=4)

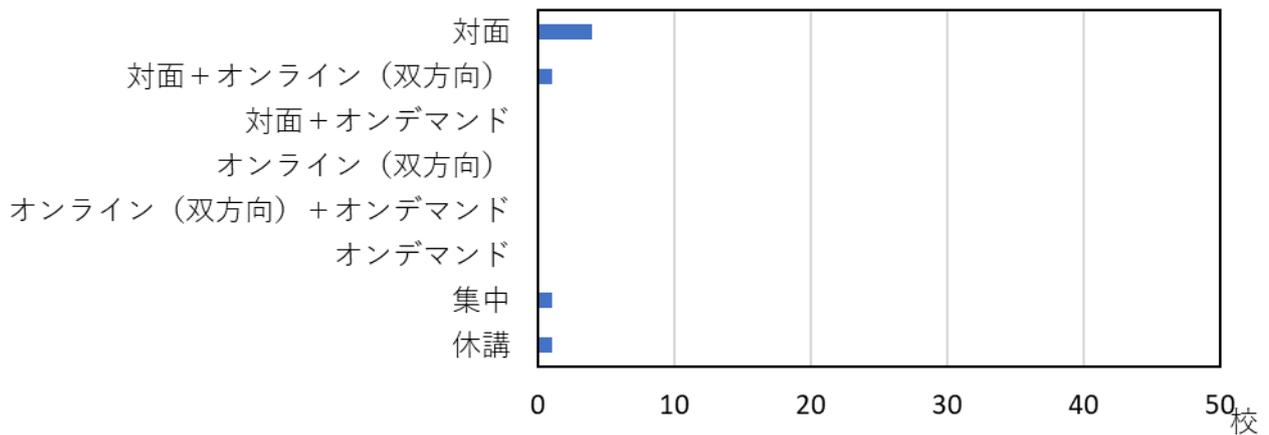


図 23-3 2020 年度（後期）のコロナ禍の授業形態について（複数回答）

25. 2021年度（前期）のコロナ禍の授業形態について

「2021年度（前期）のコロナ禍の授業形態」について、全体、国公立大学、私立大学、短期大学ごとに図24に示した。

全体では、「対面」49校（53.3%）、「対面+オンデマンド」43校（46.7%）、「対面+オンライン（双方向）」31校（33.7%）の順に多かった。国公立大学では、「対面+オンデマンド」12校（54.5%）、「オンデマンド」8校（36.4%）、「オンライン（双方向）+オンデマンド」「対面」6校（27.3%）の順に多かった。私立大学では、「対面」「対面+オンデマンド」33校（50.0%）、「対面+オンライン（双方向）」25校（37.9%）、「オンライン（双方向）+オンデマンド」12校（18.2%）の順に多かった。短期大学では、「対面」4校（100.0%）であり、「対面+オンライン（双方向）」「集中」「休講」1校（25.0%）であった。

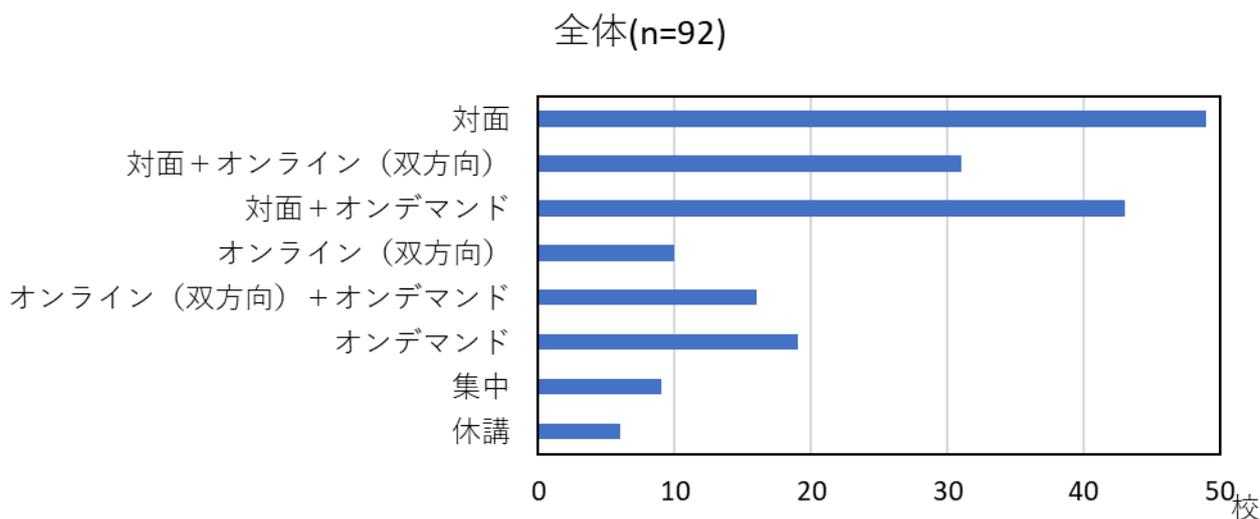


図24 2021年度（前期）のコロナ禍の授業形態について（複数回答）

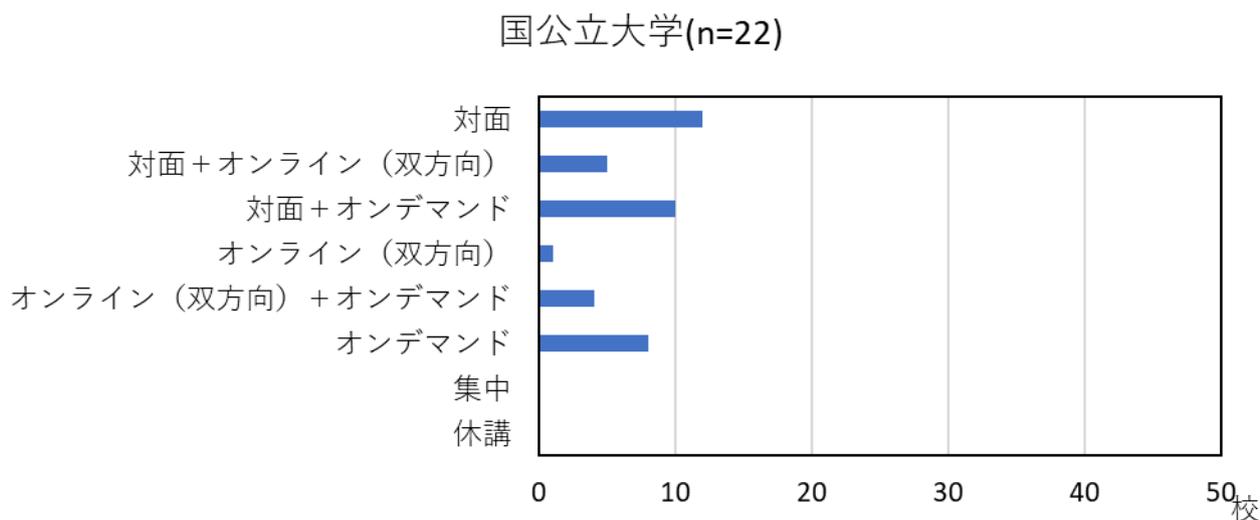


図24-1 2021年度（前期）のコロナ禍の授業形態について（複数回答）

私立大学(n=66)

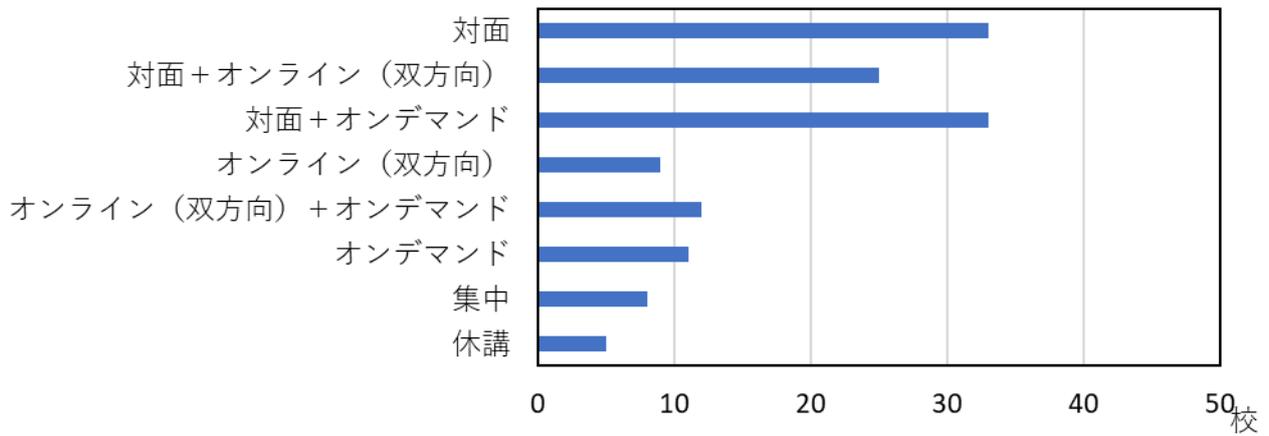


図 24-2 2021 年度（前期）のコロナ禍の授業形態について（複数回答）

私立短期大学(n=4)

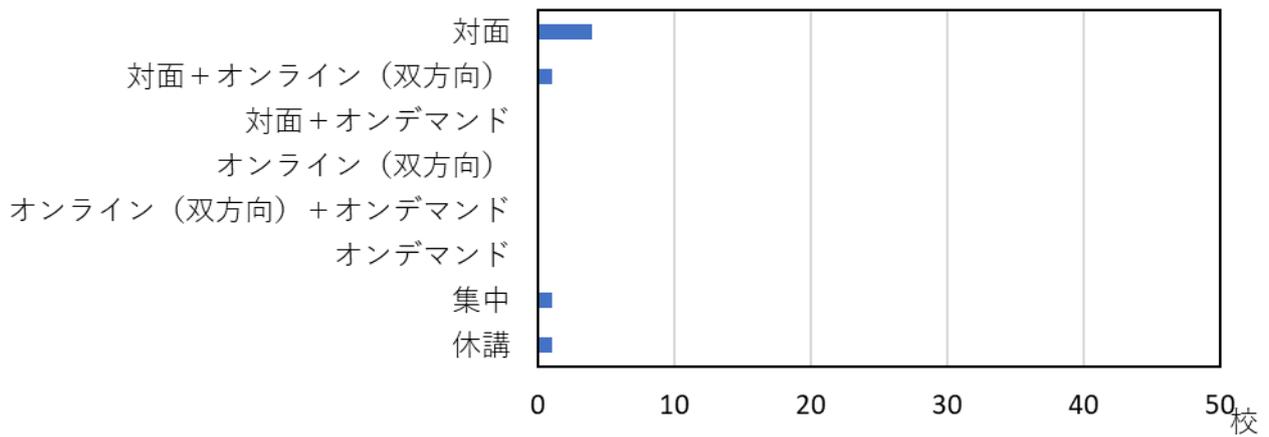


図 24-3 2021 年度（前期）のコロナ禍の授業形態について（複数回答）

26. 2021年度（後期）のコロナ禍の授業形態について

「2021年度（後期）のコロナ禍の授業形態」について、全体、国公立大学、私立大学、短期大学ごとに図24に示した。

全体では、「対面」57校（62.0%）、「対面+オンデマンド」44校（47.8%）、「対面+オンライン（双方向）」30校（32.6%）の順に多かった。国公立大学では、「対面」13校（59.1%）、「対面+オンデマンド」11校（50.0%）、「対面+オンライン（双方向）」「オンデマンド」7校（31.8%）の順に多かった。私立大学では、「対面」40校（60.6%）、「対面+オンデマンド」33校（50.0%）、「対面+オンライン（双方向）」22校（33.3%）の順に多かった。短期大学では、「対面」4校（100.0%）であり、「対面+オンライン（双方向）」「集中」「休講」1校（25.0%）であった。

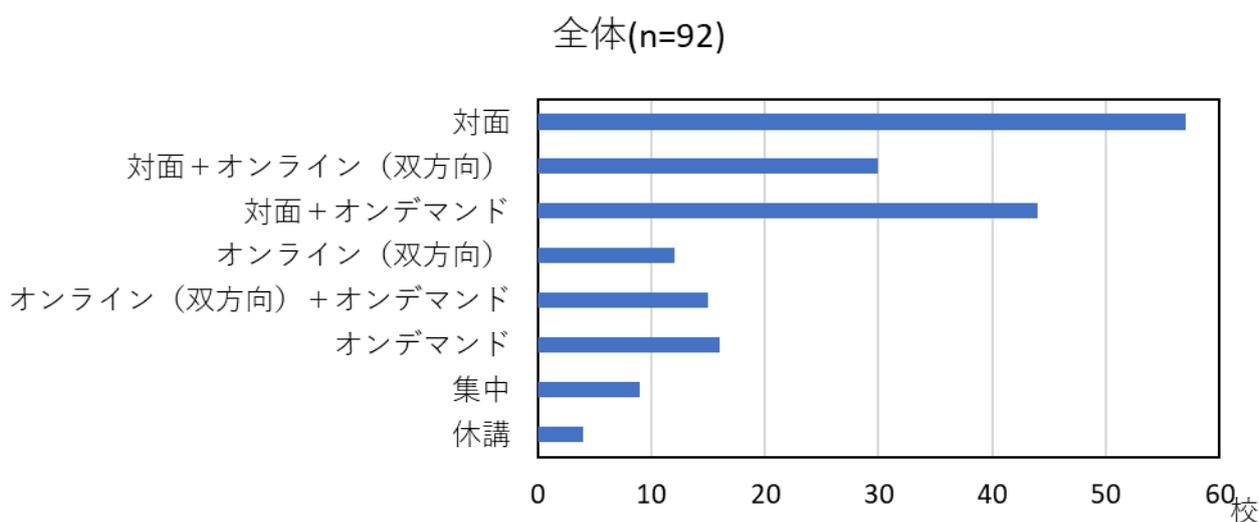


図25 2021年度（後期）のコロナ禍の授業形態について（複数回答）

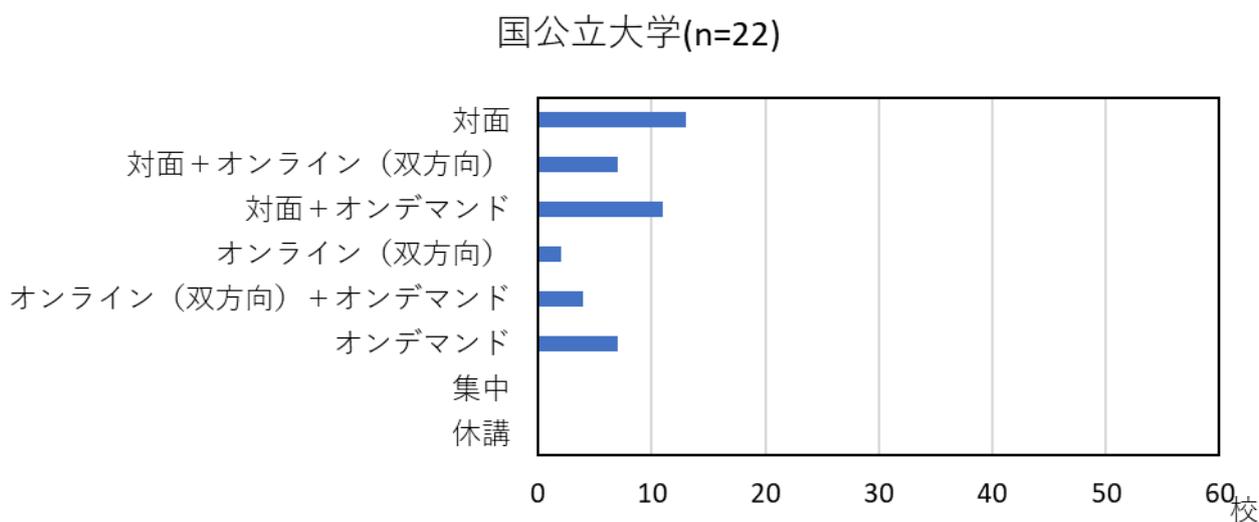


図25-1 2021年度（後期）のコロナ禍の授業形態について（複数回答）

私立大学(n=66)

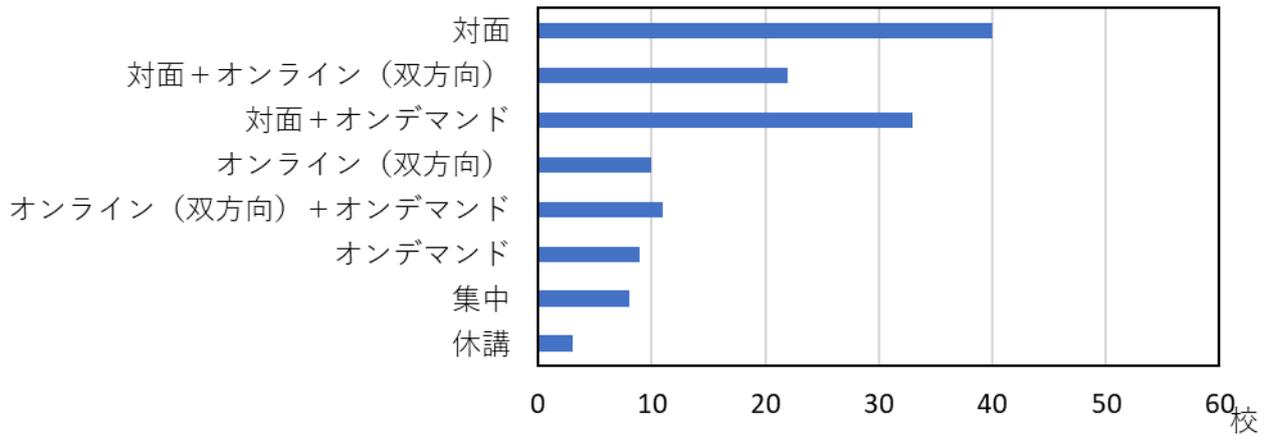


図 25-2 2021 年度（後期）のコロナ禍の授業形態について（複数回答）

私立短期大学(n=4)

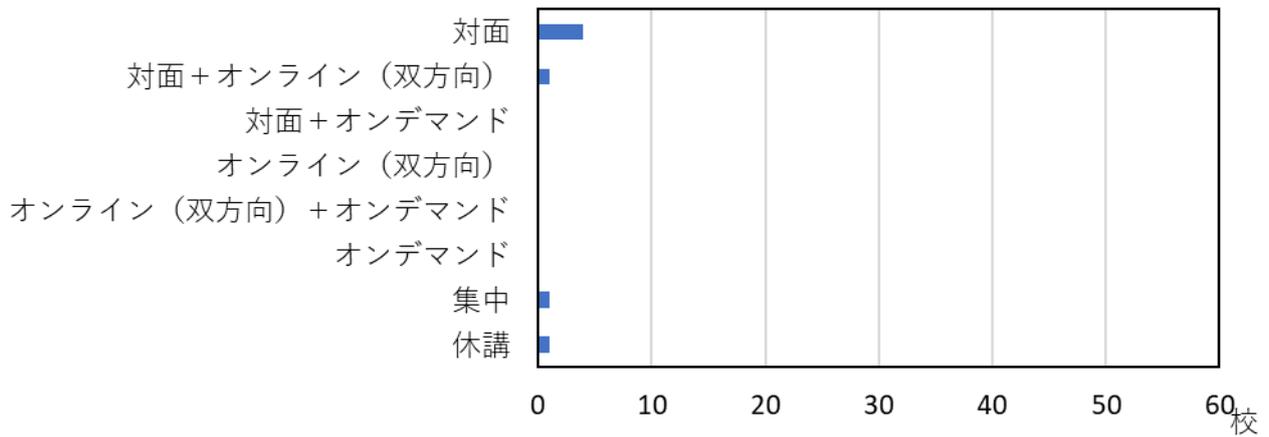


図 25-3 2021 年度（後期）のコロナ禍の授業形態について（複数回答）

27. 2022年度（前期・後期）のコロナ禍の授業形態について

「2022年度（前期・後期）のコロナ禍の授業形態」について、全体、国公立大学、私立大学、短期大学ごとに図24に示した。

全体では、「対面」80校（87.0%）、「対面+オンデマンド」28校（30.4%）、「対面+オンライン（双方向）」19校（20.7%）の順に多かった。国公立大学では、「対面」21校（95.5%）、「対面+オンデマンド」7校（31.8%）、「オンデマンド」5校（22.7%）の順に多かった。私立大学では、「対面」55校（83.3%）、「対面+オンデマンド」21校（31.8%）、「対面+オンライン（双方向）」15校（22.7%）の順に多かった。短期大学では、「対面」4校（100.0%）、「集中」1校（25.0%）であった。

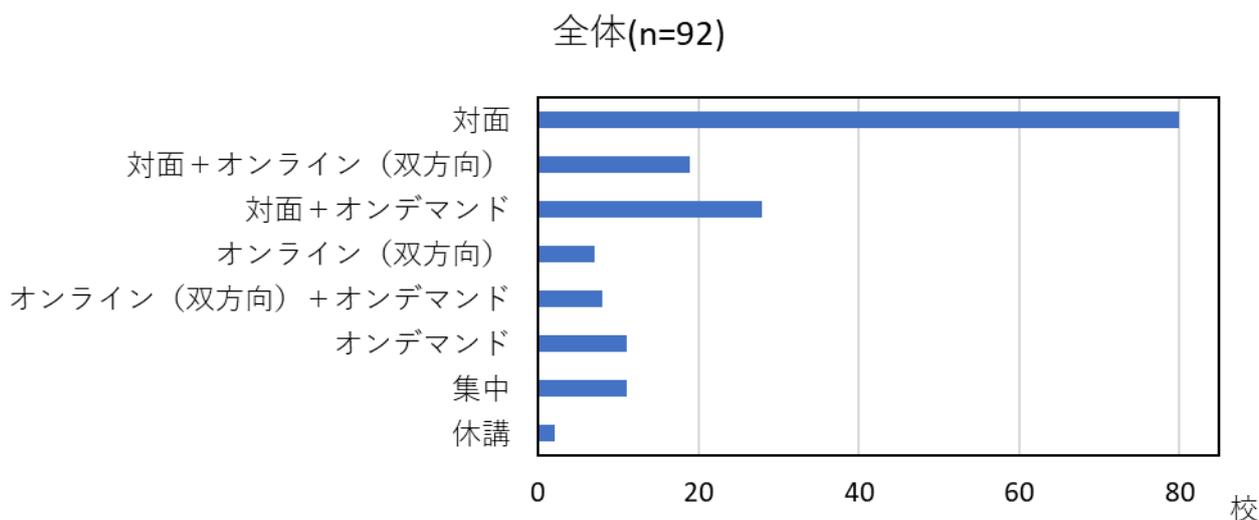


図26 2022年度（前期・後期）のコロナ禍の授業形態について（複数回答）

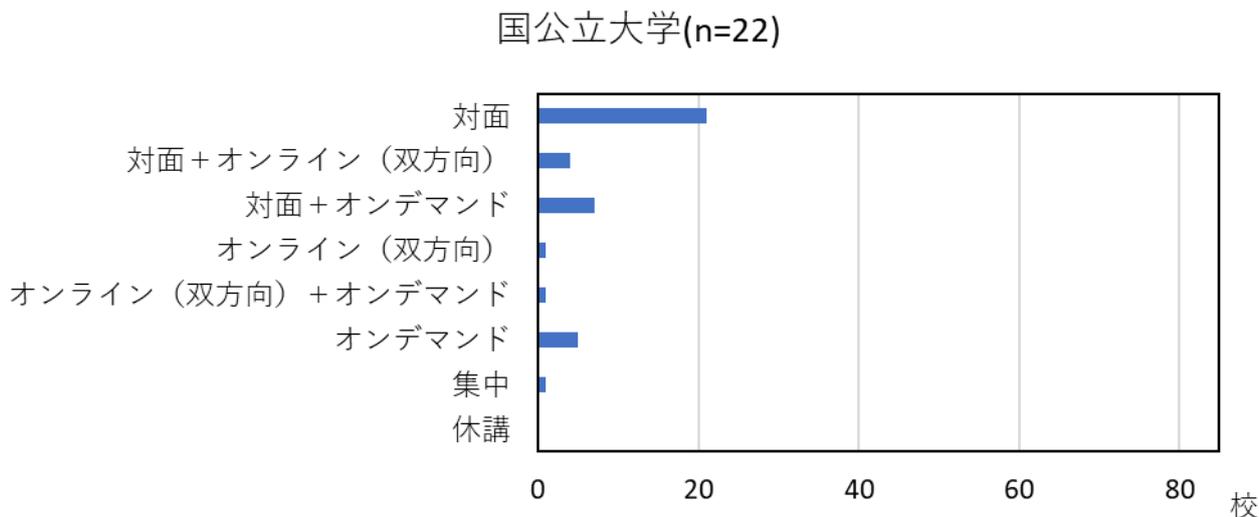


図26-1 2022年度（前期・後期）のコロナ禍の授業形態について（複数回答）

私立大学(n=66)

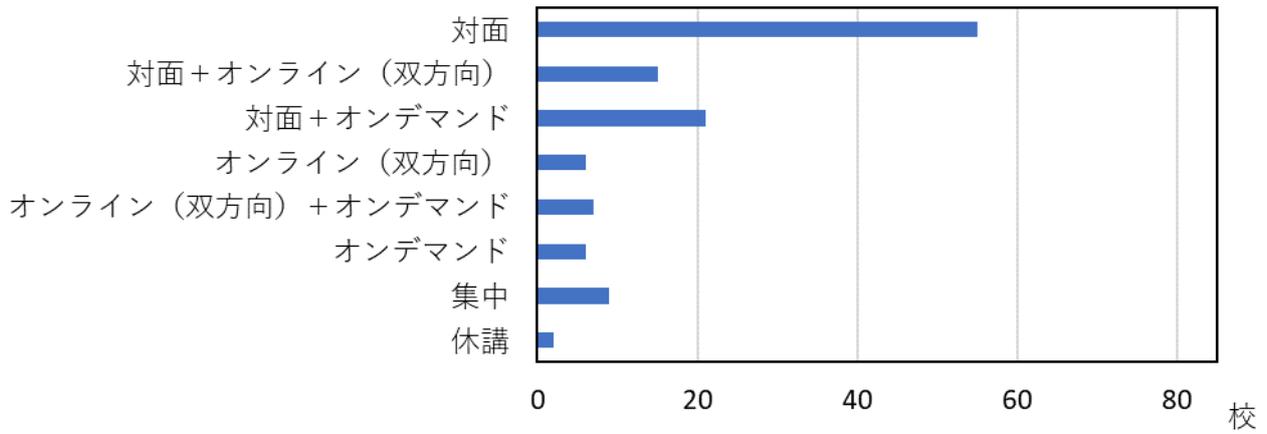


図 26-2 2022 年度（前期・後期）のコロナ禍の授業形態について（複数回答）

私立短期大学(n=4)

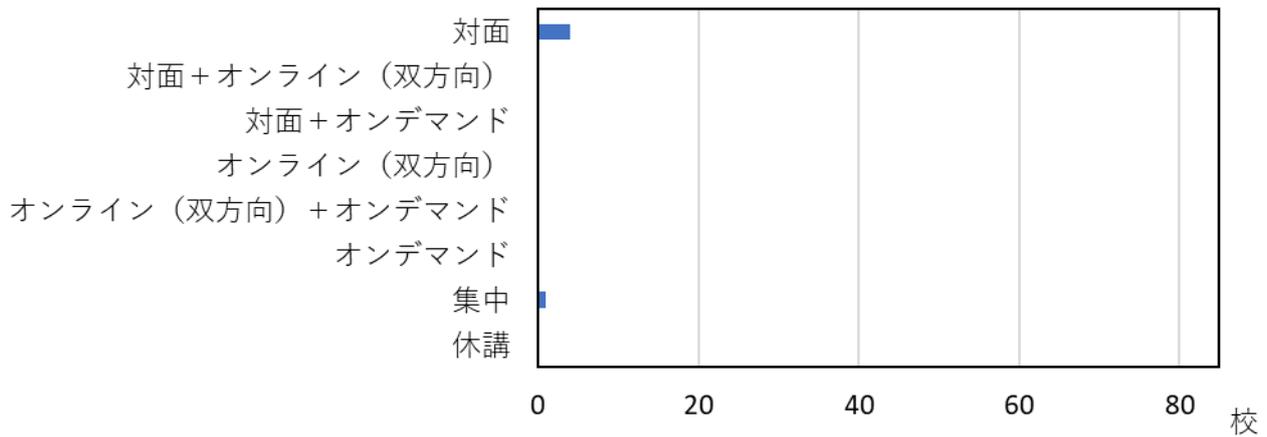


図 26-3 2022 年度（前期・後期）のコロナ禍の授業形態について（複数回答）

また、2020～2022年度の授業形態の推移について図27に示した。

2020年度は、オンデマンドやオンライン（双方向）を組み合わせた、非対面の授業形態の比率が多かったのに対し、年々と対面の比率が増えていることがわかる。

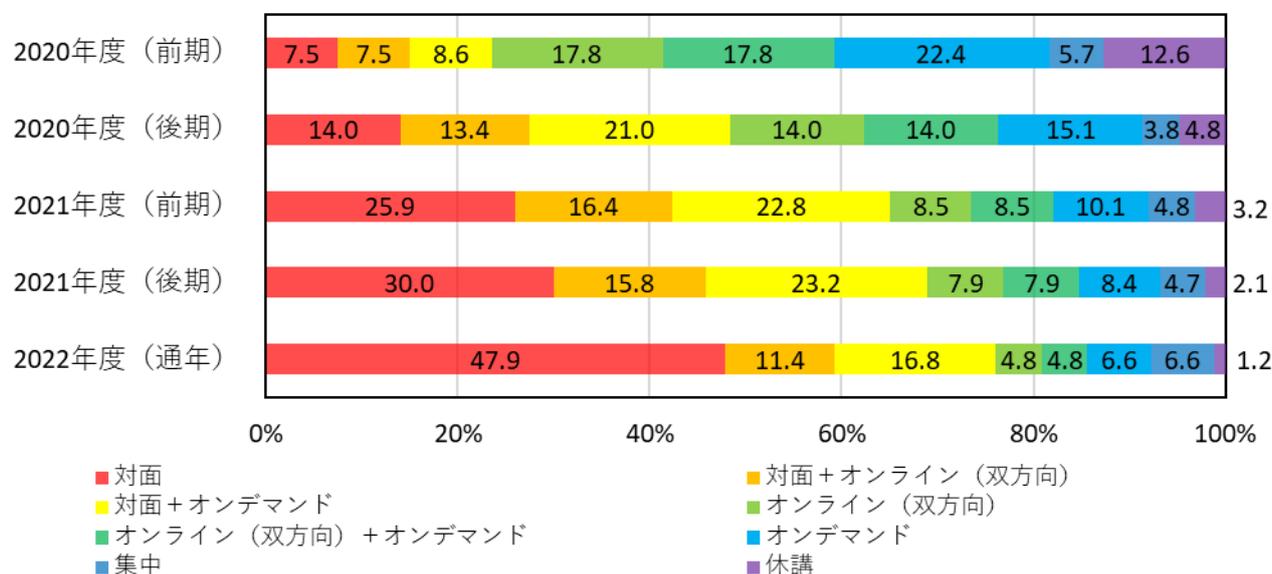


図27 2020～2022年度コロナ禍の授業形態の推移（複数回答）

2022年度 大学・短期大学の保健体育教育実態調査

昨年度（2022年度）における実態、およびコロナ禍（2020年度～2022年度）における実態について、ご回答をお願いします。

回答期間は、8/20までです。



* 必須の質問です

1. 学校名、記入担当者の所属学部・学科等、お名前、メールアドレスをご記入ください。

学校名 *

回答を入力

所属学部・学科等 *

回答を入力

記入担当者名 *

回答を入力

メールアドレス *

回答を入力



2. 貴学について当てはまるものをお答えください。*

- 国公立4年制大学
- 私立4年制大学
- 国公立短期大学
- 私立短期大学
- 大学校

3. 貴学の学部の総数をお答えください。*

- 1学部
- 2学部
- 3~4学部
- 5~9学部
- 10~15学部
- 16~20学部
- 21学部以上

4. 貴学において教養の保健体育の授業を担当している教員は何名ですか。それぞれお答えください。



専任教員（任期制含む）*

- 0名
- 1名（設問5は「その他」を選択し、所属等を明記してください）
- 2名
- 3～4名
- 5～9名
- 10～29名
- 30～49名
- 50名以上

非常勤教員*

- 0名
- 1名
- 2名
- 3～4名
- 5～9名
- 10～29名
- 30～49名
- 50名以上



その他（特任、嘱託等） *

- 0名
- 1名
- 2名
- 3～4名
- 5～9名
- 10～29名
- 30～49名
- 50名以上

5. 設問4における専任教員の所属はまとまっていますか。あてはまるもの1つ *
を選択してください。（専任教員が1名の場合は、その他を選択し所属を回答し
てください。）

- 学部・学科・研究室、センターなど1つの組織に教員が所属している
- 各教員が、学部等に分散して所属している
- その他: _____

6. 貴学では、スポーツ・体育・健康関連の実技科目を必修科目（必ず1科目以
上履修しなければ卒業できない科目）として開講していますか？あてはまるもの
1つを選択してください。 *

- 全学で開講している
- 一部の学部または学科のみを対象に開講している
- すべての学部・学科で開講していない



7. 貴学では、スポーツ・体育・健康関連の講義科目を必修科目として開講して *
いますか？あてはまるもの1つを選択してください。

- 全学で開講している
- 一部の学部または学科のみを対象に開講している
- すべての学部・学科で開講していない

8. 貴学では、スポーツ・体育・健康関連の演習科目を必修科目として開講して *
いますか？あてはまるもの1つを選択してください。※ここで演習とは、講義だ
け実技だけ以外の形式の授業のことを指します（講義+実技など）。

- 全学で開講している
- 一部の学部または学科のみを対象に開講している
- すべての学部・学科で開講していない

9. 貴学では、スポーツ・体育・健康関連の実技科目を選択科目（履修しなくて *
も卒業できる科目）として開講していますか？あてはまるもの1つを選択して
ください。

- 全学で開講している
- 一部の学部または学科のみを対象に開講している
- すべての学部・学科で開講していない

10. 貴学では、スポーツ・体育・健康関連の講義科目を選択科目（履修しな *
くても卒業できる科目）として開講していますか？あてはまるもの1つを選択し
てください。

- 全学で開講している
- 一部の学部または学科のみを対象に開講している
- すべての学部・学科で開講していない



1 1. 貴学では、スポーツ・体育・健康関連の演習科目を選択科目（履修しなくても卒業できる科目）として開講していますか？あてはまるもの1つを選択してください。*

※ここで演習とは、講義だけ実技だけ以外の形式の授業のことを指します（講義+実技など）

- 全学で開講している
- 一部の学部または学科のみを対象に開講している
- すべての学部・学科で開講していない

1 2. 形式や種目に関わらず、体力測定を実施しましたか。あてはまるもの1つを選択してください。*

- 全学で実施した
- 一部の学部・学科・授業で実施した
- 全学で実施しなかった（設問1 3では「実施していない」を選択してください）

1 3. 体力測定の実施種目を回答してください。*

- 新体カテストの全種目を実施
- 新体カテストの一部の種目を実施
- 新体カテストの全種目に加えて独自の種目を実施
- 新体カテストの一部の種目に加えて独自の種目を実施
- 独自の種目のみで実施
- 実施していない
- その他: _____



14. 体力測定を実施する上での課題・問題点がありましたら、ご記入ください。

回答を入力

15. 体力測定の結果をどのように活用していますか？あてはまるものすべてを選択して下さい。

「実施していない」場合は、設問16へ

- 能力別クラス分け
- 履修者の運動への動機付け
- 学生個人への運動処方
- 研究資料（紀要など）
- 授業担当者の資料（学生の実態把握）
- 学生のレポートや演習課題のデータ
- その他: _____

16. 身体的障害（視・聴覚障害、怪我によるものを含む）を持った学生への対応はどのような形で行われていますか。あてはまるもの1つを選択してください。*

- 健常者と同じクラスで行う
- 障害者用のクラスがある
- 特にない
- その他: _____



17. 精神的障害（性同一性障害、学習障害を含む）を持った学生への対応はどのような形で行われていますか。あてはまるもの1つを選択してください。*

健常者と同じクラスで行う

障害者用のクラスがある

特にない

その他: _____

18. 貴学には、スポーツ・体育・健康関連の科目においてTA制度や助手制度など、授業をサポートする人員を雇用する制度はありますか。*

ある

ない

19. 学生による授業評価はどのように行われていますか？あてはまるものすべてを選択してください。*

全学規模

学部単位

学科単位

保健体育組織単位

教員個人

実施されていない

20. 貴学で開講しているユニークなスポーツ・体育・健康関連の授業の実践例がありましたら、具体的内容と課題を教えてください。（例：留学生向けの外国語による授業など）

回答を入力



2 1. 貴学において保健体育教員が組織として実施・参加しているFDプログラム *
について、あてはまるものすべてを選択してください。

- 行っていない
- 授業研究会の実施
- 授業の相互参観
- 共通テキストの作成
- 外部研修会への派遣
- 自己点検・評価の実施
- 第三者評価の実施
- その他: _____

2 2. 貴学のスポーツ推薦・強化指定クラブの制度について、あてはまるものす
べてを選択してください。

- スポーツ推薦入試の制度がある
- 強化指定クラブの制度がある
- どちらの制度もない
- その他: _____

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 [不正行為の報告](#) - [利用規約](#) - [プライバシーポリシー](#)

Google フォーム



2020～2022年度のコロナ禍における教養の保健体育の実技授業について回答してください。

23. 2020年度（前期）のコロナ禍の授業形態を回答してください。併用した場合、科目や教員ごとに異なる場合には、複数回答してください。

- 対面
- 対面+オンライン（双方向）
- 対面+オンデマンド
- オンライン（双方向性）
- オンライン（双方向）+オンデマンド
- オンデマンド
- 集中
- 休講
- その他: _____

24. 2020年度（後期）のコロナ禍の授業形態を回答してください。併用した場合、科目や教員ごとに異なる場合には、複数回答してください。

- 対面
- 対面+オンライン（双方向）
- 対面+オンデマンド
- オンライン（双方向性）
- オンライン（双方向）+オンデマンド
- オンデマンド
- 集中
- 休講
- その他: _____



25. 2021度（前期）のコロナ禍の授業形態を回答してください。併用した場合、科目や教員ごとに異なる場合には、複数回答してください。

- 対面
- 対面+オンライン（双方向）
- 対面+オンデマンド
- オンライン（双方向性）
- オンライン（双方向）+オンデマンド
- オンデマンド
- 集中
- 休講
- その他: _____

26. 2021度（後期）のコロナ禍の授業形態を回答してください。併用した場合、科目や教員ごとに異なる場合には、複数回答してください。

- 対面
- 対面+オンライン（双方向）
- 対面+オンデマンド
- オンライン（双方向性）
- オンライン（双方向）+オンデマンド
- オンデマンド
- 集中
- 休講
- その他: _____



27. 2022度（通年、前期、後期）のコロナ禍の授業形態を回答してください。
併用した場合、科目や教員ごとに異なる場合には、複数回答してください。

- 対面
- 対面+オンライン（双方向）
- 対面+オンデマンド
- オンライン（双方向性）
- オンライン（双方向）+オンデマンド
- オンデマンド
- 集中
- 休講
- その他: _____

28. 本調査に対してご意見がございましたらご記入下さい。

回答を入力

戻る

送信

[フォームをクリア](#)

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 [不正行為の報告](#) - [利用規約](#) - [プライバシーポリシー](#)

Google フォーム



実態調査実施担当者

吉成 啓子（白百合女子大学） 白川 哉子（昭和女子大学） 竹市 勝（国士舘大学）
長谷川 千里（東京女子体育大学） 高橋 将（大東文化大学） 戸枝 美咲（日本女子大学）
銭谷 初穂（国際武道大学）

『2022 年度 大学・短期大学の保健体育教育実態調査報告書』

発行日 2024（令和 6）年 6 月 15 日
編 集 公益社団法人 全国大学体育連合 調査部
発行者 長谷山 彰
発行所 公益社団法人 全国大学体育連合
〒169-0075
東京都新宿区高田馬場 1-3-13
第 2 天台ビル 303 号
TEL 03(3232)5738
FAX 03(3232)5872
E-mail : info@daitairen.or.jp
URL. <http://www.daitairen.or.jp>